

薬剤師のための

アンチ・ドーピング ガイドブック

2021 年版

作 成

日本薬剤師会

日本スポーツ協会(スポーツ医・科学委員会 アンチ・ドーピング部会)

協 力

三重県薬剤師会

問い合わせ対応手順

本書は、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」であり、元々、薬局・薬剤師向けに作成したのですが、現状、選手等を含めた利用が増えてきております。そのため、2019 年度から、問い合わせ対応手順に、「選手等が実施する手順」を加えました。

本書は、使用可能薬を一般用医薬品等・医療用医薬品に分け、さらにそれぞれ薬効群別に細分しており、使用可能薬を探す上で利便性の高いものとなっています。一方、ある医薬品が使用できるのかできないのかは、索引を使うことで手軽に検索することが出来ますので、ご活用ください。

なお、質問の内容によっては、都道府県薬剤師会から、本会、さらに、日本アンチ・ドーピング機構への問合せを実施致します関係上、回答にお時間がかかることがあります。

○参考

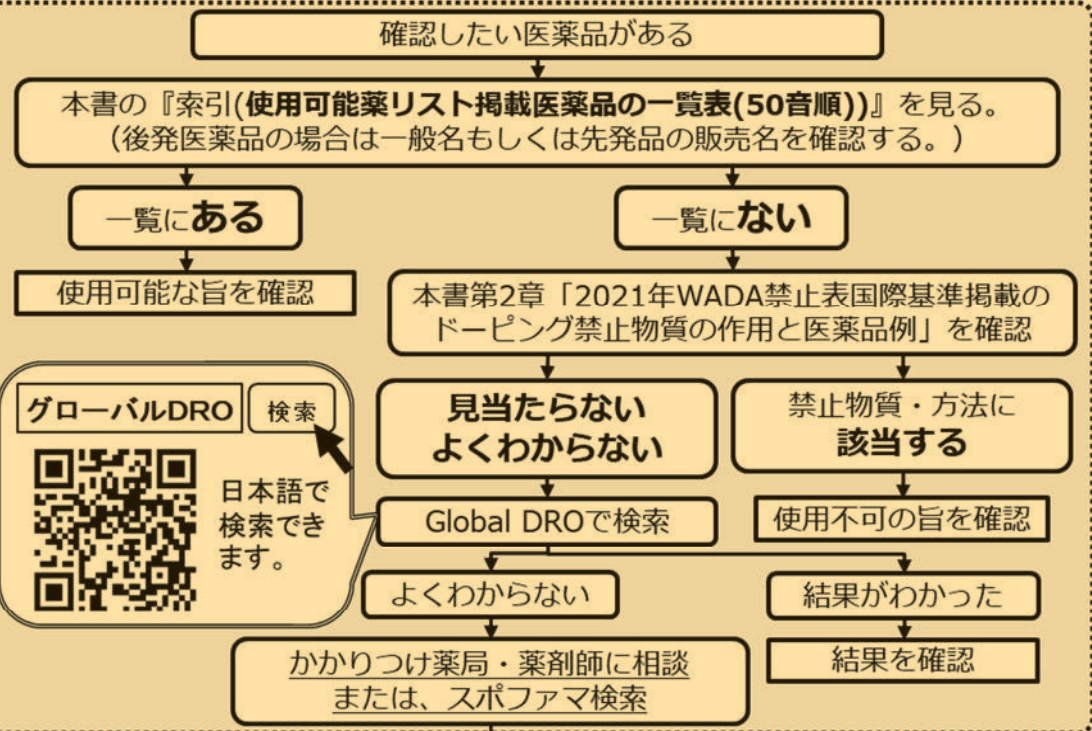
- ・グローバルDRO <https://www.globaldro.com/JP/search>

The screenshot shows the Global DRO website search page. At the top left is the logo with the text "global DRO アスリートの皆さん、自身の薬について確認を！". Navigation links include HOME, サーチ, ヘルプ, and よくある質問と回答 (FAQS). The search area has four input fields: "ユーザータイプ" (with a dropdown menu for "競技の選択"), "競技" (with a dropdown menu for "競技の選択"), "購入国" (with a dropdown menu for "日本"), and a "検索" button. There is also a search input field and a "検索" button.

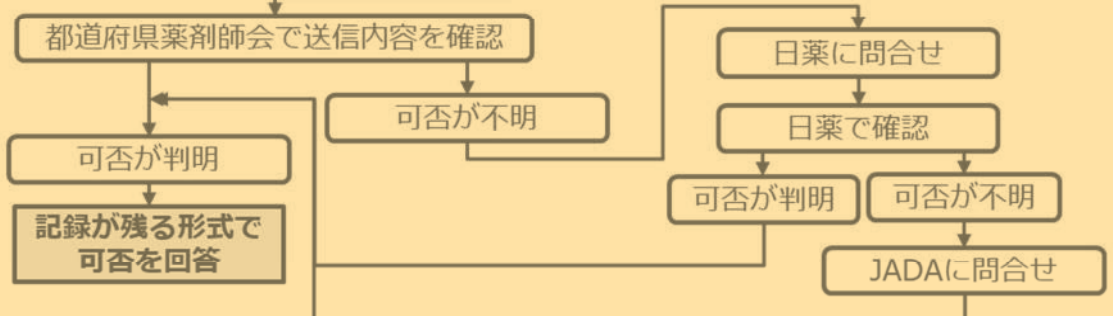
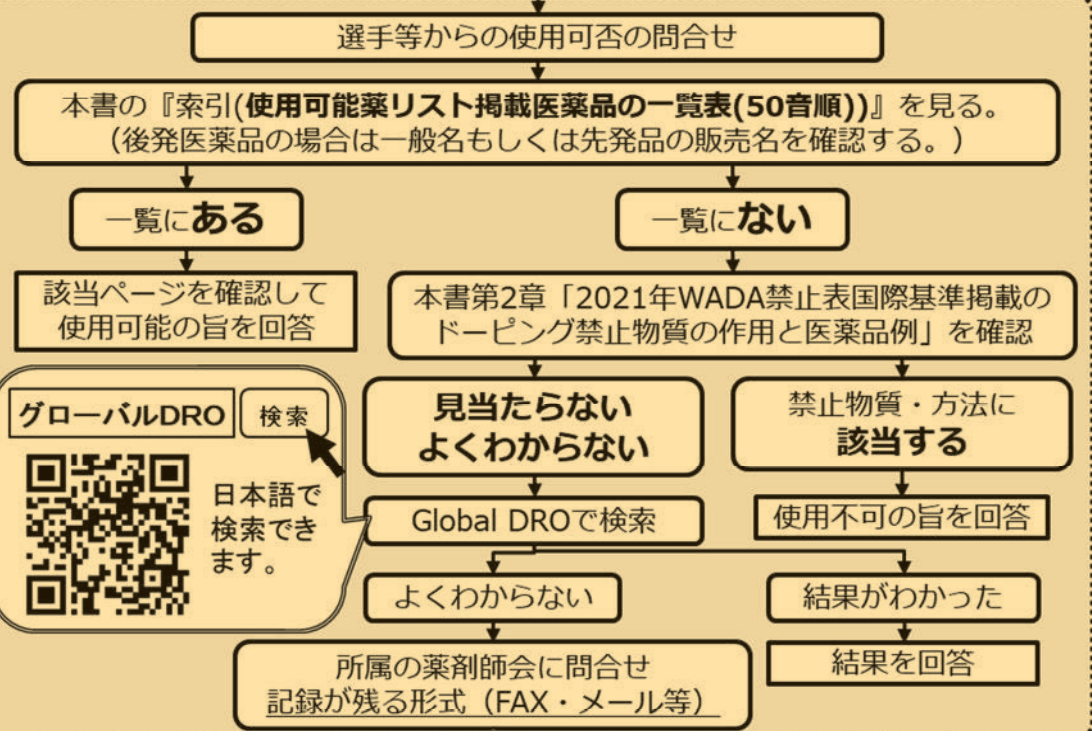
- ・スポーツファーマシスト検索 <http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>
スポーツファーマシスト認定者のうち、情報掲載希望者が掲載されています。

The screenshot shows the Sports Pharmacist search page. At the top left is the logo with the text "Sports Pharmacist スポーツファーマシスト". Navigation links include プライバシーポリシー, よくある質問, and お問い合わせ. The main content area has a heading "お薬に関するお問い合わせは 全国のスポーツファーマシストがお答えします。" and a "マップから絞り込み" section with a map of Japan. Below the map are three search criteria sections: "住所から絞り込み" (with dropdown for "都道府県" and input for "郵便番号" and "住所入力"), "勤務先名で絞り込み" (with input for "入力例:〇〇薬局 等" and checkboxes for "病院・診療所勤務", "薬局勤務", "ドラッグストア勤務", "製薬企業勤務", "大学勤務", and "その他"), and "その他で絞り込み" (with checkboxes for "土・日/祝日 対応可", "夜間対応可(17時～)", "学校薬剤師", "英語対応可", and "手話通訳可"). At the bottom is a "検索" button.

選手等が実施する手順



薬局・薬剤師・スポファマが実施する手順



はじめに

ドーピングは、公正さを基本とするスポーツ競技において重大なルール違反であるというだけでなく、選手の健康そのものにも影響を及ぼす可能性のある危険な行為であり、世界的にも注目を集めている問題です。また、医薬品の供給を担う薬剤師として、医薬品の適正使用という観点からもドーピングは看過できるものではなく、アンチ・ドーピング活動への貢献は薬剤師にとって非常に重要な役割であると考えております。

その一方で、薬物の力を借りて競技力を向上するという明確な目的をもって、不正に禁止物質を使用したわけではないものの、不注意から市販のかぜ薬等を服用した結果、ドーピング陽性と判定されることが危惧されます。例えば、興奮薬としてその使用が禁止されるメチルエフェドリンを含むかぜ薬が数多く市販されています。スポーツドクター等の支援が十分受けられない選手の中には、自分でこのような製品の中に規制薬剤が含まれていることを知らず購入し、使用して「ドーピング」と認定されてしまった事例も報告されています。こうした意図しないドーピングを未然に防止するうえで、日々地域で医薬品の提供に関わっている薬剤師の活用は、極めて効果的な手段と言えるでしょう。

2003年の静岡国体における静岡県薬剤師会の活動を受けて開始した日本薬剤師会のアンチ・ドーピング活動も、今年で18年目を迎えます。この間に開催された国体においては、開催地の薬剤師会並びに薬剤師の皆様のご尽力により、関係団体からもその活動について高い評価を受けており、アンチ・ドーピング活動における薬剤師の存在感と期待感は、年を重ねるごとに確実に高まっています。こうした地道で弛まぬ活動は、本年の国体開催県である三重県にも引き継がれ、薬剤師の新たな職能として更なる浸透が図られるものと確信しています。

また、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が立ち上げ、本会も協力する「公認スポーツファーマシスト認定制度」もすでに13年目を迎えました。競技者等からのドーピングに関する相談に応じ、医薬品に関する知識に基づき適切なアドバイスを行うことで、競技者が安心して医薬品を購入し、使用できる手助けを行うスポーツファーマシストには、各界から大きな期待が寄せられております。引き続き本制度がより効果的に運用されるよう、本会も協力していく所存です。

昨年より続く新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延による未曾有の困難の中、生活様式が様々に制限を受け、我慢の日々が続いております。アンチ・ドーピング活動も一時的にその機会を失っているかに見えますが、このような状況下でも常に知識を磨き、アンチ・ドーピング活動の火を消すことなく、薬剤師のできる国民への貢献の一環として、いつでも選手に寄り添い適切な医薬品使用ができるように準備をしている皆様の誇りに思います。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会については、その開催の可否が、いまだ先の見えない状況にありますが、国際的なスポーツイベント開催の有無にかかわらず、これからも薬剤師の職能としてアンチ・ドーピング活動を継続していくことが必要と考えております。世界各国では青少年

の薬物乱用が問題となっている中で、学校教育の現場で実施されている医薬品の適正使用の教育・啓発や薬物乱用防止活動などとともに、薬剤師によるアンチ・ドーピング教育・啓発活動は薬物乱用防止の観点から非常に重要な活動と言えます。

本書は、アンチ・ドーピング活動の一貫として、日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会アンチ・ドーピング部会からのご協力を得て、2004年より作成しており、薬剤師がアンチ・ドーピング活動に関わる際の必読の書として多くの方から高い評価をいただいております。本書が、薬局、医療機関をはじめとする幅広い場所で働く薬剤師が本書を積極的に活用し、「ドーピングのない」健全なスポーツ競技実現を目指す多くの方々の医薬品適正使用の確保に貢献する一助となることを願っております。

末筆ながら、本書の作成作業に格別のご協力を賜りました、日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会委員諸氏並びに情報の提供をご快諾下さった日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会アンチ・ドーピング部会の皆様、三重県薬剤師会、鹿児島県薬剤師会の皆様のご労苦に、心より厚く御礼を申し上げます。

2021年5月

公益社団法人日本薬剤師会

会長 山本 信夫

発刊によせて

このたび「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2021 年版」が発刊の運びとなりました。このガイドブックは、2003 年国民体育大会にドーピング検査が導入されたことを機に、国民体育大会開催都道府県の薬剤師会の協力を得て、日本薬剤師会と日本体育協会（現在の日本スポーツ協会）アンチ・ドーピング部会が共同で 2004 年から毎年作成しており、今回で 18 年目となります。関係の方々のご努力に敬意を表したいと思います。

昨年は新型コロナウイルス感染症に明け暮れた 1 年でした。2020 東京オリンピック・パラリンピックは 1 年延期になり、3 月末からすべてのスポーツ活動一時中断し、国民体育大会も中止になりました。秋にはスポーツ大会も開催されるようになりましたが、国際大会で中止となったものも少なくありませんでした。昨年暮れから第 3 波の感染拡大があり、緊急事態宣言が再び発出されましたが、政府、東京都、オリパラ組織委員会は無観客も想定しながら、開催に向けて準備をしています。

ロシアの組織的ドーピング問題は、昨年 12 月に一応の決着をみました。2019 年 12 月、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)は東京オリンピックなど 4 年間の主要国際大会からロシア選手団を除外する処分を科しましたが、ロシア側は不服としてスポーツ仲裁裁判所(CAS)に申し立てをしました。2020 年 12 月、CAS はロシア側の異議申し立てを棄却しましたが、制裁期間は 4 年から 2 年に短縮されました。制裁期間は 2022 年 12 月までの 2 年間となり、ロシア選手団は今年の夏の東京と 2022 年冬の北京、両オリンピック・パラリンピックに出場できなくなりました。ただし、厳しい審査を通った選手は個人資格で出場できます。2 年間の制裁期間の後、復帰できるかどうかはロシアの体制改善が認められるかどうかにかかっており、まだ完全な解決には至っていません。

国際重量挙げ連盟(IWF)のドーピング不正については、2020 年 6 月に独立調査委員会の報告書が公表され、ドーピング隠しや元会長による不正会計や買収が横行していた実態が明らかにされました。IOC はIWFの組織改革に強い懸念を表明し、改善されなければ 2024 年パリオリンピックから除外するとIWFに警告しました。また、東京、パリの各オリンピックにおける選手の出場枠削減を決定しました。

世界アンチ・ドーピング規程(CODE)が 6 年ぶりに改訂され 2021 年 1 月から施行されました。また、CODE に付属する国際基準として、新たに「教育」と「結果管理」の 2 つが追加されました。CODE2021 では、アンチ・ドーピング規則違反として「ドーピングに関する通報者を阻止したり、通報に対して報復すること」という項目が新たに追加され、これまでの 10 項目から 11 項目になりました。アスリートの役割と責務では、「サポートスタッフの身分を開示すること」が新たに追加され、6 項目から 7 項目になりました。アンチ・ドーピング規則違反に対する制裁では、事情によっては制裁期間を加重したり、標準の制裁期間の上限が永久停止まで引き上げられるなど厳罰化する一方、未成年などの「要保護者」と一定レベル以下の「レクリエーション競技者」には制裁措置が軽減されました。禁止表では、新たな概念として「濫用物質」と「特定方法」が追加されました。濫用物質とは、禁止物質の中でスポーツ以外の社会で頻繁に使われている物質(例:コカイン、ヘロイン、MDMA など)で、競技会外での使用、競技力とは無関係であることを立証した場合、制裁は 3 か月間となります。特定方法とは、競技力向上以外の目的のために使用される可能性が高い方法で、「M2.2 静脈内注入および／又は静脈注射」が該当します。特定方法では重大な過誤・過失がない場合、けん責～2 年間の制裁に短縮されます。

今年の東京オリンピック・パラリンピックがいよいよ近づいてきました。開催に向けてはいろいろな困難が予想されますが、無事に開催されることを願っています。また、日本選手からドーピング違反がでないよう、スポーツファーマシストの皆様方のご支援をお願いします。

公益財団法人日本スポーツ協会 アンチ・ドーピング部会
部会長 川原 貴

目次

1. 本書について.....	1
2. 2021年WADA禁止表国際基準掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例.....	4
S0. 無承認物質.....	4
S1. 蛋白同化薬.....	5
S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質.....	7
S3. ベータ2作用薬.....	10
S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬.....	11
S5. 利尿薬および隠蔽薬.....	13
M1. 血液および血液成分の操作.....	14
M2. 化学的および物理的操作.....	14
M3. 遺伝子および細胞ドーピング.....	15
II. 競技会(時)に禁止される物質と方法.....	16
S6. 興奮薬.....	16
S7. 麻薬.....	18
S8. カンナビノイド.....	19
S9. 糖質コルチコイド.....	20
III. 特定競技において禁止される物質.....	21
P1. ベータ遮断薬.....	21
2021年監視プログラム.....	22
3. 2021年禁止表 主要な変更の要約と注釈.....	23
4. 2021年禁止表国際基準 JADA による日本語版補足説明.....	24
5. 特に気をつけたい要指導医薬品・一般用医薬品と健康食品・サプリメント.....	25
6. 使用可能薬リスト 2021年版 / 要指導医薬品・一般用医薬品: OTC DRUGS etc.....	28
(1) 解熱鎮痛薬.....	28
(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】.....	29
(3) 総合感冒薬.....	29
(4) 鎮咳・去痰薬.....	30
(5) 鎮咳・去痰薬【トローチドロップ】.....	30
(6) 胃腸薬.....	31
(7) 消化薬.....	31
(8) 便秘治療薬.....	32
(9) 整腸薬・下痢止め.....	32
(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む).....	33
(11) 点鼻薬.....	33
(12) 吐き気・乗り物酔い予防薬.....	34
(13) 催眠・鎮静薬.....	35
(14) 鉄欠乏性貧血用薬.....	35
(15) 痔疾用薬.....	35
(16) 女性用薬(膣カンジダ関連薬).....	35
(17) 目薬.....	36
(18) うがい薬・口腔内用薬.....	38
(19) 皮膚外用薬.....	38
7. 使用可能薬リスト 2021年版 / 医療用医薬品: ETHICAL DRUGS.....	42

(1)	解熱・鎮痛・抗炎症薬	42
(2)	中枢性筋弛緩薬	44
(3)	鎮咳・去痰薬	44
(4)	気管支拡張薬・喘息・COPD 治療薬	45
(5)	アレルギー治療薬	46
(6)	抗めまい薬(乗り物酔い予防)	47
(7)	胃腸薬	47
(8)	消化酵素	48
(9)	便秘治療薬	49
(10)	止痢・整腸薬	49
(11)	頻尿・過活動膀胱治療薬	50
(12)	前立腺肥大治療薬	50
(13)	肝疾患治療薬	50
(14)	脂質異常症治療薬	51
(15)	血圧降下薬	51
(16)	抗狭心薬	52
(17)	催眠・鎮静・抗不安薬	53
(18)	抗精神病薬(悪心・嘔吐)	54
(19)	抗うつ薬	54
(20)	抗てんかん薬	54
(21)	自律神経系作用薬	55
(22)	鉄欠乏性貧血薬	55
(23)	痛風・高尿酸血症治療薬	56
(24)	糖尿病用薬	56
(25)	抗菌薬・抗生物質	57
(26)	化学療法薬	58
(27)	抗真菌薬	58
(28)	抗ウイルス薬	59
(29)	ワクチン	59
(30)	甲状腺疾患治療薬	59
(31)	経口避妊薬(保険適用外)	60
(32)	卵胞、黄体、混合ホルモン	60
(33)	痔疾用薬	61
(34)	耳鼻咽喉科用薬	61
(35)	眼科用薬	61
(36)	口腔用薬	63
(37)	皮膚外用薬	63
(38)	消毒薬	64
8.	歯科領域で汎用される医療用医薬品	65
9.	TUE(Therapeutic Use Exemption: 治療使用特例)申請について	70
10.	問い合わせ対応手順	71
11.	薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン	73
12.	索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50音順))	75

1. 本書について

(1) 作成の経緯

2003年静岡県で開催された「NEW!!わかふじ国体」から国体におけるドーピング検査が初めて行なわれました。ドーピングとは競技能力を高めるために薬物などを使用することで、健全なスポーツの発展を妨げる「ずるくして危険」な行為です。その一方で、故意に使用した訳ではなく、不注意のうっかりミスで検査にひっかかってしまう場合もあります。市販されている風邪薬や胃腸薬等には禁止物質を含むものが少なくなく、「風邪気味だから」、「胃が痛いから」などと安易に使用してアンチ・ドーピング規則違反と判断され、その結果、重い罰則が科せられてしまうことがあります。

このような意図しないドーピング(いわゆる、「うっかりドーピング」)を防ぐため、静岡県薬剤師会は、日本体育協会(現在、日本スポーツ協会)アンチ・ドーピング部会データベース班(班長:服部光男氏)のアドバイスをを受け、2003年に『薬局におけるアンチ・ドーピングガイドブック』を作成し、アンチ・ドーピング活動を行ないました。翌年、日本薬剤師会は「アンチ・ドーピングに関する特別委員会」を設置し、2004年「彩の国まごころ国体」、2005年「晴れの国おかやま国体」、2006年「のじぎく兵庫国体」、2007年「秋田わか杉国体」、2008年「チャレンジ!おおい国体」、2009年「トキめき新潟国体」、2010年「ゆめ半島千葉国体」、2011年「おいでませ!山口国体」、2012年「ぎふ清流国体」、2013年「スポーツ祭東京2013」、2014年「長崎がんばらんば国体」、2015年「2015 紀の国わかやま国体」、2016年「希望郷いわて国体」、2017年「愛(え)顔(がお)つなぐえひめ国体」、2018年「福井しあわせ元気国体」、2019年「いきいき茨城ゆめ国体2019」、2020年「燃ゆる感動かごしま国体」に合わせて「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」を毎年作成し、そして、今年「三重とわか国体」に向けて、2021年版「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」が出来上がりました。

(2) 2021年禁止表について

国際レベルのあらゆるスポーツにおけるドーピング行為は1999年に設立された世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が監視しています。2004年1月1日、これまでのオリンピックムーブメントドーピング防止規程(OMADC)に代わり、スポーツ界の統一規則として、WADAが世界アンチ・ドーピング規程(WADA code)を発効し、2009年1月1日、2015年1月1日、2021年1月1日に改訂し、禁止される薬物は、この国際基準の禁止表が利用されています。

禁止表は毎年改訂され、「三重とわか国体」では、2021年1月1日に発効した禁止表が適用されます。

禁止表の改訂に伴う留意すべき主なポイントを下記に示します。なお、禁止表の変更点は本書第3章の他、JADAのウェブサイト(<http://www.playtruejapan.org/>)に掲載されています。

●2021年禁止表改訂に伴う留意すべき主なポイント

1. 「特定方法」、「濫用物質」という新たな定義が追加された。
2. 吸入ビランテロール(24時間で最大25 μ g)が吸入使用可能になった。
3. 例示物質名が追加された。(該当箇所:S2、S3、S9、P1)
4. 例外部分が明確化された。(該当箇所:S5.局所眼科用使用、S6.イミダゾール誘導体の例示)
5. S9.糖質コルチコイドの「全ての注射経路を禁止」は2022年に変更が予定されている。
6. 2021年3月22日よりS9.糖質コルチコイドの競技会時の口腔内局所使用が禁止になった。

○治療使用特例(TUE)の提出について

禁止物質であっても治療目的であれば、所定の手続きによって使用が認められることがあります(「治療使用特例(TUE)」)。手続きの詳細は、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のウェブサイトをご参照ください。<http://www.realchampion.jp/process/tue>

(3) 本書の使い方

「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」には、「使用可能薬リスト(一般用医薬品19薬効群)」、「使用可能薬リスト(医療用医薬品38薬効群)」だけでなく、「2021年WADA禁止表国際基準掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例」、「特に気をつけたい市販の要指導医薬品・一般用医薬品と健康食品・サプリメント」、「薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン」等を掲載し薬局店頭において常時使用できるようにしました。

医薬品が使用可能であるかを判断する場合には、まず、索引にて成分名や販売名を探します。

○索引の一覧表に掲載がある場合

まず、該当ページの一般用医薬品、または医療用医薬品の「はじめに」を読みます。次に、薬効群別に掲載してある四角に囲まれた(注意)を読み、〈使用可能薬例〉の表の中から成分名や販売名を確認します。

○索引の一覧表に掲載がない場合

「索引に掲載されていないから使用可能薬ではない」という訳ではありません。すべての使用可能薬を掲載しているのではないので、まず、禁止物質に該当しないかを禁止表にて確認し、該当しない、もしくはわからない場合は、最寄りの薬剤師会ホットラインにご確認ください。使用可能の可否に迷ったり、不明な点がある場合も、決して、安易な判断はしないでください。

なお、本書中程の色付きのページは、2021年 WADA 禁止表と禁止医薬品の例、特に気をつけたい一般用医薬品(禁止薬物を含む製品)などが掲載されております。この部分には禁止医薬品が多く掲載されておりますので、間違えないように特にご注意ください！！

*「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」の使い方を説明するための事例集(スライド)が作成されました。詳しくは日本薬剤師会オフィシャル Web サイトのアンチ・ドーピング活動のページをご覧ください。

(4) 最後に

ドーピングは医薬品集等に掲載されている薬効ではなく、いわゆる薬の裏の作用を期待し、また、毎年禁止表は発効されるため、とてもわかりにくくなっています。しかし、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」は「使用可能薬を探す」ことを目的に、販売名と薬効別の販売上の注意を記載しており、単に薬の使用可否だけでなく、なぜ使用禁止なのかを薬理作用から考えることができ、薬剤師としての利用価値は高くなっています。薬局等における薬剤師の先生方は、日頃の業務の一環として意図しないドーピング(いわゆる、「うっかりドーピング」)の防止に取り組むことができます。

2009年から公認スポーツファーマシスト制度が始まりました。その知識も学び、国体だけでなく、東京オリパラ大会“TOKYO2020”の開催に際し、これまでのような安全使用の確保とは視点を異にした活動を行い、また、運動生理に基づいた身体の仕組み、運動の効果及び運動指導方法を習得し、運動支援ができる薬剤師としてスポーツ界はもとより、一般社会に対しても薬剤師の新職能として貢献していただければと期待します。

日本薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会
「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」作成
ワーキンググループ委員 大石順子

文献

- 1) The World Anti-Doping Agency : 2021 World Anti-Doping Code
- 2) The World Anti-Doping Agency : The 2021 Prohibited List
- 3) アンチ・ドーピング活動と薬剤師, 日本薬剤師会雑誌, 56, 959-961(2004)
- 4) スポーツファーマシスト <https://www.sp.playtruejapan.org/>

● スポーツファーマシストの概要(JADA ホームページを要約)

公認スポーツファーマシストは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師。

薬剤師の資格があり、かつ、(公財)日本アンチ・ドーピング機構が定める所定の課程(アンチ・ドーピングに関する内容)終了後に認定される資格制度。認定者数は、11,489名(2021年4月1日 現在)

スポーツにおける薬の使用について、アスリートやその家族、サポートスタッフの心強い相談先として全国で活躍しています。

● スポーツファーマシスト検索

身近なスポーツファーマシストを検索するためのホームページ。

スポーツファーマシスト認定者のうちの希望者(約2,000名)のみが掲載されている。

各種条件(例:土・日/祝日 対応可、夜間対応可(17時～)、英語対応可、手話通訳可)を指定し、検索することも可能。

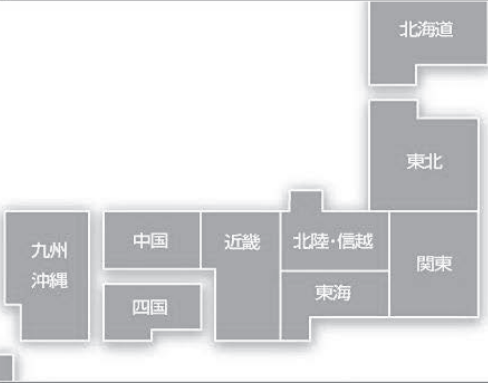
スポーツファーマシスト検索

<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>

Sports Pharmacist スポーツファーマシスト | [プライバシーポリシー](#) | [よくある質問](#) | [お問い合わせ](#)

お薬に関するお問い合わせは
全国のスポーツファーマシストがお答えします。

■マップから絞り込み



■住所から絞り込み

都道府県: 郵便番号:
(ハイフン不要)

住所入力:
入力例: 渋谷区 等

■勤務先名で絞り込み

入力例:

業種:

病院・診療所勤務 薬局勤務
 ドラッグストア勤務 製薬企業勤務
 大学勤務 その他

■その他で絞り込み

土・日/祝日 対応可 夜間対応可(17時～)
 学校薬剤師 英語対応可
 手話通訳可

※認定スポーツファーマシストのうち、情報掲載にご同意いただいた方のみ掲載しています。※本ページを営業や勧誘等の営利目的で利用することはご遠慮ください。※検索して得た情報の転用・転載を禁止します。※掲載内容に関する責任は掲載者にあり、いかなる場合もスポーツファーマシスト事務局では責任を負いかねますので、予めご了承ください。※本ページに関するお問い合わせはこちらから

● アンチ・ドーピング活動に関する資料

日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会は、薬剤師のアンチ・ドーピング活動を支援するために、薬剤師向けのアンチ・ドーピングに関する資料、子供向けのアンチ・ドーピングに関する資料、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」の使い方に関する資料を作成いたしました。

薬剤師の先生方におかれましては、アンチ・ドーピング活動を行う際にツールとしてぜひご活用ください。

<https://www.nichiyaku.or.jp/activities/anti-doping/index.html>

2. 2021年WADA禁止表国際基準掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例

WADA 禁止表国際基準では、大会中に実施する「競技会検査」および不定期に実施する「競技会外検査」の対象となる物質を2つに分類しており、「競技会検査」ではすべての禁止物質、禁止方法が対象となります(下表)。

さらに「禁止物質」、「禁止方法」、「特定競技において禁止される物質」について、具体的かつ詳細に規定しています。

また、すべての禁止物質は、S1,S2,S4.3,S4.4,S6.a および禁止方法 M1,M2 および M3を除き、「特定物質」、また、いかなる禁止方法も、M2.2を除き、「特定方法」ではないものとして扱われます。特定物質、特定方法は、いかなる意味においても、その他のドーピング物質と比べ重要性が低い、又は危険性が低いと判断されるべきではありません。むしろ、これらの物質は、単に、競技力向上以外の目的のために競技者により摂取又は使用される可能性が高いというに過ぎないものです。

WADA禁止表(2021年)

常に禁止される物質と方法 (競技会(時)および競技会外)	競技会(時)に禁止される物質と方法
[禁止物質] S0. 無承認物質 S1. 蛋白同化薬 S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質 S3. ベータ2作用薬 S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬 S5. 利尿薬および隠蔽薬	[禁止物質] S6. 興奮薬 a: 特定物質でない興奮薬 b: 特定物質である興奮薬 S7. 麻薬 S8. カンナビノイド S9. 糖質コルチコイド
[禁止方法] M1. 血液および血液成分の操作 M2. 化学的および物理的操作 M3. 遺伝子および細胞ドーピング	特定競技において禁止される物質 P1. ベータ遮断薬

また、2021世界アンチ・ドーピング規程第4条2.3項に準拠して、スポーツの領域以外において社会で頻繁に濫用される特定の物質を「濫用物質」と定めています。

この他にも、WADAは、禁止物質ではありませんが、スポーツにおける濫用の動向を把握する目的で調査対象とする物質を「監視プログラム」として定めています。

I. 常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

【禁止物質】

S0. 無承認物質

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。

禁止表の以下のどのセクションにも対応せず、人体への治療目的使用が現在どの政府保健医療当局でも承認されていない薬物(例えば、前臨床段階、臨床開発中、あるいは臨床開発が中止になった薬物、デザイナードラッグ、動物への使用のみが承認されている物質)は常に(競技会(時)および競技会外)禁止される。

Q. 動物用薬でも、その成分が人体への使用が認められている製剤の場合は「S0.無承認物質」には該当しませんが、その場合、人体への使用は可能ですか?(例:ヒト用軟膏と同じ成分が入っている馬用軟膏をヒトが使用)

A. 動物用薬は、ドーピングとは関係なく、人体への使用が禁止されています。

S1. 蛋白同化薬

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質でない物質である。
蛋白同化薬は禁止される。

1. 蛋白同化男性化ステロイド薬(AAS)

外因的に投与した場合、以下の物質(下表①)が禁止されるが、これらに限定するものではない。
下表①に加え、類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

2. その他の蛋白同化薬

以下の物質(下表②)が禁止されるが、これらに限定されるものではない:

1.AAS の禁止医薬品例(表①)

外因的に投与した場合、以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない。

成分名	販売名
1-アンドロステンジオール(5 α -アンドロスタ-1-エン-3 β , 17 β -ジオール)	—
1-アンドロステンジオン(5 α -アンドロスタ-1-エン-3, 17-ジオン)	—
1-アンドロステロン(3 α -ヒドロキシ-5 α -アンドロスタ-1-エン-17-オン)	—
1-エピアンドロステロン(3 β -ヒドロキシ-5 α -アンドロスタ-1-エン-17-オン)	—
1-テストステロン(17 β -ヒドロキシ-5 α -アンドロスタ-1-エン-3-オン)	—
4-アンドロステンジオール(アンドロスタ-4-エン-3 β , 17 β -ジオール)	—
4-ヒドロキシテストステロン(4, 17 β -ジヒドロキシアンドロスタ-4-エン-3-オン)	—
5-アンドロステンジオン(アンドロスタ-5-エン-3, 17-ジオン)	—
7 α -ヒドロキシ-DHEA	—
7 β -ヒドロキシ-DHEA	—
7-ケト-DHEA	—
19-ノルアンドロステンジオール(エストラ-4-エン-3, 17-ジオール)	—
19-ノルアンドロステンジオン(エストラ-4-エン-3, 17-ジオン)	—
アンドロスタノロン(5 α -ジヒドロテストステロン, 17 β -ヒドロキシ-5 α -アンドロスタ-3-オン)	—
アンドロステンジオール(アンドロスタ-5-エン-3 β , 17 β -ジオール)	—
アンドロステンジオン(アンドロスタ-4-エン-3, 17-ジオン)	—
ボラストロン	—
ボルデノン	—
ボルジオン(アンドロスタ-1, 4-ジエン-3, 17-ジオン)	—
カルステロン	—
クロステボール	—
ダナゾール([1, 2]オキサゾロ[4', 5':2, 3]プレグナ-4-エン-20-イン-17 α -オール)	ボンゾール: 子宮内膜症・乳腺症治療薬
デヒドロクロロメチルテストステロン(4-クロロ-17 β -ヒドロキシ-17 α -メチルアンドロスタ-1, 4-ジエン-3-オン)	—
デソキシメチルテストステロン(17 α -メチル-5 α -アンドロスタ-2-エン-17 β -オール, 7 α -メチル-5 α -アンドロスタ-3-エン-17 β -オール)	—

ドロスタロン	—
エピアンドロステロン(3β-ヒドロキシ-5α-アンドロスタン-17-オン)	—
エピジヒドロテストステロン(17β-ヒドロキシ-5β-アンドロスタン-3-オン)	—
エピテストステロン	—
エチルエストレノール(19-ノルプレグナ-4-エン-17α-オール)	—
フルオキシメステロン	—
ホルメボロン	—
フラザボール(17α-メチル[1, 2, 5]オキサジアゾロ[3', 4':2, 3]-5α-アンドロスタン-17β-オール)	—
ゲストリノン	—
メスタロン	—
メステロン	—
メタンジエノン(17β-ヒドロキシ-17α-メチルアンドロスタ-1, 4-ジエン-3-オン)	—
メテロン	プリモボラン 他: 蛋白同化ホルモン
メタンドリオール	—
メタステロン(17β-ヒドロキシ-2α, 17α-ジメチル-5α-アンドロスタン-3-オン)	—
メチル-1-テストステロン(17β-ヒドロキシ-17α-メチル-5α-アンドロスタ-1-エン-3-オン)	—
メチルクロステポール	—
メチルジエノン(17β-ヒドロキシ-17α-メチルエストラ-4, 9-ジエン-3-オン)	—
メチルノルテストステロン(17β-ヒドロキシ-17α-メチルエストラ-4-エン-3-オン)	—
メチルテストステロン	OTC: 男性ホルモン製剤
メトリボロン(メチルトリエノン、17β-ヒドロキシ-17α-メチルエストラ-4, 9, 11-トリエン-3-オン)	—
ミボレロン	—
ナンドロロン(19-ノルテストステロン)	—
ノルボレトン	—
ノルクロステポール(4-クロロ-17β-ヒドロキシエストラ-4-エン-3-オン)	—
ノルエタンドロロン	—
オキサボロン	—
オキサンドロロン	—
オキシメステロン	—
オキシメトン	—
プラステロン(デヒドロエピアンドロステロン、DHEA、3β-ヒドロキシアンドロスタ-5-エン-17-オン)	レボスパ静注用: 子宮頸管熟化薬
プロスタノゾール(17β-[(テトラヒドロピラン-2-イル)オキシ]-1'H-ピラゾロ[3', 4':2, 3]-5α-アンドロスタン)	—
キンボロン	—
スタノゾロール	—
ステンボロン	—
テストステロン	OTC: 男性ホルモン製剤
テトラヒドロゲストリノン(17-ヒドロキシ-18α-ホモ-19-ノル-17α-プレグナ-4, 9, 11-トリエン-3-オン)	—
トレンボロン(17β-ヒドロキシエストラ-4, 9, 11-トリエン-3-オン)	—

および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

2. その他の蛋白同化薬の禁止医薬品例(表②)

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
クレンプテロール	スピロペント 他: 気管支拡張薬
選択的アンドロゲン受容体調節薬 [SARMs、アンダリン、LGD-4033(リガンドロ ール)、エノボサルム(オスタリン)、RAD140 等]	—
チボロン	日本未発売: 骨粗鬆症薬
ゼラノール	—
ジルパテロール	—

[禁止される理由]

- いわゆる筋肉増強剤として、筋力の強化と筋肉量の増加によって運動能力を向上させ、同時に闘争心を高める目的で使用され、様々な投与方法で大量に使用されるため禁止。
- 肝臓癌など致命的な有害作用が発生。脂質異常症、HDL コレステロールの低下、血圧上昇など心血管系障害の発症も示唆。
- 女性では多毛、嚔声などの男性化や痤瘡が発現。
- 男性では女性化乳房、無精子症、インポテンツが発現。
- ジルパテロール、ゼラノールは、主に動物に肥育ホルモンとして利用され、体重増加など成長促進作用を有するので禁止。
- 選択的アンドロゲン受容体調節薬(SARMs)は、筋萎縮症の治療とアンドロゲン代替治療のために開発中。作用機序からドーピング物質とされている。

- Q. クレンプテロールは、臨床では気管支拡張薬として気管支喘息等の治療で用いられるのではないですか？
- A. クレンプテロールは、気管支拡張薬ですが、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されることから禁止されます。
- Q. 栄養補助食品中によく配合されている“デルタ-2”もしくは2-アンドロステノン(5 α -アンドロスタ-2-エン-17-オン)は、禁止物質ですか？
- A. プラステロン(デヒドロエピアンドロステロン、DHEA、3 β -ヒドロキシアンドロスタ-5-エン-17-オン)の代謝物の例として挙げられており、禁止物質です。
- Q. 内因性か外因性の区別がなくなりましたが、禁止物質が内因性の場合の判断はどうなるのですか？
- A. 従来通り、テクニカルドキュメントやテクニカルレターで判断されます。

S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質

- この分類におけるすべての禁止物質は特定物質でない物質である。
以下の物質(下表)および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するものは禁止される:
1. エリスロポエチン(EPO) および赤血球造血に影響を与える因子
以下の物質(下表①)が禁止されるが、これらに限定するものではない:
 2. ペプチドホルモンおよびそれらの放出因子(下表②)
 3. 成長因子および成長因子調節物質
以下の物質(下表③)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質の禁止医薬品例

以下の物質および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有する物質は禁止される:

1. エリスロポエチン(EPO) および赤血球造血に影響を与える因子(表①)
以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
1.1 エリスロポエチン受容体作動薬	
ダルベポエチン (dEPO)	ネスプ
エリスロポエチン (EPO)	エスポー 他
EPO の構造に基づいて作製された化合物	
<i>EPO-Fc</i>	—
メトキシポリエチレングリコール-エポエチンペ ータ(CERA) 等	ミルセラ注
EPO 模倣ペプチドおよびそれらの作製された化 合物	
<i>CNTO-530</i> 、 <i>ペギネサタイド</i> 等	—
1.2 低酸素誘導因子(HIF)活性化薬	
コバルト	—
ダプロデュスタット(GSK1278863)	ダーブロック
IOX2	—
モリデュスタット(BAY 85-3934)	マスーレッド
ロキサデュスタット(FG-4592)	エベレンゾ
バダデュスタット(AKB-6548)	バフセオ
キセノン	キセノンガス
等	
1.3 GATA 阻害薬	
K-11706	—
等	
1.4 形質転換成長因子 β (TGF - β)シグナル伝達阻 害薬	
ラスパテルセプト	—
ソタテルセプト	—
等	
1.5 内因性修復受容体作用薬	
アシアロ EPO	—
カルバミル化 EPO(CEPO)	—
等	

2. ペプチドホルモンおよびそれらの放出因子(表②)

成分名	販売名
2.1 男性における絨毛性ゴナドトロピン(CG)および黄 体形成ホルモン(LH)および それらの放出因子	
絨毛性ゴナドトロピン(CG)	ゴナトロピン 他
黄体形成ホルモン(LH)およびそれらの放出因子	
<i>ブセレリン</i>	スプレキュア 他
<i>デスロレリン</i>	—
<i>ゴナドレリン</i>	ヒポクライン 他
<i>ゴセレリン</i>	ゾラデックス
<i>リユープロレリン</i>	リユープリン 他
<i>ナファレリン</i>	ナサニール 他
<i>トリプトレリン</i> 等	—
2.2 コルチコトロピン類およびそれらの放出因子	
コルチコトロピン	コートロシン 他
コルチコレリン	ヒトCHR静注用
等	

2.3 成長ホルモン(GH)、その断片および放出因子、以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない	
成長ホルモン(GH)	ジェントロピン 他
成長ホルモン断片 AOD-9604 および hGH 176-191 等	—
成長ホルモン放出ホルモン(GHRH)およびその類似物質 CJC-1293、CJC-1295、セルモレリン、およびテサモレリン 等	—
成長ホルモン分泌促進物質(GHS) レノモレリン(グレリン)、およびその模倣物質(アナモレリン、イパモレリン、マシモレリン、タビモレリン 等) 等	—
成長ホルモン放出ペプチド(GHRPs) アレキサモレリン	—
GHRP-1	—
GHRP-2(プラルモレリン)	注射用GHRP
GHRP-3	—
GHRP-4	—
GHRP-5	—
GHRP-6	—
エキサモレリン(ヘキサレリン) 等	—

3. 成長因子および成長因子調節物質(表③)

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
線維芽細胞成長因子類(FGFs)	フィブラストスプレー
肝細胞増殖因子(HGF)	—
インスリン様成長因子-1(IGF-1)および類似物質	ソマゾン 他
機械的成長因子類(MGFs)	—
血小板由来成長因子(PDGF)	—
チモシン-β 4およびその誘導因子	—
TB-500 等	—
血管内皮増殖因子(VEGF)	—
筋、腱あるいは靭帯での蛋白合成/分解、血管新生、エネルギー利用、再生能あるいは筋線維タイプの変換に影響を与える上記以外の成長因子あるいは成長因子調節物質	—

[禁止される理由]

- エリスロポエチン等は、赤血球生成促進因子であるため酸素運搬能が上昇し、持久力が必要な運動種目では運動能力の強化につながるため禁止。
- 成長ホルモンは、脂肪組織におけるトリグリセリドの加水分解、肝臓でのグルコース排泄促進作用などを有するが、筋肉増強を期待する乱用はアレルギー症状や糖尿病を誘発し、大量投与で末端肥大症などの有害作用が発現するため禁止。
- 絨毛性ゴナドトロピン(CG)及び黄体形成ホルモン(LH)は、男子不妊症や男性の下垂体性性腺機能不全の治療に投与され、男性ホルモンの産生量を増加させるため、男性においてのみ禁止。
- コルチコトロピン類(ACTH)は副腎皮質を刺激し、血中の糖質コルチコイド、鉱質コルチコイドを上昇させ弱い男性ホルモンの分泌促進作用を有するため禁止。

Q. 低酸素誘導因子（HIF）安定薬としてコバルトが禁止物質になっていますが、コバルトを含むシアノコバラミン（ビタミンB12）も禁止されますか？

A. 禁止されません。

S3. ベータ2作用薬

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。
すべての選択的および非選択的ベータ2作用薬は、すべての光学異性体を含めて禁止される。

以下の物質（下表）が禁止されるが、これらに限定するものではない：

例外

- 吸入サルブタモール（24時間で最大1600 μ g、いかなる用量から開始しても12時間で800 μ gを超えないこと）
- 吸入ホルモテロール（24時間で最大投与量54 μ g）
- 吸入サルメテロール（24時間で最大200 μ g）
- 吸入ビランテロール（24時間で最大25 μ g）

注意

尿中のサルブタモールが1000ng/mL、あるいは尿中ホルモテロールが40ng/mLを越える場合は、治療を意図した使用ではないため、管理された薬物動態研究を通してその異常値が上記の最大治療量以下の吸入使用の結果であることを競技者が立証しないかぎり、違反が疑われる分析報告（AAF）として扱われることになる。

ベータ2作用薬の禁止医薬品例

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない：

成分名	販売名
アルホルモテロール	—
フェノテロール	ベロテック 他
ホルモテロール	オーキシス 他
ヒゲナミン	生薬：イボツヅラフジ、附子、丁子、細辛、南天実、呉茱萸
インダカテロール	オンブレス 他
レボサルブタモール（レバルブテロール）	—
オロダテロール	スピオルト
プロカテロール	メプチン 他
レプロテロール	—
サルブタモール	サルタノール、ベネトリン 他
サルメテロール	セレベント 他
テルブタリン	ブリカニール 他
トレトキノール（トリメトキノール）	イノリン、トスメリアン、OTC：鎮咳薬 他
ツロブテロール	ホクナリン 他 *外用薬（テープ）も含む
ビランテロール	アノーロ 他

[禁止される理由]

- ・ 気管支拡張薬であるが、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されるため、常時使用禁止。

Q. サルブタモール、ホルモテロールを、利尿薬もしくは隠蔽薬と併用する場合の注意は？

A. 治療使用特例（TUE）が、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、競技会（時）および競技会外の状況に応じて必要となります。（参照：S5.利尿薬および隠蔽薬）

Q. イソクスブリン（脳・末梢血行動態改善剤、子宮鎮痙剤）は使用可能ですか？

A. 明記されていませんが、ベータ2作用薬として使用禁止です。

Q. ヒゲナミンについて、どのような注意が必要ですか？

A. 非選択的ベータ2作用薬の「ヒゲナミン」は、植物のイボツツラフジ（*Tinospora crispa*）の成分であると報告されており、栄養補助食品から検出されています。

*JADA の事務連絡によれば、ヒゲナミンは、以下の名称の成分や生薬に含まれるとされています（平成28年12月19日付、JADA 事務連絡、2017年禁止表国際基準の Higenamine（ヒゲナミン）に関する 注意喚起）。

- Norcoclaurine（ノルコクラウリン）
- Demethylcoclaurine（デメチルコクラウリン）
- *Tinospora crispa*（イボツツラフジ）
- 附子（フシ）
- 丁子（チョウジ）
- 細辛（サイシン）
- 南天実（ナンテンジツ）
- 呉茱萸（ゴシュユ）

S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬

S4.1 および S4.2 の分類における禁止物質は特定物質である。S4.3 および S4.4 の分類における禁止物質は特定物質でない物質である。

以下のホルモン調節薬および代謝調節薬は禁止される:

1. アロマターゼ阻害薬としては、以下の物質(下表①)が禁止されるが、これらに限定するものではない:
2. 抗エストロゲン物質[抗エストロゲン薬および選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)]としては、以下の物質(下表②)が禁止されるが、これらに限定するものではない:
3. アクチビン受容体ⅡB 活性化を阻害する物質としては、以下の物質(下表④)が禁止されるが、これらに限定するものではない:
4. 代謝調節薬:(下表⑤)

ホルモン調節薬および代謝調節薬の禁止医薬品例

1. アロマターゼ阻害薬(表①)

アロマターゼ阻害薬としては、以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
2-アンドロステノール (5 α -アンドロスト-2-エン-17-オール)	—
2-アンドロステノン (5 α -アンドロスト-2-エン-17-オン)	—
3-アンドロステノール (5 α -アンドロスト-3-エン-17-オール)	—
3-アンドロステノン (5 α -アンドロスト-3-エン-17-オン)	—
4-アンドロステン-3,6,17-トリオン(6-オキソ)	—
アミノグルテチミド	—
アナストロゾール	アリミデックス 他:乳癌治療薬
アンドロスタ-1,4,6-トリエン-3,17-ジオン(アンドロスタトリエンジオン)	—
アンドロスタ-3,5-ジエン-7,17-ジオン(アリミスタン)	—
エキセメスタン	アロマシン 他:乳癌治療薬
ホルメスタン	—
レトロゾール	フェマーラ 他:乳癌治療薬
テストラクトン	—

2. 抗エストロゲン物質[抗エストロゲン薬および選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)](表②)

選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)としては、以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
バゼドキシフェン	ビビアント :骨粗鬆症治療薬
クロミフェン	クロミッド 他:排卵誘発剤
シクロフェニル	セキノビット:排卵誘発剤
フルベストラント	フェソロデックス:乳癌治療薬
オスペミフェン	—
ラロキシフェン	エビスタ 他:骨粗鬆症治療薬
タモキシフェン	ノルバデックス 他:乳癌治療薬
トレミフェン	フェアストーン 他:乳癌治療薬

3. アクチビン受容体ⅡB 活性化を阻害する物質(表④)

アクチビン受容体ⅡB 活性化を阻害する物質としては、以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名
アクチビン-A-中和抗体	—
アクチビン受容体ⅡB 競合薬 デコイアクチビン受容体(ACE-031 等)	—
抗アクチビン受容体ⅡB 抗体 ビマグルマブ 等	—
ミオスタチン阻害薬 ミオスタチン発現を減少あるいは除去する物質 ミオスタチン結合蛋白[フォリスタチン、ミオスタチンプロペプチド 等] ミオスタチン中和抗体[ドマグロズマブ、ランドグロズマブ、スタムルマブ 等]	—

4. 代謝調節薬(表⑤)

成分名	販売名
4.1 AMP 活性化プロテインキナーゼ(AMPK)の活性化薬[AICAR, SR9009 等] ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 δ (PPAR δ) 作動薬 [2-[2-メチル-4-[4-メチル-2-[4-トリフルオロメチルフェニル]チアゾール-5-イル]メチルチオ]フェノキシ酢酸(GW1516, GW501516) 等]	—
4.2 インスリン類およびインスリン模倣物質	インスリン
4.3 メルドニウム	—
4.4 トリメタジジン	バスタレル F

[禁止される理由]

- ・ アロマトラーゼ阻害薬、選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)等は、乳癌治療薬、骨粗鬆症治療薬、排卵誘発剤として使われるが、抗エストロゲン作用を有するため禁止。
- ・ ミオスタチン阻害薬は、筋肉の増強を抑制するミオスタチンを阻害することにより、筋力向上等が期待できるため禁止。
- ・ インスリンは筋肉におけるグルコースの利用とアミノ酸の貯蔵を促進し、蛋白の合成を刺激し分解を抑制するため禁止。その他の糖尿病用薬である SU 系、ビグアナイド系、インスリン抵抗性改善薬、食後血糖改善薬、DPP-4 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬は禁止されない。
- ・ トリメタジジンは、心臓代謝の調節薬として禁止される。

Q. 骨粗鬆症治療薬のバゼドキシフェン(ビビアント錠)は使用可能ですか?

A. 2020年に例示物質として明記され、SERMsとして禁止されます。

S5. 利尿薬および隠蔽薬

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。
以下の利尿薬と隠蔽薬、および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有する物質は禁止される。

以下の物質(下表)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

例外

- ドロスピレノン; パマブロム; および局所眼科用使用される炭酸脱水酵素阻害薬[ドルゾラミド、プリンゾラミド等]
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与

注意

常に(競技会(時)および競技会外)、あるいは*競技会(時)*それぞれの場合に応じて、利尿薬もしくは隠蔽薬とともに、閾値水準が設定されている物質(ホルモテロール、サルブタモール、カチン、エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン)がいかなる用量でも*競技者の検体*から検出される場合は、*競技者*に対して、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、閾値水準が設定されている物質についても*治療使用特例(TUE)*が承認されていない限り、*違反が疑われる分析報告(AAF)*として扱われることになる。

利尿薬および隠蔽薬の禁止医薬品例

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名: 例示
デスマプレシン	デスマプレシン、ミニリンメルト 他
プロベネシド	ベネシッド: 尿酸排泄促進薬
血漿増量物質 アルブミン(静脈内投与) デキストラン(静脈内投与) ヒドロキシエチルデンプン(静脈内投与) マンニトール(静脈内投与) 等	赤十字アルブミン 他 低分子デキストランL注 他 サリンヘス輸液 他 マンニットT注 他
アセタゾラミド	ダイアモックス
アミロライド	—
ブメタニド	ルネトロン
カンレノン	—
クロルタリドン	—
エタクリン酸	—
フロセミド	ラシックス 他
インダパミド	ナトリックス 他
メトラゾン	—
スピロラクトン	アルダクトン A 他
チアジド類[ベンドロフルメチアジド、クロロチアジド、ヒドロクロロチアジド 等]	フルイトラン 他
トリアムテレン	トリテレン
バプタン類[トルバプタン 等]	サムスカ、フィズリン

[禁止される理由]

利尿薬が禁止される理由には、下記が考えられる。

- ① 排出する尿量を増加させ尿中に排泄する禁止薬物や代謝物の尿中濃度を下げて禁止物質の検出を逃れること。
- ② 柔道、ボクシング、重量挙げなどの体重別種目で競技成績を有利に導くため、体水分の排泄を促して体重

を急速に減量すること。

Q. 高血圧治療用の配合剤は禁止されますか？

A. 利尿薬が配合されているものも多く発売されているため、注意が必要です。

Q. メニエール病の改善等に使用される「イソソルビド」は禁止されますか？

A. 明記されていませんが、「S5.利尿薬および隠蔽薬」に該当する禁止物質です。

Q. グリセロールは禁止表から除外されたのですか？

A. 2018年WADA禁止表国際基準 3章 主要な変更の要約と注釈に記載されている通り、グリセロールは禁止表から除外されました。[2012年以降科学論文で発表されたグリセロールに関する情報、特にアスリート・バイオロジカル・パスポート(ABP)のパラメーターとアスリートの血漿量に影響するグリセロールの作用について考慮した結果、グリセロールによる効果は軽微であると考えられる。したがって、グリセロールを禁止表から除外した。]

Q. マンニトールを添加剤に含む点滴は禁止されますか？

A. アスリートの体重で、0.5g/kg以上となる場合はTUE申請が必要です。

【禁止方法】

この分類におけるすべての禁止方法はM2.2の特定方法を除いて、特定方法でない方法である。

M1. 血液および血液成分の操作

以下の事項が禁止される：

1. 自己血、他者血(同種血)、異種血又はすべての赤血球製剤をいかなる量でも循環系へ投与するあるいは再び戻すこと。
2. 酸素摂取や酸素運搬、酸素供給を人為的に促進すること[過フルオロ化合物;エファプロキシラール(RSR13)、修飾ヘモグロビン製剤(ヘモグロビンを基にした血液代替物質、ヘモグロビンのマイクロカプセル製剤等)が含まれるが、これらに限定するものではない]。但し、吸入による酸素自体の補給は除く。
3. 血液あるいは血液成分を物理的あるいは化学的手段を用いて血管内操作すること。

Q. 吸入による酸素自体の補給とは何を指しますか？

A. 酸素カプセルや携行酸素缶であり、「飲む酸素」のようなサプリメントは除きます。

Q. 血管内操作とは、具体的にはどのようなことですか？

A. 例えば、人体から採取した血液にオゾンを溶解させ、その血液を再び戻す「オゾン療法(血液クレンジング)」は禁止されます。

M2. 化学的および物理的操作

以下の事項が禁止される：

1. ドーピング・コントロールで採取された検体の完全性及び有効性を変化させるために改ざん又は改ざんしようとすることは禁止される。これらには検体のすり替え、検体の改質[検体への蛋白分解酵素の追加等]などが含まれるが、これらに限定するものではない。
2. 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

Q. 静脈内注入および/または静脈注射についてどのように考えればいいですか？

A. 下記参照

○ 静脈内注入および/または静脈注射の考え方

1. 禁止物質を含む点滴が治療のために必要な場合は、TUE申請が必要。
2. 禁止物質を含まず、12時間あたり100mL以内の静脈注射は禁止ではなく、TUEが不要。
3. 禁止物質を含まなくても、静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

なお、本会から JADA に問合せを行ったところ、

- ①入院施設のある医療機関（病院あるいは有床診療所）で受けた、外来での点滴は 禁止方法ではないため TUE 申請は不要。
- ②入院施設のない医療機関（無床の診療所等）で受けた、外来での点滴は禁止方法となり TUE 申請が必要。
- ③「救護所」は入院施設のない医療機関（無床の診療所等）にあたる。そのため、
 - 1) 「救護所」での点滴後、帰宅した場合は、禁止方法となるため TUE 申請が必要。
 - 2) 「救護所」での点滴後、入院施設のない医療機関（無床の診療所等）へ搬送され、処置を受けた場合は、禁止方法となるため TUE 申請が必要。
 - 3) 「救護所」での点滴後、入院施設のある医療機関（病院あるいは有床診療所）へ搬送され処置を受けた場合は、入院治療およびその受診過程となるため、TUE 申請は不要。との回答を得ていますが、TUE 申請に係る詳細については、JADA にお問合せいただけますよう、お願い致します。

M3. 遺伝子および細胞ドーピング

以下の競技能力を高める可能性のある事項は禁止される：

1. 何らかの作用機序によってゲノム配列および/又は遺伝子発現を変更する可能性がある核酸又は核酸類似物質の使用。以下の方法が禁止されるが、これらに限定するものではない：遺伝子編集、遺伝子サイレンシングおよび遺伝子導入技術。
2. 正常なあるいは遺伝子を修飾した細胞の使用。

Q. 幹細胞による治療は禁止されますか？

A. 外傷の治療において、通常の機能に戻すだけでその機能を増強しない限り、幹細胞の使用は禁止されません。

II. 競技会(時)に禁止される物質と方法

前文 S0～S5、M1～M3 に加えて、以下の分類は *競技会(時)* において禁止される。

S6. 興奮薬

この分類におけるすべての禁止物質は S6.A の特定物質でない物質を除いて、特定物質である。
このセクションの濫用物質: コカイン、メチレンジオキシメタンフェタミン (MDMA/“エクスタシー”)
すべての興奮薬(関連するすべての光学異性体 [*d*体および *l*体] 等を含む)は禁止される。

興奮薬には以下の物質(下表①、②)が含まれる:

a: 特定物質でない興奮薬:(下表①)

このセクションに掲載されていない興奮薬は *特定物質* である。

b: 特定物質である興奮薬

以下の物質(下表②)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

下表②および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

例外

● クロニジン

● 皮膚、鼻あるいは眼科用に使用されるイミダゾール誘導体(プリモニジン、クロナゾリン、フェノキサゾリン、インダナゾリン、ナファゾリン、オキシメタゾリン、キシロメタゾリン等)および 2021 年監視プログラム*に含まれる興奮薬

* プロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン: これらの物質は 2021 年監視プログラムに含まれ、*禁止物質*とみなさない。

** カチン: 尿中濃度 5 µg/mL を超える場合は禁止される。

*** エフェドリンとメチルエフェドリン: 尿中濃度 10 µg/mL を超える場合は禁止される。

**** エピネフリン(アドレナリン): 局所使用[鼻、眼等]あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されない。

***** プソイドエフェドリン: 尿中濃度 150 µg/mL を超える場合は禁止される。

興奮薬の禁止医薬品例

a: 特定物質でない興奮薬(表①)

成分名	販売名: 例示
アドラフィニル	—
アンフェプラモン	—
アンフェタミン	—
アンフェタミニル	—
アミフェナゾール	—
ベンフルオレックス	—
ベンジルピペラジン	—
ブロマンタン	—
クロベンゾレックス	—
コカイン	コカイン塩酸塩: 麻薬
クロプロパミド	—
クロテタミド	—
フェンカミン	—
フェネチリン	—
フェンフルラミン	—
フェンプロポレックス	—
フォンツラセタム[4-フェニルピラセタム(カルフェドン)]	—
フルフェレックス	—
リスデキサンフェタミン	ビバンセ

メフェノレックス	—
メフェンテルミン	—
メソカルブ	—
メタンフェタミン(<i>d</i> 体)	ヒロポン:覚せい剤
p-メチルアンフェタミン	—
モダフィニル	モディオダール
ノルフェンフルラミン	—
フェンジメトラジン	—
フェンテルミン	—
プレニラミン	—
プロリンタン	—

b: 特定物質である興奮薬(表②)

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない:

成分名	販売名: 例示
3-メチルヘキサン-2-アミン(1,2-ジメチルペンチルアミン)	—
4-メチルヘキサン-2-アミン(メチルヘキサンアミン)	—
4-メチルペンタン-2-アミン(1,3-ジメチルブチルアミン)	—
5-メチルヘキサン-2-アミン(1,4-ジメチルペンチルアミン)	—
ベンズフェタミン	—
カチン**	—
カチノンおよび類似物[メフェドロン、メテドロン、 α -ピロリジノバレロフェノン 等]	—
ジメタンフェタミン(ジメチルアンフェタミン)	—
エフェドリン***	エフェドリン塩酸塩: 気管支拡張薬
エピネフリン(アドレナリン)****	ボスミン: 強心薬、エピペン: アナフィラキシー補助治療剤 他
エタミバン	—
エチルアンフェタミン	—
エチレフリン	エホチール 他: 昇圧薬
ファンプロファゾン	—
フェンブトラザート	—
フェンカンファミン	—
ヘプタミノール	—
ヒドロキシアμφエタミン(パラヒドロキシアμφエタミン)	—
イソメテプテン	—
レブメタンフェタミン	—
メクロフェノキサート	ルシンドリール: 脳循環代謝改善薬
メチレンジオキシメタンフェタミン	—
メチルエフェドリン***	メチエフ 他: 気管支拡張薬
メチルフェニデート	リタリン 他: 精神刺激薬
ニケタミド	—
ノルフェネフリン	—
オクトドリン(1,5-ジメチルヘキシルアミン)	—
オクトパミン	—
オキシロフリン(メチルシネフリン)	—
ペモリン	ベタナミン: 精神刺激薬
ペンテトラゾール	—

フェネチルアミンおよびその誘導体	—
フェンメトラジン	—
フェンプロメタミン	—
プロピルヘキセドリン	—
プソイドエフェドリン****	ディレグラ、OTC: 鼻炎用薬等
セレギリン	エフピー 他: パーキンソン病治療薬
シブトラミン	—
ストリキニーネ	ホミカエキス、OTC: 胃腸薬等
テナンフェタミン(メチレンジオキシアニフェタミン)	—
ツアミノヘプタン	—

および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

[禁止される理由]

- ・ 中枢神経系を刺激して敏捷性を高め、疲労感を低減して競争心を高める効果を有するが、疲労の限界に対する正常な判断力を失わせ、ときには競技相手に危害を与えかねないため禁止。
- ・ アンフェタミンは有害な中枢神経興奮作用をもち、オリンピック大会の自転車競技で本剤に起因する死亡事故が発生しているため禁止。
- ・ エフェドリンは中枢神経興奮作用をもち、大量投与で精神を高揚させ、血流を増加させるため禁止。

Q. 興奮薬はどのような薬に含まれていますか？
A. 多くの一般用医薬品等の感冒・鼻炎用薬には、エフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリンなどが配合されています。また、明記されていませんが、低血圧治療薬のミドドリン、アメジニウムも興奮薬として禁止されます。
Q. 禁止物質のメチルヘキサミンはサプリメントとしてよく販売されているようですが、どのような表記になっていますか？
A. “ゼラニウム油”、“ゼラニウム根エキス”等と書かれていることもあるので注意が必要です。
Q. フェネチルアミンは通常の食品摂取でも違反が疑われますか？
A. 2017年のWADA 禁止表国際基準 主要な変更の要約と注釈 では、「通常の食品の消費量では、フェネチルアミンは違反が疑われる分析報告となるには十分な量ではないであろう。」とされています。
Q. エピネフリンの皮下注射を必要に応じて自己注射する場合のTUE 申請はどうなりますか？
A. 使用した時に、遡及的TUE 申請を行います。処方に基づく所持はTUE 申請が不要です。

S7. 麻薬

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。
このセクションの濫用物質: ジアモルヒネ(ヘロイン)
以下の麻薬(関連するすべての光学異性体[d体およびl体]等を含む)(下表)は禁止される:
※JADA 訳注: このセクションには国内法の麻薬以外の物質が含まれる。

麻薬の禁止医薬品例

成分名	販売名	分類
ブプレノルフィン	レペタン、ノルspan 他	非麻薬性鎮痛薬
デキストロモラミド	—	
ジアモルヒネ(ヘロイン)	—	
フェンタニルおよびその誘導体	アブストラル、アルチバ、イーフェンバツカル、タラモナール、デュロテップ MT、フェンタニル、フェントス、ワンデュロパッチ 他	麻薬
ヒドロモルフォン	ナルラピド	
メサドン	メサペイン	麻薬

モルヒネ	モルヒネ塩酸塩、オプソ、アンペック、プレペノン、MS コンチン、モルペス、MS ツワイスロン、モヒアト、パシーフ 他	麻薬
ニコモルフィン	—	
オキシコドン	オキシコンチン、オキノーム、オキファスト 他	麻薬
オキシモルフォン	—	
ペンタゾシン	ソセゴン、ペルタゾン	非麻薬性鎮痛薬
ペチジン	ペチジン塩酸塩注射液 35mg「タケダ」 他	麻薬

[禁止される理由]

- ・ 麻薬は鎮痛、鎮静による精神・心理機能の向上とリラクゼーション、また、陶酔感、多幸福感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 副作用として、呼吸抑制、呼吸麻痺、依存性、血圧低下、ショック、めまい、眠気、嘔吐、虚脱、便秘、筋萎縮、視調節障害が見られる。

Q. “Open List” , “Closed List” とは？

A. 「S7.麻薬」のように禁止される物質・方法を限定したセクションを“Closed List” と言い、「類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの」「以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない」等と記載があり、禁止される物質・方法の代表例が掲載されているセクションを“Open List” と言います。2008年北京オリンピックで金メダルを獲得したジャマイカチチームの違反は、当時、禁止表に明記されていなかったメチルヘキサミン(S6.bに該当、Open List) が問題となりました。

Q. 局所麻酔薬は禁止されませんか？

A. 2004年から禁止されません。しかし、ラグビーの場合、「競技に関する規定」の「第10条医学関連事項」に、「プレーヤーは、適切な歯科医や医師による止血のための傷口の縫合もしくは歯科的治療以外の目的で、試合当日に局所麻酔を受けてはならない。」とされ、WADAの禁止表では禁止されない物質が禁止されています。

S8. カンナビノイド

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。

このセクションの濫用物質:テトラヒドロカンナビノール(THC)

全ての天然および合成カンナビノイドは禁止される。

- 大麻由来物質[ハシシュおよびマリファナ]および大麻製品
- 天然および合成テトラヒドロカンナビノール(THCs)
- THCの効果を模倣する合成カンナビノイド等

例外

- カンナビジオール

[禁止される理由]

- ・ 思考、知覚、気分を異常に変化させ、多幸福感、高揚感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 憂うつ感、被暗示性の増強、錯乱、幻覚を伴うことがある。選手が競技に対する不安や焦りから逃避する目的で嗜癖に陥る危険性がある。

Q. 大麻とは？

A. 大麻草 *Cannabis sativa* の葉を乾燥したものがマリファナ、樹脂がハシシュである。主な成分はΔ9-テトラヒドロカンナビノール(THC)、カンナビロール等。

Q. 合成カンナビノイドとは？

- A. カンナビノイド受容体のアゴニストで、日々、新規に合成され、入手状況が絶えず変化している精神活性物質。JWH-018 および誘導體 JWH-073、HU-210 等があり、「Spice」等に添加されている。
- Q. 禁止されないカンナビジオール（CBD）の製品は大丈夫ですか？
- A. 大麻植物から抽出された CBD 製品には THC を含む可能性があるので注意が必要です。

S9. 糖質コルチコイド

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。
すべての糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用又は口腔内局所使用はすべて禁止される。

以下の物質（下表）が禁止されるが、これに限定するものではない：

糖質コルチコイドの禁止医薬品例

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない：

成分名	販売名
ベクロメタゾン	サルコートカプセル外用 他
ベタメタゾン	リンデロン 他
ブデソニド	パルミコート 他
シクレソニド	—
コルチゾン	コートン 他
デフラザコート	—
デキサメタゾン	デカドロン、アフタゾロン口腔用軟膏、デキサルチン口腔用軟膏 他
フルコルトロン（フルオコルトロン）	ネリプロクト 他
フルニソリド	—
フルチカゾン	—
ヒドロコルチゾン	コートリル、テラ・コートリル軟膏、デスパコーワ口腔用クリーム、ヒノポロン口腔用軟膏 他
メチルプレドニゾン	メドロール 他
モメタゾン	—
プレドニゾン	プレドニゾン 他
プレドニゾン	—
トリアムシノロンアセトニド	レダコート、アフタッチ口腔用貼付剤、オルテクサー口腔用軟膏 他

[禁止される理由]

- ・ エネルギー代謝を活性化させ、競技力向上を狙って使用される。あるいは、陶酔感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 炎症を抑える作用があるので、ケガをしていても競技を継続できてしまうことがあるので注意。
- ・ 感染の増悪、続発性副腎機能不全、消化性潰瘍が発現する。

Q. 痔疾患用の糖質コルチコイドを含む注入軟膏や坐剤は禁止されますか？

A. 経直腸使用とみなされ禁止されます。

Q. 糖質コルチコイドを禁止されない経路（関節内・関節周囲・腱周囲注射等）で使用し、競技会検査で検出された時の対応は？

A. 使用経路について証明する医療記録を提示できるよう備えておく必要があります。

Q. 2021 年は大きな変更がありませんか？

A. 2021 年 3 月 22 日より競技会時の口腔内局所使用が禁止されました。また、2022 年 1 月 1 日から、すべての注射経路が禁止される予定です。

Ⅲ. 特定競技において禁止される物質

Q. アルコールが禁止表から除外になった意図は？

A. 今まで禁止されていた国際競技において、アルコール使用を禁止する他の手段（競技ルールの変更等）を是認するため。

P1. ベータ遮断薬

この分類におけるすべての禁止物質は特定物質である。

ベータ遮断薬は、以下の競技種目において**競技会(時)**に限って禁止される。指示がある場合は**競技会外**においても禁止される。

- アーチェリー(世界アーチェリー連盟:WA)(**競技会外** においても禁止)
- 自動車(国際自動車連盟:FIA)
- ビリヤード(全ての種目)(世界ビリヤード・スポーツ連合:WCBS)
- ダーツ(世界ダーツ連盟:WDF)
- ゴルフ(国際ゴルフ連盟:IGF)
- 射撃(国際射撃連盟:ISSF、国際パラリンピック委員会:IPC)(**競技会外** においても禁止)
- スキー/スノーボード(国際スキー連盟:FIS)ージャンプ、フリースタイル(エアリアル/ハーフパイプ)、スノーボード(ハーフパイプ/ビッグエアー)
- 水中スポーツ(世界水中連盟:CMAS)コンスタント・ウェイト アプネア(フィンありフィンなし)、ダイナミック アプネア(フィンありフィンなし)、フリーイマージョン アプネア、ジャンプ ブルー アプネア、スピアフィッシング、スタティック アプネア、ターゲットシューティングおよびパリアブル ウェイト アプネア

以下の物質(下表)が禁止されるが、これらに限定するものではない。

ベータ遮断薬の禁止医薬品例

以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない。

成分名	販売名
アセプトロール	アセタノール
アルプレノロール	—
アテノロール	テノミン 他
ベタキシロール	ケルロング、ベトプティック点眼液 他
ビソプロロール	メインテート、ビソノテープ 他
ブノロール	—
カルテオロール	ミケラン 他
カルベジロール	アーチスト 他
セリプロロール	セレクトール 他
エスモロール	ブレビブロック
ラベタロール	トランデート 他
レボブノロール※	レボブノロール塩酸塩 他
メチプラノロール	—
メプロロール	セロケン 他
ナドロール	ナディック
ネビボロール	—
オクスプレノロール	—
ピンドロール	カルビスケン 他
プロプラノロール	インデラル 他
ソタロール	ソタコール
チモロール	チモプトール点眼液 他

※日薬注:レボブノロールはブノロールの光学異性体の一方であり、2020年のWADA禁止表からは削除されていますが、本邦にはレボブノロール製剤が存在するため、わかりやすさを優先し、削除していません。

[禁止される理由]

- ・ 静穏作用のため選手の不安解消や「あがり」の防止、また、心拍数と血圧の低下作用で心身の動揺を少なくするため禁止。

Q. 眼圧を下げる点眼薬も禁止されますか？

A. 緑内障治療薬のベータ遮断薬の点眼薬は禁止されます。

2021 年監視プログラム

以下の物質が 2021 年監視プログラムに掲載される:

1. 蛋白同化薬: 競技会(時)および競技会外:
エクジステロン
 2. ベータ 2 作用薬: 競技会(時)および競技会外:
最低報告レベル未満のサルメテロールおよびビランテロール
 3. 2-エチルスルファニル-1H-ベンゾイミダゾール(ベミチル): 競技会(時)および競技会外
 4. 興奮薬: 競技会(時) のみ:
ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン
 5. 麻薬: 競技会(時) のみ:
コデイン、ヒドロコドン、トラマドール
 6. 糖質コルチコイド:
競技会(時)(経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用又は口腔内局所使用以外の投与経路)
競技会外(すべての投与経路)
- * 世界アンチ・ドーピング規程(第 4 条 5 項): “WADA は、署名当事者及び各国政府との協議に基づき、禁止表に掲載されていないが、スポーツにおける濫用のパターンを把握するために監視することを望む物質について監視プログラムを策定するものとする。”

○監視プログラムに掲載されている物質

成分名	販売名
エクジステロン	—
サルメテロール	—
ビランテロール	レルベア 他
2-エチルスルファニル-1H-ベンゾイミダゾール(ベミチル)	—
ブプロピオン	—
カフェイン	レスピア、無水カフェイン 他
ニコチン	ニコチネル TTS
フェニレフリン	ネオシネジン 他
フェニルプロパノールアミン	—
ピプラドロール	—
シネフリン	チンピ 他
コデイン	コデインリン酸塩 他
ヒドロコドン	—
トラマドール	トラマール、ワントラム 他
糖質コルチコイド	—

Q. 監視プログラムの物質は禁止されないのですか？

A. 当該年においては禁止されません。しかし、メルドニウムのように、2015 年は監視プログラムだった物質が、2016 年に禁止物質となったため違反となった事例もあるので、注意してください。

Q. 蛋白同化薬のエクジステロンとは何ですか？

A. エクジステロイドの 1 つで、変態ホルモン、脱皮ホルモンとして知られています。また、ほうれん草などにも少量含まれ、大量生産によりサプリメントとして流通しています。「ほうれん草は筋肉増強のもと」として有名な漫画がありますが、2021 年は監視物質で禁止されません。

Q. トラマドールは禁止されませんか？

A. 2019 年 3 月 1 日、国際自転車競技連合 (UCI) は、UCI 医事規則を改定し、競技会中のトラマドールの使用を禁止しました。世界アンチ・ドーピング規程に基づく禁止ではないため、禁止表国際基準 (Global DRO を含む) には反映されません。このように、競技団体が決めた規則等については、各競技団体にお問い合わせください。

本章の文献: 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構: 世界アンチ・ドーピング規程, 禁止表国際基準 2021

3. 2021年禁止表 主要な変更の要約と注釈

禁止表のデザイン変更

- ナビゲーションと使いやすさを改善するために2021禁止表のデザインを改めた。

特定方法

- 2021世界アンチ・ドーピング規程(Code)の第4条2.2項に従いM2.2はこれより特定方法となる。

濫用物質

- 2021世界アンチ・ドーピング規程の第4条2.3項は、“スポーツの領域以外で頻繁に濫用されるため禁止表において濫用物質であると具体的に特定される禁止物質”を濫用物質として定義した。
- 濫用物質としてコカイン、ジアモルヒネ(ヘロイン)、メチレンジオキシメタンフェタミン(MDMA/“エクスタシー”)、テトラヒドロカンナビノール(THC)を指定した。
- 他の物質は現在検討中であり、今後濫用物質として指定される場合がある。

常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

禁止物質

S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質

- 形質転換成長因子 β (TGF- β)シグナル伝達阻害薬は、略名よりも完全な名称として示した。
- IOX2は、低酸素誘導因子(HIF)活性化薬の例示として追加した。

S3. ベータ2作用薬

- 吸入ビランテロールは、製造販売会社の最大推奨投与量まで許可される。投与量は、最大投与量22 μ g相当となる定量噴霧量(metered dose)25 μ gとして示された。
- アルホルモテロール、及び、レボサルブタモール(レバルブテロール)を例示物質名として追加し、禁止であることを明確にした。

S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬

- S4.2とS4.3をまとめて、S4.2抗エストロゲン物質[選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)を含む]とした。専門用語を明確化にし、アンチ・ドーピングの目的では、すべてのこれらの物質はエストロゲン受容体に結合しエストロゲン作用を阻害する共通の作用を有していることを反映した。この変更によって、このカテゴリーにおいて、いかなる物質も追加、削除されることはない。

S5. 利尿薬および隠蔽薬

- 例外的に炭酸脱水酵素阻害薬の眼科的使用を許可する文言は、“局所眼科用使用される”と明確にした。

禁止方法

M2. 化学的および物理的操作

- 前述の説明のとおり、M2.2を特定方法でない方法から特定方法へ変更した。

競技会(時)に禁止される物質と方法

S6. 興奮薬

- 局所使用のためのイミダゾール誘導体の例示を、『例外(EXCEPTIONS)』へ追加した。これらは、ブリモニジン、クロナゾリン、フェノキサゾリン、インダナゾリン、ナファゾリン、オキシメタゾリンおよびキシロメタゾリンである。

S9. 糖質コルチコイド

- 糖質コルチコイドのさらなる例を禁止表へ追加した。いくつかの既存の例示名は、作用を有する薬物をより

反映するため明確化した。

- 2020年5月にコンサルテーションのために関係者に回付した2021年禁止表ドラフト案で提案したように、競技会(時)の糖質コルチコイドの全ての注射経路を禁止することが、2020年9月14-15日のWADA常任理事会において承認された。注射経路の例としては、静脈内、筋肉内、関節周囲、関節内、腱周囲、腱内、硬膜外、髄腔内、滑液嚢内、病巣内(ケロイド等)、皮内および皮下などがある。しかしながら、ルール変更を十分に広く伝え、情報提供および教育について十分な時間を与えるために、常任理事会は糖質コルチコイドの全ての注射経路を禁止し新たなルールを施行するのを2022年1月1日とすることを決定した。この1年で、例えば、競技者および医療従事者は薬物のウォッシュアウト期間の実践的な遂行をより良く理解し、分析機関は改定され物質特有の新たな報告値を取り入れる手続きを更新し、スポーツオーソリティ(sports authorities)は競技者、医療従事者及びサポートスタッフに対する教育ツールを開発し、アンチ・ドーピングにおいて臨床目的の糖質コルチコイドを安全に使用できるように取り組むものとする。
- 2021年3月22日より競技会時の糖質コルチコイドの口腔内局所使用を禁止した。

P1. ベータ遮断薬

- ネビボロールを例示として追加した。

2021年監視プログラム 主要な変更の要約と注釈

ベータ2作用薬: 競技会(時)および競技会外:

- ベータ2作用薬同士の組み合わせは、求められた汎用の状況に関するデータが得られたため削除された。
- 最低報告レベル未満のサルメテロールとビランテロールを監視プログラムに含め、それらが治療のための使用によるか、濫用のリスクがあるかをより適切に監視することとする。

* 以前の変更と説明の詳細については、www.wada-ama.org/en/questions-answers/prohibited-list-qaにある禁止表 Q&A を参照されたい。

4. 2021年禁止表国際基準 JADA による日本語版補足説明

2021年禁止表国際基準(日本語版)は、より明瞭な日本語版を作成するため、一部物質名については英語版と異なり、国内において汎用性の高い表記へと追加あるいは変更した。変更箇所は以下のとおり。

禁止表分類	英語版	2021年日本語版	
		該当頁	変更内容
禁止表全体	Code		内容をより明確にするため、2021世界アンチ・ドーピング規程と記載した。
S3	Levosalbutamol	9頁	Levosalbutamo(l 原文)は日本語訳としては、二つが使用されるため、レボサルブタモール(レバルブテロール)と併記した。
S3とS6	Micrograms	9頁と15頁	µg
S9	Flucortolone	18頁	Flucortolone(原文)は、Fluocortolone が国内において主となるため、フルコルトロン(Flucortolone)とフルオコルトロン(Fluocortolone)を併記した

5. 特に気をつけたい要指導医薬品・一般用医薬品と健康食品・サプリメント

1) 胃腸薬に注意

胃腸薬にはヒゲナミンやストリキニーネ(いずれも禁止物質)を含有する生薬チョウジやホミカが成分として含まれているものがあります。ヒゲナミン(チョウジ)はベータ2作用薬、ストリキニーネ(ホミカ)は興奮薬として禁止され、検出されれば直ちに違反です。胃腸薬を使う場合は禁止物質が含まれていないことを確認しましょう。

(例) 使ってはいけない胃腸薬

パンジアス顆粒(第一薬品工業)
金魚胃腸薬(大和合同製薬)

ワクナガ胃腸薬 G(湧永製薬)
赤玉はら薬(大和合同製薬) など

2) 滋養強壮薬に注意

滋養強壮薬には、禁止物質である蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む漢方薬、また、禁止物質であるストリキニーネ(ホミカ)が含まれているものがあります。そして、医薬品以外のいわゆる健康食品として、滋養強壮目的の錠剤やドリンク剤が多数市販されており、これらの中にテストステロン等の関連物質が含まれている可能性も否定できません。**国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。**

* 蛋白同化薬及び関連物質には、テストステロン、メチルテストステロンの他に、生薬成分である、海狗腎(カイクジン)、麝香(ジャコウ)、鹿茸(ロクジョウ)などがあります。

(例) 使ってはいけない滋養強壮薬:蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む

オットピン-S(ヴィタリス製薬)

外用ホルモン塗布剤オットピン(ヴィタリス製薬、大和製薬)

グローミン(大東製薬工業)

トノス(大東製薬工業)

ブリズマホルモン精(原沢製薬工業)

ブリズマホルモン軟膏(原沢製薬工業)

ブリズマホルモン錠(原沢製薬工業)

ペレウス(森下仁丹、日邦薬品工業)

マイクロゲン・パスタ(啓芳堂製薬)

活力・M(東南製薬)

強カパロネス(日新製薬)

強カパロネス内服液(メイトモロー)

金蛇精(糖衣錠)(摩耶堂製薬)

金蛇精 DI(明治薬品) など

3) 毛髪・体毛用薬に注意

毛髪・体毛用塗り薬では、男性ホルモンが配合されているものがあり、禁止されています。

国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。

(例) 使ってはいけない体毛用薬:蛋白同化薬(テストステロン)及び関連物質を含む

ペレウス(森下仁丹、日邦薬品工業)

マイクロゲン・パスタ(啓芳堂製薬) など

参考:一般用医薬品ではありませんが、円形脱毛症の場合には、糖質コルチコイドの内服が用いられることがあります。

4) 鎮咳去痰薬に注意

市販の鎮咳去痰薬に含まれるトリメトキノール、メキシフェナミンは禁止物質とみなされます。

また、生薬の南天実にはヒゲナミン(禁止物質)が含まれます。

(例) 使ってはいけない鎮咳去痰薬:トリメトキノール、メキシフェナミンを含む

アスクロン(大正製薬)

新カネドリン錠(廣昌堂)

セキエース(ダイト)

新トニン咳止め液(佐藤製薬)

セキカット(ダイト)

フストールシロップ A(オール薬品) など

5) 漢方薬に注意

漢方薬を構成する生薬には、それぞれたくさんの成分が含まれており、1つ1つの成分が禁止物質にあたるかどうか特定するのは困難です。漢方薬にも明らかに禁止物質を含むものがあり、例として、丁子、附子、細辛、南天実、呉茱萸にはヒゲナミン、麻黄にはエフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、ホミカにはストリキニーネ、そして前述の滋養強壮薬には蛋白同化作用を示す成分が含まれています。また、半夏にも微量ですがエフェドリン類が含まれるので、注意が必要です。さらに名前が同じでも製造販売会社、原料の産地、収穫の時期などで成分が違ふことがあります。また、カタカナ表記で西洋薬と間違えてしまうような漢方薬もあります。

○漢方薬の TUE 申請について: 一般的に漢方薬を使用しなくても疾患の治療が可能な場合、TUE 国際基準の付与基準に該当せず、承認されません。また、漢方薬が含有する禁止物質が特定できない場合 TUE 申請ができません。TUE は物質を申請して、その物質に対して治療使用特例が認められます。漢方薬の方剤名は物質名ではありませんので、方剤名で TUE 申請はできません。

6) 風邪薬やのど飴に注意

多くの総合感冒薬(いわゆる風邪薬)には禁止物質のエフェドリンやメチルエフェドリン等が含まれ、また、のど飴には禁止物質のヒゲナミンが含まれているものもあるため、注意が必要です。

7) その他の注意する医薬品

○鼻炎用薬: 市販の鼻炎用薬には興奮薬として禁止されるプソイドエフェドリンが配合されていることが多く、注意が必要です。

○鼻づまりの点鼻薬、点眼薬: ナファゾリン等の血管収縮剤は、点鼻・点眼を含む局所使用が許されていますが、何回も多量に使用して体内に吸収されると、アンチ・ドーピング規則違反が疑われる可能性があります。また、点鼻薬は連用により鼻づまりを悪化させる恐れがあります。

○アレルギーの内服薬: 市販のアレルギー用薬には禁止物質が配合されていることがあり、注意が必要です。

8) 健康食品・サプリメントに注意

国内外で多数の健康食品・サプリメントが入手できますが、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)は、スポーツでのサプリメントの使用を推奨していません。

また、「JADA サプリメント分析認証プログラム」は、2019年3月31日をもって終了し、国内で問題なく使用されてきた JADA 認証サプリメントが使用できなくなりました。そのため、アスリートは何を基準にサプリメント選ぶべきかを考える必要があります。

国立スポーツ科学センター(JISS)はスポーツに関するサプリメントを2つに分類し、サプリメントの必要性や内容については、年齢、性別、体格、競技種目、トレーニング内容、身体づくりの目的、個々の生活活動量や体調に合わせた対応が必要であるとしています。

1. ダイエタリーサプリメントおよびスポーツフード: 食事から十分な量が摂取できない場合に補われる栄養素や成分
2. エルゴジェニック: 運動能力に影響する可能性のある栄養素や成分

引用: アスリートの食事ハンドブック

●サプリメントを選ぶ時の注意

JISS が示す「ダイエタリーサプリメントおよびスポーツフード」のように、食事から十分な量が摂取できない場合に補われる栄養素や成分のサプリメントが必要になった場合、個々の生活活動量や体調などに合わせた対応だけでなく、アンチ・ドーピングについても注意が必要になります。このような時の判断には、Supplement411の「High Risk List」を確認したり、アンチ・ドーピング認証を取得したサプリメントを使用したりすることでリスクを減らすことができます。

① Supplement411「High Risk List」をチェックする

米国のアンチ・ドーピング機関「USADA」の公式サイトにはサプリメントの安全性に関するコンテンツ

「Supplement411」があり、禁止物質を含むサプリメントのデータベース「High Risk List」(リスト閲覧にはユーザー登録が必要)が掲載されています。サプリメントの中には汚染などにより禁止物質が入っている場合もあり、表示成分に禁止物質が含まれていなくても、すべての含有物質が明記されているわけではありません。商品名だけでなく会社名がリストに掲載されているかどうかなども参考にして判断します。

(参考)Supplement411 <https://www.usada.org/substances/supplement-411/>

②ガイドラインに基づいたサプリメントを選択

これまでは JADA によるサプリメント分析認証プログラムがあったが、この認証プログラムは 2019 年 3 月 31 日をもって終了となりました。

(参考)JADA サプリメント分析認証プログラムの終了について

https://www.playtruejapan.org/topics/entry_img/190403_3.pdf

同日「スポーツにおけるサプリメントの製品情報公開の枠組みに関するガイドライン」が公表され、アンチ・ドーピング認証を希望する事業者は規定の生産施設審査を受け、認証を取得することが必須であり、製造管理や保管、輸送などが評価の対象項目となること、また、製品分析を年に1度以上実施し、結果を公開することも求められています。

(参考)スポーツにおけるサプリメントの製品情報公開の枠組みに関するガイドライン

https://www.playtruejapan.org/entry_img/s-guideline.pdf

現在、(公財)日本分析センターがスポーツサプリメント製品の情報を公開しています。また、第三者によるサプリメント認証は、米国 NSF 社の「Certified for Sport」、英国 LGC 社の「Informed-Sport (IS)」、「Informed-Choice (IC)」、米国 BSCG 社の「Certified Drug Free」などの製品や原料が流通しています。リスクを軽減するには、これらの情報を参考にしてください。ただし、これらは製品の完全なる安全を保障するものではなく、あくまで自己責任となります。

●サプリメントの必要性を考えよう

アスリートから「サプリメントを服用したい」と相談された場合、食事から栄養が十分に摂れずに本来の能力が低下してしまう JISS が示す「ダイエタリーサプリメントおよびスポーツフード」は、アンチ・ドーピングに対応したサプリメントの服用が勧められます。しかし、アンチ・ドーピング制度において競技力向上の効果がある物質は禁止物質として厳格に禁じられていることからすれば、服用が許されているサプリメントには競技力向上の効果がないはずなので、果たしてサプリメントを服用するメリットが本当にあるのか、ということのアスリートと一緒に考えていただきたいと思います。

最終的には、サプリメントの摂取はアスリートの判断になりますが、サプリメントによるドーピングの違反となる場合のデメリットと、サプリメントを服用するメリットを今一度比べ、薬剤師のリテラシーを駆使してアスリートをサポートしてください。

6. 使用可能薬リスト 2021 年版 / 要指導医薬品・一般用医薬品: OTC DRUGS etc.

はじめに

- **有効成分が禁止物質を含まない**、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の一般用医薬品・要指導医薬品(一部、医薬部外品を含む)の例をあげました。
- **有効成分以外の成分(添加剤)に禁止物質が含まれていないかについては、原則確認しておりません。**これは、第 17 改正日本薬局方の製剤総則において、「添加剤は、製剤に含まれる有効成分以外の物質で、有効成分及び製剤の有用性を高める、製剤化を容易にする、品質の安定化を図る、又は使用性を向上させるなどの目的で用いられる。製剤には、必要に応じて、適切な添加剤を加えることができる。ただし、用いる添加剤はその製剤の投与量において薬理作用を示さず、無害でなければならない。また、添加剤は有効成分の治療効果を妨げるものであってはならない。」とされていることによります。ただし、本会での有効成分の確認時において、当該医薬品が内服薬、かつ、添加剤に動植物由来成分等が含まれていることが判明した場合にあっては、出来るだけ本リストから削除する方針で作業を行っています。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 主に健康なスポーツ選手が急性の病気に対して使用する内服薬、外用薬をあげています。
- 生薬や動植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- 名前全体が完全に一致することを確かめてください。ほとんど同じ名前でも、接頭語として「新」、接尾語として「錠」や「会社名」、アルファベットがついているだけで、成分の組成が異なることもあります。
- JAPIC 一般用医薬品集 2021 を参考に、現在市販されていると思われる製品をあげています。(特納品など、一部薬局店頭では入手しづらい製品もあります。)
- Global DRO による検索結果に加え、日本スポーツ協会発行のアンチ・ドーピング使用可能薬リスト 2021 に掲載されている製品についても記載しております。
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**

(1) 解熱鎮痛薬

(注意)

- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アスピリン	バイエルアスピリン	佐藤製薬
アスピリン・合成ヒドロタルサイト	バファリン A	ライオン
アセトアミノフェン	タイレノール A 小児用バファリン C II バファリンルナ J こどもリングルサット	ジョンソン・エンド・ジョンソン ライオン ライオン 佐藤製薬
アセトアミノフェン・イブプロフェン	グレラン・ビット ノーシンアイ頭痛薬	武田コンシューマーヘルスケア アラクス
アルミノプロフェン	ルミフェン	佐藤製薬
イブプロフェン	イブ リングルアイビー α 200	エスエス製薬 佐藤製薬

イブプロフェン・ブチルスコポリミン臭化物	エルペインコーワ	興和
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン S ユニペイン L	第一三共ヘルスケア 小林薬品工業
ロキソプロフェンナトリウム水和物・酸化マグネシウム	ロキソニン S プラス	第一三共ヘルスケア
ロキソプロフェンナトリウム水和物・乾燥水酸化アルミニウムゲル	バファリン EX	ライオン

(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アセトアミノフェン	こどもパブロン坐薬 キオフィーバ	大正製薬 樋屋奇応丸

(3) 総合感冒薬

● かぜ薬についての基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたが、依然多くの総合感冒薬にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれており、注意が必要である。また、カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状にあわせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- 多くの総合感冒薬にはエフェドリン類など多くの禁止物質が含まれている。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯など)には禁止物質(麻黄)が含まれている。
- 似たような名前でも処方異なるものに注意。名前が完全に一致することを確認する。
(例)○ストナアイビー、×ストナアイビージェル
→「ストナアイビー」は使用可能であるが、「ストナアイビージェル」にはメチルエフェドリンが含まれている。
- 2010年より、プソイドエフェドリンが禁止物質として再導入された。
- パブロン、ベンザブロック、ルルシリーズのほとんどには、禁止物質(メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄)が含まれている。
→パブロン、ベンザブロック、ルルシリーズは一般的な総合感冒薬であるため注意。
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは2004.1.1禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
→カフェインだけでなく、フェニルプロパノールアミンもモニタリング物質に該当する。
- コデインは、2017.1.1よりモニタリング物質となったため、検査結果は報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
イブプロフェン・ジヒドロコデインリン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム・ジフェニルピラリン塩酸塩・無水カフェイン	ストナアイビー	佐藤製薬
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	パイロン PL 顆粒 パイロン PL 錠	シオノギヘルスケア
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・プロメタジンメチレンジサリチ	パイロン PL 錠ゴールド	

ル酸塩・デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・ブロムヘキシシン塩酸塩		
クロルフェニラミンマレイン酸塩・アセトアミノフェン・無水カフェイン・ペントキシベリンクエン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム	新ルルエース ^注 注：健保組合等の組合員に特別限定販売されている商品で、広く市販されていない。	第一三共ヘルスケア
アンブロキシール塩酸塩・L-カルボシステイン・ジヒドロコデインリン酸塩・アセトアミノフェン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・リボフラビン	パブロン S ゴールド W 錠 パブロン S ゴールド W 微粒	大正製薬 大正製薬
アセトアミノフェン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・カフェイン水和物	ニシミドン液小児用	日新製薬・滋

(4) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、メキシフェナミン、トリメキノールは禁止物質。
→メキシフェナミンは WADA 禁止表に名称の記載はないが、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。
- ナンテンジツ(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり現在は禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
- コデインは、2017.1.1 よりモニタリング物質となったため、検査結果は報告される。
→鎮咳去痰薬にもモニタリング物質が含まれているものがある。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジヒドロコデインリン酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・リゾチーム塩酸塩	新ルビカップ	日水製薬
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・ジプロフィリン	新コンタックせき止めダブル持続性	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン
L-カルボシステイン・ブロムヘキシシン塩酸塩	クールワン去たんソフトカプセル ストナ去たんカプセル エフストリン去たん錠 タイムコール去たん錠	杏林製薬 佐藤製薬 大昭製薬 日邦薬品工業
ジヒドロコデインリン酸塩・グアイフェネシン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・無水カフェイン	新ブロン液エース	エスエス製薬
チペピジンヒベンズ酸塩・リゾチーム塩酸塩・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ニッシンせき止め顆粒	パナケイア製薬

(5) 鎮咳・去痰薬【トローチドロップ】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
デキストロメトルファンフェノールフタリン塩・塩化セチルピリジニウム	エフストリントローチ コデステシントローチ	大昭製薬 アクシス
セチルピリジニウム塩化物水和物・デキストロメトルファンフェノールフタリン塩・グアヤコールスルホン酸カリウム	コデミン G トローチ セキトローチ タイワケシノールトローチ テラポニンセキトローチ ノドロップコフ ベンザブロックトローチ	日新薬品工業 三宝製薬、福地製薬 大和製薬 日新薬品工業 日新薬品工業、高市製薬 武田コンシューマーヘルスケア

ノスカピン・グアヤコールスルホン酸カリウム・塩化セチルピリジニウム	新エスベナントローチ	白石薬品業
-----------------------------------	------------	-------

(6) 胃腸薬

<①胃炎・胃潰瘍、②腹痛(鎮痙・鎮痛薬)、③健胃・総合胃腸薬(配合薬)>

(注意)

- チョウジ(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
- ホミカ(ストリキニーネを含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 似たような名前で処方異なる場合があるので注意。
- 局所麻酔薬(オキセサゼイン:スイッチ OTC)は 2004.1.1 から使用可能。
→局所麻酔薬は以前は禁止されていたが、2004 年禁止表から削除され、使用可能となった。

<使用可能薬例> * : 指定医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 胃炎・胃潰瘍		
ニザチジン	アシノン Z アシノン Z 胃腸内服液 アシノン Z 錠	ゼリア新薬工業 ゼリア新薬工業 ゼリア新薬工業
ファモチジン	ガスター10、ガスター10 S 錠 ガスター10(散) ガスター10 内服液 ベッセン H2	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 新新薬品工業
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	イノセアワンブロック	佐藤製薬
② 腹痛(鎮痙・鎮痛薬)		
ブチルスコポラミン臭化物	ストマオフ糖衣錠 ブスコパン A 錠 ブチスコミン	ゼリア新薬工業 エスエス製薬 佐藤製薬
ブチルスコポラミン臭化物・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	ブスコパン M カプセル イノキュア S	エスエス製薬 小林薬品工業
ジサイクロミン塩酸塩・乾燥水酸化アルミニウムゲル・酸化マグネシウム	コランチル A 顆粒	塩野義ヘルスケア
オキセサゼイン	サクロン Q ロミノン三宝 Oz	エーザイ 三宝製薬
③ 健胃・総合胃腸薬(配合薬)		
ピレンゼピン塩酸塩水和物・炭酸水素ナトリウム・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・ピオチアスターゼ 2000	ガストール錠 ガストール細粒	エスエス製薬 エスエス製薬
水酸化マグネシウム	ミルマグ液 スイマグ	エムジーファーマ 三保製薬研究所
乾燥酵母	エビオス錠*	アサヒグループ食品
宮入菌(酪酸菌)末・ウルソデオキシコール酸	ミヤリサン U 錠* ミヤフローラ EX*	ミヤリサン製薬

(7) 消化薬

<使用可能薬例> * : 指定医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ウルソデオキシコール酸	タナベ胃腸薬ウルソ	田辺三菱製薬
有胞子性乳酸菌(ラクボン原末)・タカチアスターゼ N1・ピオチン	パンラクミン錠*	第一三共ヘルスケア

(8) 便秘治療薬

(注意)

- 女性用の便秘治療薬に注意。カタカナ表記でも漢方薬の製品がある。
 (例) ×新ココアポ A錠・S錠
 →「新ココアポ A錠・S錠」は防風通聖散という漢方薬であり、禁止物質である麻黄(エフェドリン類)を含有する。また、防風通聖散は、最近では皮下脂肪の分解等を目的に使用される事が多くなり、「ナイトール 85」、「ココスリム」のような製品名でも販売されている。
- グリセリン(グリセロール)は 2018 年 WADA 禁止表国際基準 主要な変更の要約と注釈 に記載されている通り、禁止表から除外されました。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
センノシド・ビスコジル	カイベール C ラクツール S	アラクス カイゲンファーマ
ビスコジル	コーラック カイラックス	大正製薬 日新薬品工業
ビスコジル・センノサイドカルシウム・ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	スルーラックプラス	エスエス製薬
ピコスルファートナトリウム水和物	ピコラックス ビュースルー・ソフト	佐藤製薬 皇漢堂製薬
ピコスルファートナトリウム水和物・ビフィズス菌・ラクトミン(乳酸菌)	ビオフェルミン便秘薬	ビオフェルミン製薬
酸化マグネシウム	アクアナチュラル便秘薬 スラーリア便秘薬	佐藤薬品工業 ロート製薬
炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	コーラック坐薬タイプ 新レシカルボン坐剤 S	大正製薬 ゼリア新薬工業
グリセリン	イチジク浣腸 グリセリン浣腸	イチジク製薬 各社
水酸化マグネシウム	ミルマグ液 スイマグ	エムジーファーマ 三保製薬研究所

(9) 整腸薬・下痢止め

<使用可能薬例> * : 指定医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸ロペラミド	イノック下痢止め トメダインコーワフィルム ピシャット下痢止め OD錠 ロペラマックサット	湧永製薬 興和 大幸薬品 佐藤製薬
カゼイ菌・ビフィズス菌	ヤクルト BL 整腸薬*	ヤクルト本社
ビフィズス菌・ラクトミン	わかもと整腸薬*	わかもと製薬
ラクトミン(フェカリス菌・アシドフィルス菌)・ビフィズス菌・ジメチルポリシロキサン	ラッパ整腸薬 BF*	大幸薬品
宮入菌(酪酸菌)末	強ミヤリサン(錠)*	ミヤリサン製薬
コンク・アシドフィルス菌末・コンク・ビフィズス菌末・コンク・フェーカリス菌末	新ビオフェルミン S錠* 新ビオフェルミン S細粒*	ビオフェルミン製薬 ビオフェルミン製薬

(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む)

(注意)

- メチルエフェドリン、プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- カフェイン、フェニレフリンは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
→アレルギー用薬にもモニタリング物質が含まれている。
- 市販のアレルギー用薬には禁止物質やモニタリング物質を配合する薬が多い。
→生薬を配合するものにも注意が必要。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
メキタジン	ストナリニ・ガード ポジナール M 錠	佐藤製薬 ノーエチ薬品
メキタジン・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・ニコチン酸アミド	ピロット A 錠	全薬工業
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ糖衣錠	興和
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グルコン酸カルシウム水和物・アスコルビン酸散	タミナス A 錠	湧永製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・リン酸ピリドキサル	アレギトール	日邦薬品工業
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・ピリドキシン塩酸塩・グルコン酸カルシウム水和物	アレルギーール錠	第一三共ヘルスケア
ケトチフェンマル酸塩	コンタック 600 ファースト ザジテン AL 鼻炎カプセル ヒストミン鼻炎カプセル Z	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 小林薬品工業
アゼラスチン塩酸塩	スカイナーAL 錠	エーザイ
エピナスチン塩酸塩	アレジオン 20 アルガード持続性鼻炎シールド 24h	エスエス製薬 ロート製薬
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ FX アレグラFXジュニア	久光製薬 久光製薬
セチリジン塩酸塩	コンタック鼻炎 Z ストナリニ Z	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 佐藤製薬
エバステリン	エバステル AL	興和
ペミロラストカリウム	アレギサール鼻炎	田辺三菱製薬

(11) 点鼻薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリン(イミダゾール誘導体)などの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
→ナファゾリン、テトラヒドロゾリン等のイミダゾール誘導体は、点鼻を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、アンチ・ドーピング規則違反が疑われる可能性がある。

→糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用、口腔内局所使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンザルコニウム塩化物	クールワン鼻スプレー ナザール「スプレー」	杏林製薬 佐藤製薬
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・塩酸リドカイン・ベンゼトニウム塩化物	新ルル点鼻薬	第一三共ヘルスケア
塩酸テトラヒドロゾリン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンゼトニウム塩化物・リドカイン	ベンザ鼻炎スプレー	武田コンシューマーヘルスケア
オキシメタゾリン塩酸塩	ナシビン M スプレー	佐藤製薬
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン AL 鼻炎スプレー α	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン
ケトチフェンフマル酸塩・ナファゾリン塩酸塩	パブロン点鼻クイック JL	大正製薬
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	コンタック鼻炎スプレー〈季節性アレルギー専用〉 ナザール α AR〈季節性アレルギー専用〉 パブロン鼻炎アタック JL	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 佐藤製薬

(12) 吐き気・乗り物酔い予防薬

(注意)

- 吐き気・乗り物酔いの予防薬には、カフェインを含むものが多数ある。
- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸メクリジン・ピリドキシン塩酸塩	スローソフト	伊丹製薬
塩酸メクリジン・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	乗り物酔い止め QD 錠 タケダ乗り物酔い止め トラベルミン1	第一三共ヘルスケア 武田コンシューマーヘルスケア エーザイ
マレイン酸フェニラミン・アミノ安息香酸エチル・スコポラミン臭化水素酸塩水和物・無水カフェイン・ピリドキシン塩酸塩	アネロン「ニスキャップ」	エスエス製薬
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	トラベルミン チュロップぶどう味 トラベルミン チュロップレモン味 センパア・QT センパア QT〈ジュニア〉	エーザイ エーザイ 大正製薬 大正製薬
塩酸メクリジン・ジプロフィリン	トリブラ S 錠	大木製薬
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン トラベルミン・ジュニア マイトラベル錠	エーザイ エーザイ 興和

(13) 催眠・鎮静薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジフェンヒドラミン塩酸塩	グ・スリーP ドリエル ネオデイ	第一三共ヘルスケア エスエス製薬 大正製薬

(14) 鉄欠乏性貧血用薬

(注意)

- 生薬由来成分が配合されている鉄剤は注意。
→成分が確認できるかチェックする。
- 鉄剤注射はドーピングではないが、安易な注射は禁止
→鉄剤の静脈内注射は、鉄分の過剰摂取につながりやすく、急性及び慢性の副作用を引き起こすおそれがあるとして、2019年1月、厚生労働省、スポーツ庁、日本医師会から通知が発出されています。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
溶性ピロリン酸第二鉄・アスコルビン酸・トコフェロール酢酸エステル・シアノコバラミン・葉酸	マスチゲン錠	日本臓器製薬
溶性ピロリン酸第二鉄・シアノコバラミン・葉酸	ファイチ ヘマニック	小林製薬 全薬工業

(15) 痔疾用薬

(注意)

- 多くの痔疾用の坐薬・軟膏には、血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用はすべて禁止。
→糖質コルチコイドを含む注入軟膏・坐剤などを直腸経由で使用することは禁止。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
リドカイン・グリチルレチン酸・アラントイン・トコフェロール酢酸エステル	ボラギノール M 軟膏 ボラギノール M 坐剤	武田コンシューマーヘルスケア 武田コンシューマーヘルスケア
リドカイン・酸化亜鉛・クロルヘキシジン塩酸塩・アラントイン・グリチルレチン酸・トコフェロール酢酸エステル・l-メントール	レック H 軟膏 レック H 坐剤	湧永製薬 湧永製薬

(16) 女性用薬(膣カンジダ関連薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
クロトリマゾール	エンペシド L	佐藤製薬
オキシコナゾール硝酸塩	オキナゾール L100	田辺三菱製薬

	フェミニーナ 腔カンジダ錠	小林製薬
ミコナゾール硝酸塩	メイトリート メイトリートクリーム	大正製薬 大正製薬
イソコナゾール硝酸塩	メンソレータムフレディ CC 腔錠 メンソレータムフレディ CC クリーム	ロート製薬 ロート製薬

(17) 目薬

<①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③人工涙液・ドライアイ、④洗眼薬、⑤花粉症・抗アレルギー>

(注意)

- ナファゾリンなど(イミダゾール誘導体)の血管収縮剤は、点眼を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、アンチ・ドーピング規則違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 感染症		
スルファメトキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・イブシロン-アミノカブロン酸・ピリドキシン塩酸塩	抗菌アイリス使いきり	大正製薬
スルファメトキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム	新サルファ・ルビー ノアール SG ノアールワン SG	日邦薬品 佐藤製薬 佐藤製薬
スルファメトキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム	ユニーサルファ目薬	小林薬品工業
スルファメトキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	サンテ抗菌新目薬	参天製薬
スルファメトキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・酢酸 d- α -トコフェロール	ロート抗菌目薬 EX	ロート製薬
スルファメトキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・イブシロン-アミノカブロン酸	ティアレ抗菌目薬	オフテクス
② ビタミン類・疲れ目		
ネオスチグミンメチル硫酸塩・シアノコバラミン・フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	アイリス 50	大正製薬
ネオスチグミンメチル硫酸塩・イブシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・酢酸 d- α -トコフェロール・タウリン・パンテノール	サンテ 40 プラス	参天製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン・タウリン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・ネオスチグミンメチル硫酸塩・L-アスパラギン酸カリウム・グリチルリチン酸二カリウム	新サンテドウ α	参天製薬
シアノコバラミン・ピリドキシン塩酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	ポポンピュメリ目薬 R	シオノギヘルスケア
タウリン・酢酸 d- α -トコフェロール・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム・ネオスチグミンメチル硫酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ロートゴールド 40	ロート製薬
ネオスチグミンメチル硫酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸	ノアール小児用	佐藤製薬

ニカリウム・イプシロン-アミノカブロン酸・L-アスパラギン酸カリウム・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム		
③ 人工涙液・ドライアイ		
塩化ナトリウム・塩化カリウム	アイブルーCL ソフトサンティア	カイゲンファーマ 参天製薬
塩化ナトリウム・ヒプロメロース	アスパラ目薬モイスト CL	田辺三菱製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ヒドロキシエチルセルロース	なみだロートコンタクト	ロート製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ブドウ糖	New マイティア CL-a	千寿製薬
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・塩化ナトリウム・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン	スマイルコンタクトピュア	ライオン
塩化ナトリウム・塩化カリウム・タウリン	アイリス CL-I ネオ	大正製薬
④ 洗眼薬		
イプシロン-アミノカブロン酸・アラントイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・トコフェロール酢酸エステル	アイボン d	小林製薬
イプシロン-アミノカブロン酸・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム	アルガード目すっきり洗眼薬 α	ロート製薬
イプシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・タウリン	フレッシュアイ AG	第一三共ヘルスケア
グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・酢酸 d-α-トコフェロール・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸ナトリウム	ロート C キューブアミノモイスト	ロート製薬
⑤ 花粉症・抗アレルギー		
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩	アイラート AG サンテアルフリー新目薬 ビュークリア AL クール スタディーALG	全薬工業 参天製薬 ゼリア新薬工業 キョーリンリメディオ
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	エーゼットアルファ	ゼリア新薬工業
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン AL 点眼薬	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・プラノプロフェン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	ロートアルガードクリアブロック Z ロートアルガードクリアマイルド Z	ロート製薬 ロート製薬
ケトチフェンフマル酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・タウリン	アイリス AG ガード	大正製薬
アシタザノラスト水和物	アイフリーコーワ AL	興和
ペミロラストカリウム	ノアール P ガード点眼液	佐藤製薬
トラニラスト	ロートアルガードプレテクト	ロート製薬

(18) うがい薬・口腔内用薬

(注意)

- チョウジ(ヒゲナミンを含む)が配合されているうがい薬や歯痛・歯槽膿漏薬に注意。(WADA 禁止表 S2.ベータ2 作用薬)

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ポビドンヨード	浅田飴のどクールスプレー イソジンうがい薬 明治うがい薬 ネオヨジンうがいぐすり フィニッシュコーワ	浅田飴 シオノギヘルスケア 明治 岩城製薬 興和
クロルヘキシジングルコン酸塩	うがい薬コロロ SP	サラヤ
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	セピーAZ のどスプレークール パブロンうがい薬 AZ ルルのどスプレー	ゼリア新薬工業 大正製薬 第一三共ヘルスケア
セチルピリジニウム塩化物水和物	ヴィックス メディケイテッド ドロップ B・C・GA・GF・HL・K・L・O・R・S・U* のどぬーるスプレークリアミント a*	大正製薬 小林製薬
セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム	ペレックストローチ	大鵬薬品工業
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・セチルピリジニウム塩化物水和物	チョコラ BB 口内炎リペアショット	エーザイ
アズレンスルホン酸ナトリウム・グリチルレチン酸・セチルピリジニウム塩化物水和物	サトウ口内軟膏	佐藤製薬
フッ化ナトリウム	エフコート	サンスター

(19) 皮膚外用薬

<①殺菌消毒薬、②しもやけ・あかぎれ用薬、③液体絆創膏、④鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬、⑤殺虫剤、⑥毛髪用薬、⑦化膿性疾患用薬、⑧抗真菌薬、⑨抗ウイルス薬>

(注意)

- 多くの軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれているが、2005.1.1 から皮膚外用薬としての糖質コルチコイドは使用可能になった。
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用はすべて禁止、それ以外の投与経路については禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 殺菌消毒薬		
ポビドンヨード	イソジンきず薬 イソジン軟膏 明治きず薬 明治きず軟膏	シオノギヘルスケア シオノギヘルスケア 明治 明治
オキシドール	オキシドール	各社
ベンザルコニウム塩化物	オスパン S ラビネット P	武田コンシューマーヘルスケア 健栄製薬

クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビスコール S	サラヤ
セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ジブカイン塩酸塩・ナファゾリン塩酸塩	キズアワワ	小林製薬
ベンザルコニウム塩化物・ナファゾリン塩酸塩・ジフェンヒドラミン塩酸塩・ジブカイン塩酸塩	新レブメント-FN	湧永製薬
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	マキロン S	第一三共ヘルスケア
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン	ムヒのきず液	池田模範堂
② しもやけ・あかぎれ用薬		
白色ワセリン	白色ワセリン	各社
ヘパリン類似物質	HP クリーム アットノン	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 小林製薬
ヘパリン類似物質・ジフェンヒドラミン・トメントール	シモアキュア	小林製薬
トコフェロール酢酸エステル・ニコチン酸ベンジルエステル・ジフェンヒドラミン・グリチルリチン酸二カリウム	ハイスキール	佐藤製薬
③ 液体絆創膏		
ピロキシリン	サカムケア a	小林製薬
ピロキシリン・d-カンフル	コロスキン	東京甲子社
④ 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬		
インドメタシン	インサイドハイパップ P バンテリンコーワ新ミニパット	エスエス製薬 興和
インドメタシン・トメントール	サロンパス EX バンテリンコーワ液 S バンテリンコーワゲル LT	久光製薬 興和 興和
ケトプロフェン・トメントール	オムニードケトプロフェンパップ	帝國製薬
フェルビナク	ナボリン フェルビナク 70 パスタイム FX7 フェイタスシップ	エーザイ 祐徳薬品工業 久光製薬
フェルビナク・トメントール	サロメチール FB ゲル α ゼノールエクサム SX ゼノールエクサム液ゲル エアーサロンパス DX	佐藤製薬 大鵬薬品工業 大鵬薬品工業 久光製薬
ジクロフェナクナトリウム	サロメチールジクロロローション ジクロテクト PRO テープ ボルタレン EX テープ ボルタレン AC ローション フェイタス Z ゲル	佐藤製薬 大正製薬 グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 久光製薬
ジクロフェナクナトリウム・トメントール	ジクロテクト PRO スプレー フェイタス Z α ローション ボルタレン EX スプレー	大正製薬 久光製薬 グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン S テープ ロキソニン S パップ ロキソニン S ゲル	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア

サリチル酸グリコール・dl-メントール・グリチルレチン酸	アイスラブゲル	ロート製薬
サリチル酸グリコール・l-メントール・トコフェロール酢酸エステル	トクホン E	大正製薬
サリチル酸メチル・l-メントール・dl-カンフル・ノナン酸バニリルアミド・クロルフェニラミンマレイン酸塩・チモール	アンメルツヨココ	小林製薬
サリチル酸グリコール・l-メントール・ノニル酸ワニリルアミド・トコフェロール酢酸エステル・グリチルリチン酸	トクホン チール A	大正製薬
クロタミド・ジフェンヒドラミン塩酸塩・グリチルレチン酸・アラントイン・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	オイラックスソフト	第一三共ヘルスケア
ジフェンヒドラミン塩酸塩・リドカイン・グリチルレチン酸・パンテノール・トコフェロール酢酸エステル	近江兄弟社メンターム EX ソフト	近江兄弟社
リドカイン・トコフェロール酢酸エステル・ジフェンヒドラミン塩酸塩・イソプロピルメチルフェノール	フェミニーナ軟膏 S	小林製薬
ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・l-メントール・dl-カンフル・イソプロピルメチルフェノール	ムヒ S	池田模範堂
ジフェンヒドラミン塩酸塩・パンテノール・トコフェロール酢酸エステル・グリチルレチン酸	ムヒソフト GX ムヒソフト GX 乳状液	池田模範堂 池田模範堂
クロタミド・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	ユースキン I ユースキン I ローション ユースキン N	ユースキン製薬 ユースキン製薬 ユースキン製薬
ジフェンヒドラミン塩酸塩・酸化亜鉛・グリチルレチン酸	レスタミンコーワパウダークリーム	興和
ウフェナマート・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸	ロバック U	武田コンシューマーヘルスケア
⑤ 殺虫薬		
ディート	キンカン虫よけスプレー P* サラテクト FA スキンベープミスト SH ムヒの虫よけムシペール α	金冠堂 アース製薬 フマキラー 池田模範堂
⑥ 毛髪用薬		
ミノキシジル	リアップ	大正製薬
⑦ 化膿性疾患用薬		
イブプロフェンピコノール	エバユースにきび薬 フレッシングアクネクリーム	第一三共ヘルスケア 久光製薬
イブプロフェンピコノール・イソプロピルメチルフェノール	ペアアクネクリーム W	ライオン
クロルヘキシジングルコン酸塩	オロナイン H 軟膏	大塚製薬
コリスチン硫酸塩・バシトラシン	ドルマイシン軟膏	ゼリア新薬工業
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ポリミキシン B 硫酸塩	テラマイシン軟膏 a	ジョンソン・エンド・ジョンソン
⑧ 抗真菌薬		
ラノコナゾール・クロルフェニラミンマレイン酸塩・クロタミド・グリチルレチン酸・l-メントール	ピロエース Z 液	第一三共ヘルスケア

ブテナフィン塩酸塩・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール・ベンザルコニウム塩化物	スコルバ EX	武田コンシューマーヘルスケア
ブテナフィン塩酸塩・塩酸リドカイン・dl-カンフル	ラマストン MX2 ラマストン MX2 液 ラマストン MX2 ゲル	佐藤製薬 佐藤製薬 佐藤製薬
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール AT 液 ラミシール AT クリーム	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン
テルビナフィン塩酸塩・ジフェンヒドรามイン塩酸塩・グリチルレチン酸・イソプロピルメチルフェノール	バリアクト Hi クリーム	ゼリア新薬工業
オキシコナゾール硝酸塩・リドカイン・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール	ニュータムシチンキゴールド a	小林製薬
ビホナゾール・リドカイン・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール	ネクスト LX 液 ネクスト LX クリーム ネクスト LX スプレー	新生薬品 新生薬品 新生薬品
ミコナゾール硝酸塩・クロタミトン・リドカイン・グリチルレチン酸ニカリウム・尿素	ダマリン L ダマリン S	大正製薬 大正製薬
⑨ 抗ウイルス薬		
アシクロビル	アクチビア軟膏 ヘルペシアクリーム	グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン 大正製薬
ビダラビン	アラセナ S アラセナ S クリーム	佐藤製薬 佐藤製薬

7. 使用可能薬リスト 2021 年版 / 医療用医薬品:ETHICAL DRUGS

はじめに

- **有効成分が禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。**
- **有効成分以外の成分(添加剤)に禁止物質が含まれていないかについては、原則確認しておりません。**これは、第17改正日本薬局方の製剤総則において、「添加剤は、製剤に含まれる有効成分以外の物質で、有効成分及び製剤の有用性を高める、製剤化を容易にする、品質の安定化を図る、又は使用性を向上させるなどの目的で用いられる。製剤には、必要に応じて、適切な添加剤を加えることができる。ただし、用いる添加剤はその製剤の投与量において薬理作用を示さず、無害でなければならない。また、添加剤は有効成分の治療効果を妨げるものであってはならない。」とされていることによります。ただし、本会での有効成分の確認時において、当該医薬品が内服薬、かつ、添加剤に動植物由来成分等が含まれていることが判明した場合にあっては、出来るだけ本リストから削除する方針で作業を行っています。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。記載以外にも同等な医薬品がある場合もあります。
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、先発医薬品と同一の有効成分を含有しているため、両者の差異は基本的にありません。
- 生薬や動植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- Global DRO による検索結果に加え、日本スポーツ協会発行のアンチ・ドーピング使用可能薬リスト 2021 に掲載されている製品についても記載しております。
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**

(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬

<①非ピリン系解熱鎮痛薬、②配合剤、③非ステロイド性抗炎症薬、④片頭痛治療薬>

● **かぜ薬についての基本的な考え方**

カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状に合わせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯・麻黄湯・麻黄附子細辛湯など)には禁止物質(麻黄・附子・細辛)が含まれている。
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、麻黄にはエフェドリン類、附子・細辛にはヒゲナミンなどの禁止物質が含まれている。
- モニタリング物質のカフェイン(2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更)、トラマドールは使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
	① 非ピリン系解熱鎮痛薬

アセトアミノフェン(パラセタモール)	カロナール 他
② 配合剤(頭痛、感冒など)	
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン配合錠 A330 他
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	PL 配合顆粒、幼児用 PL 配合顆粒、ピーエイ配合錠、トーフチーム配合顆粒 他
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ペレックス配合顆粒、小児用ペレックス配合顆粒
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アシルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒
③ 非ステロイド性抗炎症薬	
－酸性抗炎症薬－	
アスピリン	アスピリン
アセメタシン	ランツジールコーワ錠
アンピロキシカム	フルカムカプセル 他
イブプロフェン	ブルフェン 他
インドメタシン	インテバンクリーム 他
インドメタシンファルネシル	インフリー
エトドラク	オステラック錠、ハイペン錠 他
オキサプロジン	アルボ錠
ケトプロフェン	ケトプロフェン坐剤
ザルトプロフェン	ソレトン錠、ペオン錠 他
ジクロフェナクナトリウム	ナポール SR カプセル、ボルタレン他
スリンダク	クリノリル錠
セレコキシブ	セレコックス錠
ナブメトン	レリフェン錠
ナブロキセン	ナイキサン錠
ピロキシカム	バキソ 他
プラノプロフェン	ニフラン錠 他
フルルビプロフェン	フロベン 他
メフェナム酸	ポンタール 他
メロキシカム	モービック錠 他
モフェゾラク	ジソペイン錠
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン 他
ロルノキシカム	ロルカム錠
－塩基性抗炎症薬－	
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠
－その他－	
プレガバリン	リリカカプセル
ミロガバリン	タリージェ
④ 片頭痛治療薬	
エレクトリプタン臭化水素酸塩	レルパックス錠
スマトリプタンコハク酸塩	イミグラン 他
ゾルミトリプタン	ゾーミグ 他
ナラトリプタン塩酸塩	アマーシ錠
リザトリプタン安息香酸塩	マクサルト
塩酸ロメリジン	ミグシス錠

(2) 中枢性筋弛緩薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
アフロクアロン	アロフト錠 他
エペリゾン塩酸塩	ミオナール 他
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	リンラキサー錠 他
チザニジン塩酸塩	テルネリン 他

(3) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、附子・丁子・細辛・南天実・呉茱萸(いずれもヒゲナミンを含む)、メキシフェナミン、トリメチノールは禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬、S6.興奮薬)
→メキシフェナミンは WADA 禁止表に名称の記載はないが、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。
- コデインは、2017.1.1 よりモニタリング物質に追加され、禁止はされないが、検査結果は報告される。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－中枢性鎮咳薬－	
エプラジノン塩酸塩	レスプレン錠
クロペラスチン塩酸塩	フスタゾール糖衣錠
クロフェダノール塩酸塩	コルドリン
コデインリン酸塩水和物	コデインリン酸塩
ジメモルファンリン酸塩	アストミン 他
チペピジンヒベンズ酸塩	アスベリン
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	メジコン散・錠 他
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・クレゾールスルホン酸カリウム	メジコン配合シロップ
ペントキシベリンクエン酸塩	トクレスパンスールカプセル他
ベンプロペリンリン酸塩	フラベリック錠
－去痰薬－	
Ｌ-カルボシステイン	ムコダイン、カルボシステイン錠 他
アンブロキシオール塩酸塩	ムコソルバン、ムコサール 他
フドステイン	クリアナール 他
ブロムヘキシン塩酸塩	ビソルボン錠・細粒 他

(4) 気管支拡張薬・喘息・COPD 治療薬

(注意)

- ベータ2作用薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬)
- 禁止物質「ベータ2作用薬」のうち、吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g、12時間ごとに800 μ gを超えない)*、吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量54 μ g)*および吸入サルメテロール(24時間で最大200 μ g)は禁止されず、TUEも不要。
*尿中サルブタモールが1000ng/mL、あるいは尿中ホルモテロールが40ng/mLを超える場合は、違反が疑われる分析報告(AAF)として扱われる。
→サルタノールインヘラー、ベネトリン吸入液**、シムビコートタービュヘイラー(ブデソニドとの配合剤)、アドエア(エアゾール、ディスカス)(いずれもフルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、フルティフォームエアゾール(フルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、セレベント(ロタディスク、ディスカス)、オーキシスタービュヘイラー***の9製品が上記3成分を含有する吸入薬。
**サルブタモール硫酸塩を主成分とするベネトリン吸入液については、ネブライザーでの使用を前提とするものであり、WADAの禁止リストQ&A「WHAT IS THE STATUS OF NEBULIZERS?」に記載の通りTUEが必要となります。
***ホルモテロールは24時間で最大18 μ g。
- 糖質コルチコイドの吸入使用は禁止されない。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、附子・丁子・細辛・南天実・呉茱萸(いずれもヒゲナミンを含む)は禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬、S6.興奮薬)
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－キサンチン誘導体－ アミノフィリン水和物	ネオフィリン原末・錠
テオフィリン	テオドール、ユニフィルLA錠、テオロング、スロービッド 他
－ロイコトリエン拮抗薬－ プラニルカスト水和物	オノン 他
モンテルカストナトリウム	キプレス、シングレア 他
－抗コリン薬(吸入)－ イプラトロピウム臭化物水和物	アトロベントエロゾル
グリコピロニウム臭化物	シーブリー吸入用カプセル
チオトロピウム臭化物水和物	スピリーバ

<使用可能薬例(吸入ベータ2作用薬、吸入ベータ2作用薬+吸入糖質コルチコイド、吸入糖質コルチコイド)>

成分名	代表的な販売名
－吸入ベータ2作用薬－ サルブタモール硫酸塩	サルタノールインヘラー
サルメテロールキシナホ酸塩	セレベント
ホルモテロールフマル酸塩水和物	オーキシスタービュヘイラー
－吸入ベータ2作用薬 +吸入糖質コルチコイド－ サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル	アドエア
ホルモテロールフマル酸塩水和物・ブデソニド	シムビコートタービュヘイラー

ホルモテロールフマル酸塩水和物・フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルティフォームエアゾール
ビランテロールトリフェニル酢酸塩・フルチカゾンフランカルボン酸エステル	レルベア
－吸入糖質コルチコイド－	
シクレソニド	オルベスコインヘラー
ブデソニド	パルミコート
フルチカゾンフランカルボン酸エステル	アニュイティ 他
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルタイド
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	キューバールエアゾール
モメタゾンフランカルボン酸エステル	アズマネックスツイストヘラー

(5) アレルギー治療薬

(注意)

- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用は競技会(時)禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用は TUE が必要、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)で、尿中濃度 150 µg/mL を超える場合は禁止される。
→プソイドエフェドリンが配合されているディレグラ配合錠(サノフィ)がアレルギー性鼻炎治療薬として販売されている。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－抗ヒスタミン薬－	
クレマスチンフマル酸塩	タベジール、テルギン G 他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ 他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギン散、クロタミンシロップ、ネオレスタミンコーワ散 他
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ錠
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン 他
ヒベンズ酸プロメタジン、プロメタジン塩酸塩、プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	ヒベルナ散・糖衣錠、ピレチア
メキタジン	ゼスラン、ニポラジン 他
－抗アレルギー薬－	
アゼラスチン塩酸塩	アゼプチン錠 他
エバスチン	エバステル 他
エピナスチン塩酸塩	アレジオン 他
エメダスチンフマル酸塩	レミカットカプセル 他
オキサトミド	セルテクト 他
オロパタジン塩酸塩	アレロック 他
クロモグリク酸ナトリウム	インターール 他
ケトフェンフマル酸塩	ザジテン 他
スプラタストシル酸塩	アイピーティ 他

セチリジン塩酸塩	ジルテック 他
デスロラタジン	デザレックス錠
トラニラスト	リザベン 他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ 他
ヒドロキシジン塩酸塩、ヒドロキシジンパモ酸塩	アタラックス、アタラックス-P 他
ビラスチン	ビラノア
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ 他
ベポタスチンベシル酸塩	タリオン
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ヒスタリジン錠 他
ラマトロバン	バイナス錠
ルパタジンフマル酸塩	ルパフィン
レボセチリジン塩酸塩	ザイザル
ロラタジン	クラリチン 他

(6) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
ジフェニドール塩酸塩	セファドール 他
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン配合錠
ジメンヒドリナート	ドラマミン錠
ベタヒスチンメシル酸塩	メリスロン錠 他

(7) 胃腸薬

<①胃炎・胃潰瘍、②腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)、③胃腸機能調整薬>

(注意)

- 局所麻酔薬(オキセサゼイン等)は 2004.1.1 から使用可能となった。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
① 胃炎・胃潰瘍	
—H₂受容体拮抗薬—	
シメチジン	タガメット錠・細粒、カイロック細粒 他
ニザチジン	アシノン錠 他
ファモチジン	ガスター錠・D 錠・散 他
ラニチジン塩酸塩	ザンタック錠 他
ラフチジン	プロテカジン 他
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	アルタットカプセル・細粒 他
—プロトンポンプ阻害薬—	
エソメプラゾール	ネキシウムカプセル

オメプラゾール	オメプラール錠、オメプラゾン錠 他
ラベプラゾールナトリウム	パリエット錠 他
ランソプラゾール	タケブロンカプセル・OD錠 他
－プロトンポンプ阻害・酸抑制－ ボノプラザンフマル酸塩	タケキャブ錠(武田)

－酸中和薬－ 乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム	マーロックス懸濁用配合顆粒、マルファ懸濁用配合顆粒 他
合成ケイ酸アルミニウム	合成ケイ酸アルミニウム
－粘膜抵抗強化薬－ アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール錠
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・L-グルタミン	マーズレン、グリマック配合顆粒 他
アルギン酸ナトリウム	アルロイド G 他
アルジオキサ	アルジオキサ錠 他
エカベトナトリウム水和物	ガストローム顆粒 他
スクラルファート水和物	アルサルミン 他
ポラプレジンク	プロマック 他
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	キャベジン U コーワ錠 他
－粘液産生・分泌促進薬－ テプレノン	セルベックス 他
レバミピド	ムコスタ 他
－胃粘膜微小循環改善薬－ セトラキサート塩酸塩	ノイエル 他
ソファルコン	ソロン 他
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	ウルグートカプセル 他
② 腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)	
ブチルスコポラミン臭化物	ブスコパン錠 他
ブトロピウム臭化物	コリオパン
チメピジウム臭化物水和物	セスデンカプセル・細粒 他
③ 胃腸機能調整薬	
アコチアミド塩酸塩水和物	アコファイド錠
イトプリド塩酸塩	ガナトン錠 他
ジメチルポリシロキサン	ガスコン 他
ドンペリドン	ナウゼリン 他
メクロプラミド	エリーテン錠、テルペラン錠、プリンペラン錠・細粒・シロップ 他
モサプリドクエン酸塩水和物	ガスモチン 他

(8) 消化酵素

(注意)

- 丁子(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
→生薬を配合する健胃消化剤には、丁子を含むものがある。丁子には、ベータ2 作用をもつヒゲナミンが含まれるので注意。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程におい

て正当に受ける場合は除く。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名
ジアズメン・ジアスターゼ・オノテース・モルシン・ボンラーゼ・セルロシン A.P.・パンクレアチン・ポリパーゼ・オノプローゼ A	タフマック E
濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解酵素・アスペルギルス産生消化酵素・繊維素分解酵素	ベリチーム配合顆粒
ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セルラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ

(9) 便秘治療薬

(注意)

- グリセリン(グリセロール)は2018年WADA禁止表国際基準 主要な変更の要約と注釈 に記載されている通り、禁止表から除外されました。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名
－緩下剤－ カルメロースナトリウム(カルボキシメチルセルロースナトリウム)	バルコーゼ顆粒、カルメロースナトリウム原末「マルイシ」
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム、重質酸化マグネシウム、マグミット 他
－刺激性下剤－ センノシド A・B	プルゼニド錠、センノシド錠 他
ピコスルファートナトリウム水和物	ラキソベロン、ピコダルム顆粒、チャルドール、スナイリンドライシロップ 他
ピサコジル	テレミンソフト坐薬 他
－浣腸剤－ グリセリン	グリセリン浣腸
－その他－ 炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	新レシカルボン坐剤
ルビプロストン	アミティーザカプセル

(10) 止痢・整腸薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名
－止痢薬－ タンニン酸アルブミン	タンナルビン、タンニン酸アルブミン
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末
ベルベリン塩化物水和物	キョウベリン錠
ロペラミド塩酸塩	ロペミン 他
－整腸薬－ 耐性乳酸菌	エンテロノン-R 散、ビオフェルミン R、ラックビー-R 散、レベニン 他
ビフィズス菌	ビオフェルミン錠剤、ビフィズゲン散、ラックビー微粒 N 他

酪酸菌	ミヤ BM
ラクトミン	アタバニン散 他
ラクトミン・酪酸菌・糖化菌	ビオスリー配合錠
ラクトミン・糖化菌	ビオフィェルミン配合散
乾燥酵母	乾燥酵母エビオス、乾燥酵母
一過敏性腸症候群治療薬一	
チキジウム臭化物	チアトン 他
トリメプチンマレイン酸塩	セレキノン 他
ポリカルボフィルカルシウム	コロネル、ポリフル 他
メベンゾラート臭化物	トランコロ錠 他
ラモセトロン塩酸塩	イリボー

(11) 頻尿・過活動膀胱治療薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
イミダフェナシン	ウリトス、ステーブラ
オキシブチニン塩酸塩	ポラキス錠、ネオキシテープ 他
コハク酸ソリフェナシン	ベシケア
酒石酸トルテロジン	デトルシールカプセル
フェソテロジンフマル酸塩	トビエース錠
フラボキサート塩酸塩	ブラダロン 他
プロピペリン塩酸塩	バップフォー 他

(12) 前立腺肥大治療薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
シロドシン	ユリーフ
タムスロシン塩酸塩	ハルナールD錠 他
ナフトピジル	フリバス 他

(13) 肝疾患治療薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
-----	---------

ウルソデオキシコール酸	ウルソ 他
グリチルリチン酸-アンモニウム・グリシン・DL-メチオニン	グリチロン配合錠、ネオファーゲン C 配合錠 他

(14) 脂質異常症治療薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－HMG-CoA 還元酵素阻害薬－	
アトルバスタチンカルシウム水和物	リピートル錠 他
シンバスタチン	リポバス錠 他
ピタバスタチンカルシウム水和物	リパロ
プラバスタチンナトリウム	メバロチン 他
フルバスタチンナトリウム	ローコール錠 他
ロスバスタチンカルシウム	クレストール
－フィブラート系－	
クリノフィブラート	リポクリン錠
フェノフィブラート	トライコア錠、リピディル錠 他
ベザフィブラート	ベザトール SR 錠、ベザリップ錠 他
ペマフィブラート	パルモディア錠
－プロブコール－	
プロブコール	シンレスタール、ロレルコ錠 他

(15) 血圧降下薬

<①Ca 拮抗薬、②ACE 阻害薬、③アンギオテンシン II 受容体拮抗薬、④α 遮断薬>

(注意)

- 全ての利尿薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- ベータ遮断薬は特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬)
→ベータ遮断薬は 8 種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。
- Ca 拮抗薬、ACE 阻害薬、アンギオテンシン II 受容体拮抗薬、クロニジンは使用可能。
- 利尿薬が含有されている高血圧症治療配合剤(イルトラ、エカード、コディオ、プレミネント、ミコンビ他)も複数発売されているので注意。利尿薬の配合剤も禁止。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
① Ca 拮抗薬	
－ジヒドロピリジン系－	
第一世代	
ニカルジピン塩酸塩	ペルジピン錠・散・LA カプセル 他
ニフェジピン	アダラート、セバミット 他

第二世代	
ニソルジピン	バイミカード錠 他
ニルバジピン	ニバジール錠 他
バルニジピン塩酸塩	ヒポカカプセル
ベニジピン塩酸塩	コニール錠 他
マニジピン塩酸塩	カルスロット錠 他
第三世代	
アゼルニジピン	カルブロック錠
アムロジピンベシル酸塩	アムロジン、ノルバスク 他
ーベンゾチアゼピン系ー	
ジルチアゼム塩酸塩	ヘルベッサー錠・Rカプセル 他
② ACE 阻害薬	
アラセプリル	セタプリル錠 他
イミダプリル塩酸塩	タナトリル錠 他
エナラプリルマレイン酸塩	レニベース錠 他
カプトプリル	カプトリル 他
キナプリル塩酸塩	コナン錠
シラザプリル水和物	インヒベース錠 他
テモカプリル塩酸塩	エースコール錠 他
デラプリル塩酸塩	アデカット錠
トランドラプリル	オドリック錠、プレラン錠 他
ベナゼプリル塩酸塩	チバセン錠 他
ペリンドプリルエルブミン	コバシル錠 他
リシノプリル水和物	ゼストリル錠、ロンゲス錠 他
③ アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬	
アジルサルタン	アジルバ錠
イルベサルタン	アバプロ錠、イルベタン錠
オルメサルタンメドキシミル	オルメテック OD 錠
カンデサルタンシレキセチル	プロプレス錠 他
テルミサルタン	ミカルディス錠
バルサルタン	ディオバン 他
ロサルタンカリウム	ニューロタン錠 他
④ α 遮断薬	
ドキサゾシンメシル酸塩	カルデナリン 他
ブナゾシン塩酸塩	デタントール
プラゾシン塩酸塩	ミニプレス錠

(16) 抗狭心薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
硝酸イソソルビド	ニトロール錠・Rカプセル・スプレー、フランドル、イソコロナール Rカプセル 他
ニトログリセリン	ニトロダーム TTS、ニトロペン舌下錠、バソレーターテープ、ミオコールスプレー、

(17) 催眠・鎮静・抗不安薬

(注意)

- 国境を越えた移動には厳重な規制があるので要注意！
→入国する国の規制、また、日本国内へ持ち込む際の規制がある。
- フルニトラゼパム製剤(販売名:サイレース 他)の米国への持ち込みは量に関係なく一切禁止。
→不明な点は各国大使館に問い合わせる。
- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
ーベンゾジアゼピン系ー	
超短期作用型	
トリアゾラム	ハルシオン錠 他
短期作用型	
プロチゾラム	レンドルミン 他
リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠 他
ロルメタゼパム	エバミール錠、ロラメット錠
中期作用型	
アルプラゾラム	コンスタン錠、ソラナックス錠 他
ニトラゼパム	ネルボン、ベンザリン 他
フルニトラゼパム	サイレース錠 他
フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル
ブロマゼパム	セニラン、レキソタン
ロラゼパム	ワイパックス錠 他
長期作用型	
ジアゼパム	セルシン錠・散・シロップ 他
超長期作用型	
ロフラゼブ酸エチル	メイラックス 他
ーチエノジアゼピン系ー	
エチゾラム	デパス 他
クロチアゼパム	リーゼ 他
ーバルビツール酸系ー	
ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠
ーその他ー	
超短期作用型	
エスゾピクロン	ルネスタ錠
ゾピクロン	アモバン錠 他
ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠 他
短期作用型	
ブロモバレリル尿素	ブロバリン原末、ブロムワレリル尿素
メラトニン受容体アゴニスト	
ラメルテオン	ロゼレム錠

オレキシン受容体拮抗薬 スボレキサント	ベルソムラ錠
------------------------	--------

(18) 抗精神病薬(悪心・嘔吐)

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
アリピプラゾール	エビリファイ
オランザピン	ジプレキサ 他
クエチアピンフマル酸塩	セロクエル 他
クロザピン	クロザリル錠
スルピリド	ドグマチール、アブリット錠 他
パリペリドン	インヴェガ錠 他
プロクロルペラジンマレイン酸塩、プロクロルペラジンメシル酸塩	ノバミン
ブロナンセリン	ロナセン
ペロスピロン塩酸塩水和物	ルーラン錠 他
リスペリドン	リスパダール 他

(19) 抗うつ薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
エスシタロプラムシュウ酸塩	レクサプロ錠
塩酸セルトラリン	ジェイゾロフト 他
デュロキセチン塩酸塩	サインバルタカプセル
パロキセチン塩酸塩水和物	パキシル 他
フルボキサミンマレイン酸塩	デプロメール錠、ルボックス錠 他
ベンラファキシン塩酸塩	イフェクサーSR カプセル
ミルタザピン	リフレックス錠、レメロン錠
ミルナシプラン塩酸塩	トレドミン錠 他

(20) 抗てんかん薬

(注意)

- アセタゾラミドは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
ガバペンチン	ガバペン
カルバマゼピン	テグレートール 他
クロバザム	マイスタン
クロナゼパム	リボトリール、ランドセン
ゾニサミド	エクセグラン 他
バルプロ酸ナトリウム	セレニカR、デパケン 他
フェニトイン	アレビアチン錠・散、ヒダントール 他
フェノバルビタール	フェノバル、フェノバルビタール 他
フェノバルビタールナトリウム	ルピアール坐剤、ワコビタール坐剤
ラモトリギン	ラミクタール
レベチラセタム	イーケプラ錠・ドライシロップ

(21) 自律神経系作用薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
トフィソパム	グラндаキシシ 他

(22) 鉄欠乏性貧血薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。
- 鉄剤注射はドーピングではないが、安易な注射は禁止
→鉄剤の静脈内注射は、鉄分の過剰摂取につながりやすく、急性及び慢性の副作用を引き起こすおそれがあるとして、2019年1月、厚生労働省、スポーツ庁、日本医師会から通知が発出されています。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
—経口用鉄剤—	
クエン酸第一鉄ナトリウム	フェロミア 他
フマル酸第一鉄	フェルムカプセル
硫酸鉄(乾燥硫酸鉄)	テツクール徐放錠、フェロ・グラデュメット錠

(23) 痛風・高尿酸血症治療薬

<①発作治療薬、②尿酸排泄促進薬、③尿酸生成阻害薬、④尿アルカリ化薬>

(注意)

- プロベネシドは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- ベンズブロマロンはプロベネシドと同じ尿酸排泄促進薬に分類されるが使用可能。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
① 発作治療薬	
コルヒチン	コルヒチン錠「タカタ」
② 尿酸排泄促進薬	
ベンズブロマロン	ユリノーム錠、ムイロジン細粒 他
③ 尿酸生成阻害薬	
アロプリノール	ザイロリック錠 他
トピロキソスタット	ウリアデック錠、トピロリック錠
フェブキソスタット	フェブリク錠
④ 尿アルカリ化薬	
クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物	ウラリット配合錠 他

(24) 糖尿病用薬

(注意)

- インスリンは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬)
- インスリンを治療目的で使用する場合は、TUE が必要。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－スルホニルウレア系－	
グリクロピラミド	デアメリン S 錠
グリベンクラミド	オイグルコン錠、ダオニール錠 他
グリメピリド	アマリール 他
クロルプロパミド	アベマイド錠
－ビグアナイド系－	
メトホルミン塩酸塩	メトグルコ錠、グリコラン錠 他
－インスリン抵抗性改善薬－	
ピオグリタゾン塩酸塩	アクトス 他
－食後過血糖改善薬－	
アカルボース	グルコバイ 他
ボグリボース	ベイスン 他
ミグリトール	セイブル
－DPP-4 阻害薬－	

アナグリプチン	スイニー錠
アログリプチン安息香酸塩	ネシーナ錠
オマリグリプチン	マリゼブ錠
サキサグリプチン水和物	オングリザ錠
シタグリプチンリン酸塩水和物	グラクティブ錠、ジャヌビア錠
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	テネリア錠
トレラグリプチンコハク酸塩	ザファテック錠
ビルダグリプチン	エクア錠
リナグリプチン	トラゼンタ錠
－GLP-1 受容体作動薬－	
エキセナチド	バイエッタ、ビデュリオン
デュラグルチド	トルリシティ
リキシセナチド	リクスマリア
リラグルチド	ビクトーザ
－SGLT2 阻害薬－	
イプラグリフロジン L-プロリン	スーグラ錠
エンバグリフロジン	ジャディアンス錠
カナグリフロジン水和物	カナグル錠
ダパグリフロジン	フォシーガ錠
トホグリフロジン水和物	アプルウェイ錠、デベルザ錠
ルセオグリフロジン水和物	ルセフィ錠

(25) 抗菌薬・抗生物質

(注意)

- ほとんどの抗菌薬、抗生物質は使用可能。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－ペニシリン系－	
アモキシシリン水和物	アモリン、サワシリン、パセトシン、ワイドシリン細粒 他
アモキシシリン水和物・クラバン酸カリウム	オーグメンチン配合錠、クラバモックス小児用配合ドライシロップ
アンピシリン水和物	ビクシリンカプセル・ドライシロップ
スルタミシリントシル酸塩水和物	ユナシン
－セフェム系－	
第一世代	
セファクロル	ケフラール 他
セファレキシン	L-ケフレックス、ケフレックス、ラリキシン、センセファリン 他
セフロキサジン水和物	オラスポア小児用ドライシロップ
第二世代	
セフロキシム アキセチル	オラセフ錠
第三世代(セファロスポリン系)	
セフィキシム水和物	セフспан 他
セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス 他
セフジトレン ピボキシル	メイアクトMS 他
セフジニル	セフゾン 他

セフテラム ピボキシル	トミロン 他
セフチブテン水和物	セフテムカプセル
セフポドキシム プロキセチル	バナン 他
－アミノ配糖体系－ カナマイシン－硫酸塩 (略称:カナマイ)	カナマイシン
－テトラサイクリン系－ テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	レダマイシンカプセル
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒 他
－マクロライド系－ アジスロマイシン水和物	ジスロマック 他
エリスロマイシン	エリスロシン、エリスロマイシン錠
クラリスロマイシン	クラリシッド、クラリス 他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠 他
ホスホマイシンカルシウム水和物	ホスミン錠・ドライシロップ 他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠 他

(26) 化学療法薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－ニューキノロン系－ シプロフロキサシン塩酸塩	シプロキサン錠 他
オフロキサシン	タリビッド錠 他
シタフロキサシン水和物	グレースビット
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス、トスキサシン錠 他
ノルフロキサシン	バクシダール錠 他
メシル酸ガレノキサシン水和物	ジェニナック錠
モキシフロキサシン塩酸塩	アベロックス錠
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒 他
－ST 合剤－ スルファメトキサゾール・トリメプリム	バクタ、バクトラミン配合錠・配合顆粒 他

(27) 抗真菌薬

(注意)

- ほとんどの抗真菌薬は使用可能。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液 他
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール錠 他
フルコナゾール	ジフルカンカプセル・ドライシロップ 他
ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	ネイリンカプセル 他
ミコナゾール	フロリードゲル 他

(28) 抗ウイルス薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
ーヘルペスウイルス感染症治療薬ー アシクロビル	ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム 他
アメナメビル	アメナリーフ錠
バラシクロビル塩酸塩	バルトレックス 他
ビダラビン	アラセナ-A 軟膏・A クリーム 他
ファムシクロビル	ファムビル錠
ーインフルエンザ治療薬ー アマンタジン塩酸塩	シンメトレル 他
オセルタミビルリン酸塩	タミフル
ザナミビル水和物	リレンザ
バロキサビル マルボキシル	ゾフルーザ錠・顆粒
ペラミビル水和物	ラピアクタ
ラニナビルオクタン酸エステル水和物	イナビル吸入粉末剤

(29) ワクチン

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
インフルエンザ HA ワクチン	インフルエンザ HA ワクチン
組換え沈降 2 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	サーバリックス
組換え沈降 4 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	ガーダシル
新型コロナウイルスワクチン(メッセンジャー RNA ワクチン)	コミナティ筋注

(30) 甲状腺疾患治療薬

(注意)

- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－甲状腺ホルモン－ リオチロニンナトリウム	チロナミン錠
レボチロキシナトリウム水和物	チラーヂン S 他
－抗甲状腺薬－ チアマゾール	メルカゾール錠
プロピルチオウラシル	チウラジール錠、プロパジール錠

(31) 経口避妊薬(保険適用外)

(注意)

- 既往歴、喫煙により危険性あり。
- 性感染症の予防にはならない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
エチニルエストラジオール・デソゲステル	マーベロン 21、28、ファボワール錠 21、28
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	シンフェーズ T28 錠
エチニルエストラジオール・レボノルゲステル	アンジュ 21 錠、28 錠、トリキュラー錠 21、28、ラベルフィーユ 21 錠、28 錠
レボノルゲステル	ノルレボ錠

(32) 卵胞、黄体、混合ホルモン

(注意)

- 卵胞ホルモンは経口避妊薬としても用いられる。
- 黄体ホルモン、卵胞及び黄体ホルモン配合剤は月経周期の移動、避妊にも用いられる。
- ドロスピレノンの使用は禁止されない。
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12 時間あたり 100mL を超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－卵胞ホルモン－ 結合型エストロゲン	プレマリン錠
－黄体ホルモン－ ジドロゲステロン	デュファストン錠
ノルエチステロン	ノアルテン錠
－卵胞・黄体ホルモン配合剤－ エチニルエストラジオール・ドロスピレノン	ヤーズ配合錠
エストラジオール・酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	ルナベル配合錠 LD・ULD
エチニルエストラジオール・ノルゲステル	プラノバール配合錠

ノルエチステロン・メストラノール	ソフィア A 配合錠、ソフィア C 配合錠
レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	ジェミーナ配合錠
－関連物質－ ジェノゲスト	ディナゲスト

(33) 痔疾用薬

(注意)

- 坐薬・軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質を含むものがある。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用、口腔内局所使用はすべて禁止。
 - 糖質コルチコイドを含む注入軟膏・坐剤などを直腸経路で使用することは禁止。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－経口剤－ トリベノシド	ヘモクロンカプセル 他
プロメライン・トコフェロール酢酸エステル	ヘモナーゼ配合錠
－坐薬・軟膏－ トリベノシド・リドカイン	ボラザ G
リドカイン・アミノ安息香酸エチル・次没食子酸ビスマス	ヘルミチン S 坐剤

(34) 耳鼻咽喉科用薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質、またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用、口腔内局所使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。
 - ナファゾリン、テトラヒドロゾリン、トラマゾリンなどのイミダゾール誘導体は、点鼻などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、アンチ・ドーピング規則違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－血管収縮薬－ ナファゾリン硝酸塩	プリビナ液
塩酸テトラヒドロゾリン	テトラヒドロゾリン鼻用スプレー
トラマゾリン塩酸塩	トラマゾリン点鼻液
－アレルギー性鼻炎治療薬－ クロモグリク酸ナトリウム	インタール点鼻液 他
ケトチフェンマル酸塩	ザジテン点鼻液 他
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルナーゼ 他
フルチカゾンフランカルボン酸エステル	アラミスト

(35) 眼科用薬

<①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③アレルギー性結膜炎、④緑内障治療薬、⑤その他>

(注意)

- 眼科用薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や、糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質または関連物質が含まれているものがある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用、口腔内局所使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。
 - ナファゾリンなどのイミダゾール誘導体は、点眼などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、アンチ・ドーピング規則違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 緑内障治療薬のドルゾラミド(販売名:トルソプト点眼液)および布林ゾラミド(販売名:エイゾプト懸濁性点眼液)等、炭酸脱水素酵素阻害薬の眼科使用は禁止されない。
- ベータ遮断薬は、特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬)
 - ベータ遮断薬は8種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。ベータ遮断薬を含む配合剤(アゾルガ、コソプト、ザラカム、デュオトラバ、タプコム等)に注意。

＜使用可能薬例＞

成分名	代表的な販売名
① 感染症	
－抗生物質－	
エリスロマイシンラクトビオン酸塩・コリスチンメタンサルホン酸ナトリウム	エコリシン 他
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタロール点眼液 他
－抗菌薬－	
オフロキサシン	タリビッド 他
ガチフロキサシン水和物	ガチフロ点眼液
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス点眼液、トスフロ点眼液
ノルフロキサシン	バクシダール点眼液 他
モキシフロキサシン塩酸塩	ベガモックス点眼液
レボフロキサシン水和物	クラビット点眼液 他
－抗ウイルス薬－	
アシクロビル	ゾビラックス眼軟膏 他
② ビタミン類・疲れ目	
シアノコバラミン	サンコバ点眼液、ソフティア点眼液 他
フラビンアデニンジヌクレオチド ナトリウム	FAD 点眼液、フラビタン
③ アレルギー性結膜炎	
エピナスチン塩酸塩	アレジオン点眼液
オロパタジン塩酸塩	パタノール点眼液
クロモグリク酸ナトリウム	インターール点眼液 他
ケチフェンフマル酸塩	ザジテン点眼液 他
トラニラスト	リザベン点眼液、トラメラス 他
ペミロラストカリウム	アレギサール点眼液、ペミラストーン点眼液 他
レボカバスチン塩酸塩	リボスチン点眼液 他
④ 緑内障治療薬	
イソプロピルウノプロストン	レスキュラ点眼液 他
タフルプロスト	タプロス
トラボプロスト	トラバタンズ点眼液
ラタプロスト	キサラタン点眼液 他
ドルゾラミド塩酸塩	トルソプト点眼液
布林ゾラミド	エイゾプト懸濁性点眼液
⑤ その他	

ジクアホソルナトリウム	ジクアス点眼液
ホウ酸・塩化ナトリウム・塩化カリウム・乾燥炭酸ナトリウム・リン酸水素ナトリウム水和物	人工涙液マイティア点眼液
精製ヒアルロン酸ナトリウム	オペガン、オペリード、ヒーロン、ヒアレイン 他
レバミピド	ムコスタ点眼液 UD
プラノプロフェン	ニフラン点眼液 他

(36) 口腔用薬

(注意)

- 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用はすべて禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)

※2021年3月22日より競技会時の糖質コルチコイドの口腔内局所使用は禁止されました。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－含嗽薬－	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノールうがい液、マズレニンガーグル散他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒他
ポビドンヨード	イソジンガーグル液 他
－口腔内炎症治療薬－	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用
－殺菌消毒薬－	
デカリニウム塩化物	SPトローチ 他

(37) 皮膚外用薬

(注意)

- ◆ 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用はすべて禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)

→糖質コルチコイドの皮膚の疾患に対する局所的使用は禁止されない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
－抗生物質製剤－	
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ポリミキシン B 硫酸塩	テラマイシン軟膏(ポリミキシン B 含有)
オゼノキサシン	ゼビアックスローション
クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシン T 他
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン 他
テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン軟膏
ナジフロキサシン	アクアチム 他
フラジオマイシン硫酸塩	ソフラチュール貼付剤
フラジオマイシン硫酸塩・バシトラシン	バラマイシン軟膏
－アトピー性皮膚炎治療薬－	
タクロリムス水和物	プロトピック軟膏 他
－外用抗ヒスタミン剤－	
ジフェンヒドラミン	レスタミンコーワクリーム 他
クロタミトン	オイラックスクリーム 他
－抗真菌薬－	

エフィナコナゾール	クレナフィン爪外用液
ネチコナゾール塩酸塩	アトラント
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール 他
ブテナフィン塩酸塩	メンタックス、ボレー 他
ミコナゾール硝酸塩	フロリードDクリーム 他
ルリコナゾール	ルリコン、ルコナック爪外用液
－非ステロイド性消炎鎮痛薬－	
インドメタシン	インサイドパップ、イドメシンコーワ、カトレップ 他
ウフェナマート	コンベック 他
ケトプロフェン	ミルタックスパップ、モーラス 他
ジクロフェナクナトリウム	ナボール、ボルタレン 他
フェルビナク	ナバゲルン 他
フルルビプロフェン	アドフィードパップ、ステイバンパップ、フルルバンパップ、ヤクバンテープ 他
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン 他
－副腎皮質ステロイド外用剤－	
ジフルコルトロン吉草酸エステル	ネリゾナ 他
ジフルプレドナート	マイザー 他
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	メサデルム 他
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	ロコイド 他
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	リドメックスコーワ 他
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	リンデロン-DP、ダイプロセル 他
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	アンテベート 他
ベタメタゾン吉草酸エステル	ベトネベート、リンデロン-V 他
－副腎皮質ステロイド・抗生物質配合剤－ ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩	リンデロン-VG、デルモゾール G 他
－尋常性ざ瘡治療剤－	
アダパレン	ディフェリンゲル
アダパレン、過酸化ベンゾイル	エピデュオゲル
過酸化ベンゾイル	ベピオゲル
過酸化ベンゾイル・克林ダマイシンリン酸エステル水和物	デュアック配合ゲル
イブプロフェンピコノール	スタデルム、ベシカム
－皮膚保護剤－	
亜鉛華軟膏	亜鉛華軟膏
ヘパリン類似物質	ヒルドイド 他
－その他－	
マキサカルシトール	オキサロール軟膏・ローション 他
カルプロニウム塩化物水和物	フロジン外用液 他

(38) 消毒薬

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名
クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビテン 他
ベンザルコニウム塩化物	オスバン、チアミトール、逆性石ケン 他
ポビドンヨード	イソジン液、ネオヨジン外用液 他

8. 歯科領域で汎用される医療用医薬品

(注意)

はじめに

- **有効成分が禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。**
- **有効成分以外の成分(添加剤)に禁止物質が含まれていないかについては、原則確認しておりません。**これは、第17改正日本薬局方の製剤総則において、「添加剤は、製剤に含まれる有効成分以外の物質で、有効成分及び製剤の有用性を高める、製剤化を容易にする、品質の安定化を図る、又は使用性を向上させるなどの目的で用いられる。製剤には、必要に応じて、適切な添加剤を加えることができる。ただし、用いる添加剤はその製剤の投与量において薬理作用を示さず、無害でなければならない。また、添加剤は有効成分の治療効果を妨げるものであってはならない。」とされていることによります。ただし、本会での有効成分の確認時において、当該医薬品が内服薬、かつ、添加剤に動植物由来成分等が含まれていることが判明した場合にあっては、出来るだけ本リストから削除する方針で作業を行っています。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。記載以外にも同等な医薬品がある場合もあります。
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、先発医薬品と同一の有効成分を含有しているため、両者の差異は基本的にありません。
- 生薬や動植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含有する製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**各製品の歯科適応等については、添付文書他で確認して下さい。
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- エピネフリン(アドレナリン)の局所使用(鼻、眼等)あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用は競技会(時)禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用、口腔内局所使用は TUE が必要、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- **※2021年3月22日より競技会時の糖質コルチコイドの口腔内局所使用は禁止されました。**
- 静脈内注入および/又は静脈注射で、12時間あたり100mLを超える場合は禁止される。但し、入院設備を有する医療機関での治療およびその受診過程、外科手術、又は臨床検査のそれぞれの過程において正当に受ける場合は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 局所麻酔薬	
アミノ安息香酸エチル	ハリケイン、ビーゾカイン 歯科用ゼリー 他
プロピトカイン塩酸塩・フェリプレシン	歯科用シタネスト-オクタプレシン
メピバカイン塩酸塩	スキャンドネスト
リドカイン・エピネフリン(アドレナリン)	オーラ注 歯科用、歯科用キシロカイン 他
② 吸入麻酔薬	

亜酸化窒素	笑気ガス 他
③ 歯科用軟膏・口腔用軟膏・挿入剤等	
オキシテトラサイクリン塩酸塩	オキシテトラコーン歯科用挿入剤
テトラサイクリン塩酸塩	テトラサイクリン塩酸塩パスタ
ミノサイクリン塩酸塩	ペリオクリン歯科用軟膏、ペリオフィール歯科用軟膏
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用
塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化カルシウム水和物・塩化マグネシウム・リン酸二カリウム	サリベートエアゾール
④ トローチ・含嗽薬	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノールうがい液、マズレニンガーグル散 他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒 他
セチルピリジニウム塩化物水和物	セチルピリジニウム塩化物トローチ
デカリニウム塩化物	SPトローチ 他
ドミフェン臭化物	オラドール
フラジオマイシン硫酸塩	デンターグル含嗽用散
ベンゼトニウム塩化物	ネオステリングリーンうがい液 他
ポビドンヨード	イソジンガーグル液 他
⑤ 解熱・鎮痛・抗炎症薬	
アスピリン	アスピリン
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン配合錠 A330 他
アセトアミノフェン(パラセタモール)	カロナール 他
アセメタシン	ランツジールコーワ錠
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アシルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒
イブプロフェン	ブルフェン 他
インドメタシン	インテバン SP 他
エトドラク	オステラック錠、ハイペン錠 他
オキサプロジン	アルボ錠
ケトプロフェン	ケトプロフェン坐剤
ザルトプロフェン	ソレトン錠、ペオン錠 他
ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン 他
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒
セレコキシブ	セレコックス錠
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠
ナプロキセン	ナイキサン錠
プラノプロフェン	ニフラン錠 他
フルルビプロフェン	フロベン 他
メフェナム酸	ポンタール 他
モフェゾラク	ジソペイン錠
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン 他
ロルノキシカム	ロルカム錠
⑥ 抗菌薬・抗生物質・抗真菌薬	
ーペニシリン系ー	
アモキシシリン水和物	アモリン、サワシリン、パセトシン、ワイドシリン細粒 他
アンピシリン水和物	ビクシリンカプセル・ドライシロップ
ーセフェム系ー	
第一世代	

セファクロル	ケフラール 他
セファレキシム	ケフレックス、ラリキシム、センセファリン 他
第二世代 セフロキシム アキセチル	オラセフ錠
第三世代 セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス 他
セフジトレン ピボキシル	メイアクト MS 他
セフジニル	セフゾン 他
セフテラム ピボキシル	トミロン 他
セフボドキシム プロキセチル	バナン 他
ーマクロライド系ー アジスロマイシン水和物	ジスロマック錠 他
エリスロマイシン	エリスロシン、エリスロマイシン錠
クラリスロマイシン	クラリシッド、クラリス 他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠 他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠 他
ーテトラサイクリン系ー テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒 他
ーニューキノロン系ー オフロキサシン	タリビッド錠 他
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス錠、トスキサシン錠 他
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒 他
ー抗真菌薬ー イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液 他
ミコナゾール	フロリードゲル
⑦ 健胃消化整腸薬	
ー酸中和薬ー 合成ケイ酸アルミニウム	合成ケイ酸アルミニウム
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム
炭酸水素ナトリウム	炭酸水素ナトリウム
ー粘膜抵抗強化薬ー アズレンスルホン酸ナトリウム水和物 ・L-グルタミン	マーズレン 他
スクラルファート水和物	アルサルミン 他
ー胃粘膜微小循環改善薬ー ベネキサート塩酸塩ベータデクス	ウルグートカプセル 他
ー総合消化酵素ー ジアスマン・ジアスターゼ・オノテース・モルシン・ポ ンラーゼ・セルロシン A.P.・パンクレアチン・ポリバ ーゼ・オノプローゼ A	タフマック E
濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解酵素・ア スペルギルス産生消化酵素・繊維素分解酵素	ベリチーム配合顆粒
ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セルラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ
ー整腸薬ー 耐性乳酸菌	エンテロノン-R 散、ビオフェルミン R、ラックビー-R 散、レベニン 他

ビフィズス菌	ビオフェルミン錠剤、ビフィズゲン散、ラックビー微粒 N 他
酪酸菌	ミヤ BM
ラクトミン・糖化菌	ビオフェルミン配合散
⑧ 精神神経用薬	
ーベンゾジアゼピン系ー	
<u>超短期作用型</u>	
トリアゾラム	ハルシオン錠 他
<u>短期作用型</u>	
ブロチゾラム	レンドルミン 他
リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠 他
ロルメタゼパム	エバミール錠、ロラメット錠
<u>中期作用型</u>	
アルプラゾラム	コンスタン錠、ソラナックス錠 他
ニトラゼパム	ネルボン、ベンザリン 他
フルニトラゼパム	サイレース錠 他
フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル
プロマゼパム	セニラン、レキシタン
ロラゼパム	ワイパックス錠 他
<u>長期作用型</u>	
ジアゼパム	セルシン錠・散・シロップ 他
<u>超長期作用型</u>	
ロフラゼブ酸エチル	メイラックス 他
ーチエノジアゼピン系ー	
エチゾラム	デパス 他
クロチアゼパム	リーゼ 他
ーバルピツール酸系ー	
ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠
ーその他ー	
<u>超短期作用型</u>	
ゾピクロン	アモバン錠 他
<u>短期作用型</u>	
ブロモバレリル尿素	ブロバリン原末、ブロムワレリル尿素
⑨ 抗ヒスタミン薬	
クレマスチンフマル酸塩	タベジール 他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ 他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギン散 他
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ錠
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン 他
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン錠 他
メキタジン	ゼスラン、ニボラジン 他
⑩ ビタミン製剤	
アスコルビン酸	ハイシー顆粒 他
トコフェロール酢酸エステル	ユベラ 他
ピリドキサールリン酸エステル水和物	ピドキサール錠 他
フルスルチアミン	アリナミン F 糖衣錠 他
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	フラビタン 他
オクトチアミン・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン	ノイロビタン配合錠

⑪ 止血薬	
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	アドナ錠・散 他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ 他
⑫ その他	
カルバマゼピン	テグレートール 他

9. TUE(Therapeutic Use Exemption:治療使用特例)申請について

(JADA ホームページ: <https://www.playtruejapan.org/code/rule/treatment.html>、
<https://www.realchampion.jp/process/tue> より転載、一部改変)

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

アスリートが「病気やけがの適切な治療」を目的として、禁止物質や禁止方法を使用する場合には、「特例」として、その使用が認められます。

そのルールのことを「TUE(Therapeutic Use Exemption:治療使用特例)」と言います。

TUE のルールは、世界統一の国際基準によって、細かく定められています。

例えば

- ◆ 治療する目的だからといって、全ての禁止物質、禁止方法の使用が認められるわけではありません。
 - 禁止物質を使用しなくても、治療が可能な場合、TUE は認められません。
 - TUE が認められるためには、少なくとも以下の条件を満たす必要があります。
 - ◇ 治療をする上で、使用しないと健康に重大な影響を及ぼすことが予想される
 - ◇ 他に代えられる合理的な治療方法がない
 - ◇ 使用しても、健康を取り戻す以上に競技力を向上させる効果を生まない
 - ◇ ドーピングの副作用に対する治療ではない
 - その他にも、TUE が認められるには、国際基準に定められている条件を満たさなくてはなりません。
- ◆ TUE は申請が必要なルールです
 - 禁止物質の使用を報告するルールではありません。必要な書類を準備し、申請を行います。国際基準の条件を満たしていると判定されたときにはじめて、TUE が認められます。申請書の審査によって、TUE が認められなかった場合、禁止物質や禁止方法の使用は、アンチ・ドーピングのルール違反となります。
 - 国際競技連盟から指定されているアスリートの場合は、同連盟に TUE 申請をし、それ以外は原則として JADA TUE 委員会へ直接申請します。

TUE 申請の詳細については、以下を御覧ください。

<https://www.realchampion.jp/process/tue>

10. 問い合わせ対応手順

本書は、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」であり、元々、薬局・薬剤師向けに作成したものです。現状、選手等を含めた利用が増えてきております。そのため、2019年度から、問い合わせ対応手順に、「選手等が実施する手順」を加えました。

本書は、使用可能薬を一般用医薬品等・医療用医薬品に分け、さらにそれぞれ薬効群別に細分しており、使用可能薬を探す上で利便性の高いものとなっています。一方、ある医薬品が使用できるのかできないのかは、索引を使うことで手軽に検索することが出来ますので、ご活用ください。

なお、質問の内容によっては、都道府県薬剤師会から、本会、さらに、日本アンチ・ドーピング機構への問合せを実施致します関係上、回答にお時間がかかることがあります。

○参考

- ・グローバルDRO <https://www.globaldro.com/JP/search>



- ・スポーツファーマシスト検索 <http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>
スポーツファーマシスト認定者のうち、情報掲載希望者が掲載されています。

お薬に関するお問い合わせは
全国のスポーツファーマシストがお答えします。

■マップから絞り込み

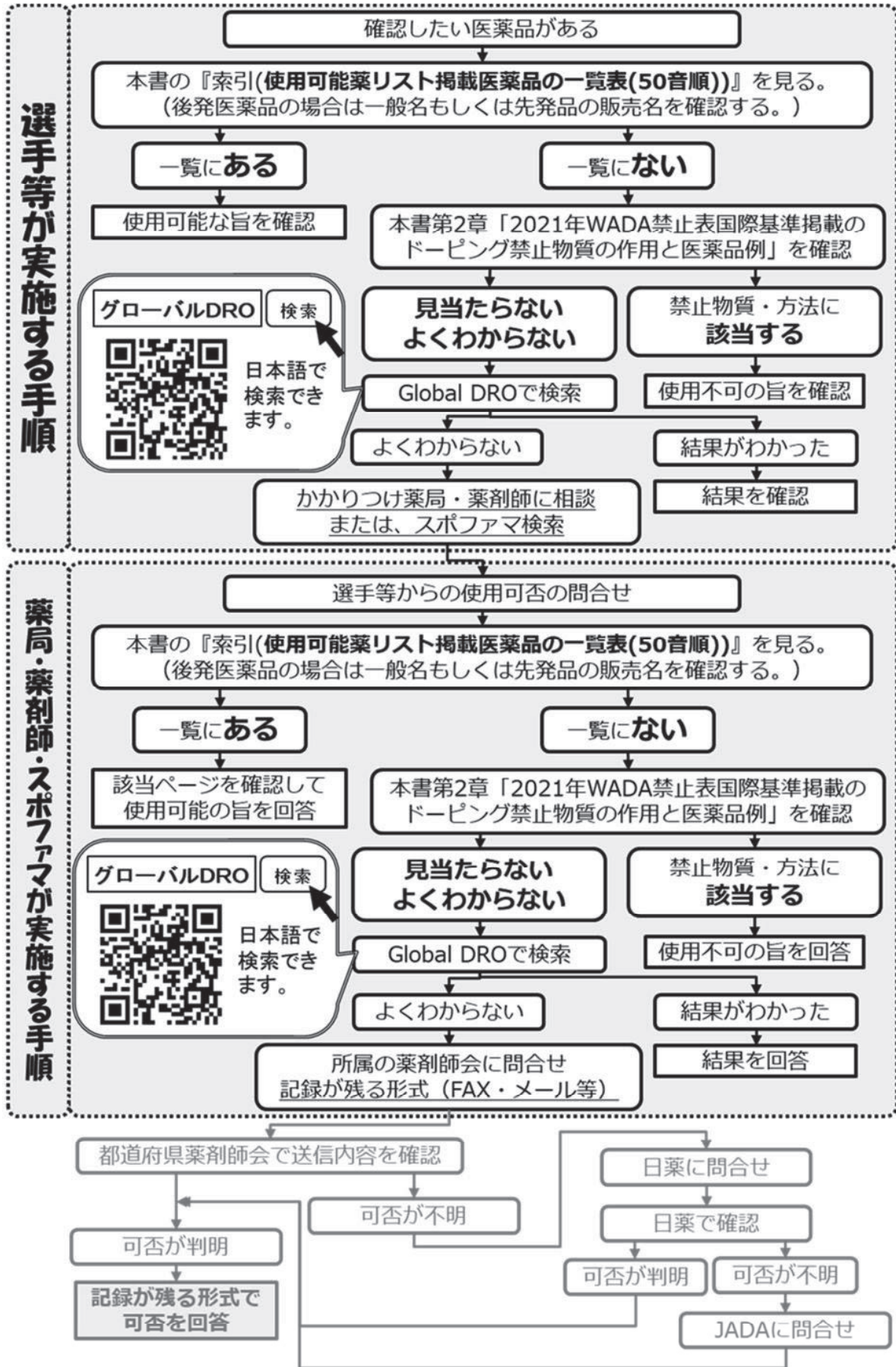
■住所から絞り込み
都道府県: 郵便番号:
住所入力:
入力例: 渋谷区 等

■勤務先名で絞り込み
入力例: 〇〇薬局 等
業種:
 病院・診療所勤務 薬局勤務
 ドラッグストア勤務 製薬企業勤務
 大学勤務 その他

■その他で絞り込み
 土・日/祝日 対応可 夜間対応可(17時〜)
 学校薬剤師 英語対応可
 手話通訳可

※認定スポーツファーマシストのうち、情報掲載にご賛同いただいた方のみ掲載しています。※本ページを営業や勧誘等の営利目的で利用することはご遠慮ください。※検索して得た情報の転用・転載を禁止します。※掲載内容に関する責任は掲載者にあり、いかなる場合もスポーツファーマシスト事務局では責任を負いかねますので、予めご了承ください。※本ページに関するお問い合わせはこちらから

検索



11. 薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン

ドーピングのお問い合わせは、原則として **FAX** で受け付けています。
電話ではお答えできませんので、次ページの専用用紙を FAX 等でお送り下さい。

名称	FAX 番号
日本薬剤師会 アンチ・ドーピング相談窓口	メール (anti-doping@nichiyaku.or.jp) のみ
ほっかいどう・おくすり情報室	011-831-6133
青森県薬剤師会 薬事情報センター	017-743-7075
岩手県薬剤師会 くすりの情報センター	019-653-4592
宮城県薬剤師会 くすりの相談室	022-391-6630
秋田県薬剤師会 くすり110番	018-835-2576
山形県薬剤師会 薬事情報センター	023-625-3970
福島県薬剤師会 薬事情報センター	024-549-2209
茨城県薬剤師会 くすりの相談室	029-306-8040
栃木県薬剤師会 薬事情報センター	028-658-9847
群馬県薬剤師会 薬事情報センター	027-223-5308
埼玉県薬剤師会 情報センター	048-825-0700
千葉県薬剤師会 薬事情報センター	043-247-4402
東京都薬剤師会 薬事情報課	03-3295-2333
神奈川県薬剤師会 薬事情報センター	045-751-4460
新潟県薬剤師会 薬事情報センター	025-281-7735
富山県薬剤師会 くすり相談	076-442-3308
石川県薬剤師会 薬事情報センター	076-231-6721
福井県薬剤師会 薬事情報センター	0776-61-6561
山梨県薬剤師会 薬事情報センター	055-254-3401
長野県薬剤師会 医薬品情報室	0263-34-0075
岐阜県薬剤師会 ぎふ薬事情報センター	058-247-5757
静岡県薬剤師会 医薬品情報管理センター	054-203-2028
愛知県薬剤師会 薬事情報センター	052-971-2889
三重県薬剤師会 薬事情報センター	059-225-4728
滋賀県薬剤師会 薬事情報センター	077-563-9033
京都府薬剤師会 薬事情報センター	075-525-2332
大阪府薬剤師会 薬事情報センター	06-6947-5487
兵庫県薬剤師会 薬事情報センター	078-341-6099
奈良県薬剤師会 薬事情報センター	0742-24-1291
和歌山県薬剤師会 薬事情報センター	073-424-3353
鳥取県薬剤師会 薬事情報センター	0859-38-5758
島根県薬剤師会 情報センター	0852-26-5358
岡山県薬剤師会 薬事情報センター	086-225-2645
広島県薬剤師会 薬事情報センター	082-567-6050
山口県薬剤師会	083-924-7704
徳島県薬剤師会 薬事情報センター	088-625-5763
香川県薬剤師会 営業局県庁前	087-833-2132
愛媛県薬剤師会 おくすり相談窓口	089-921-5353
高知県薬剤師会 情報センター	088-820-5010
福岡県薬剤師会 くすりなんでもテレホン	092-281-4104
佐賀県薬剤師会 薬事情報センター	0952-23-8941
長崎県薬剤師会 薬相談窓口	095-848-6160
熊本県薬剤師会 医薬情報センター	096-285-8248
大分県薬剤師会 薬事情報センター	097-544-8060
宮崎県薬剤師会 薬事情報センター	0985-29-8127
鹿児島県薬剤師会 薬事情報センター	099-202-0569
沖縄県薬剤師会 おくすり相談室	098-963-8937

12. 索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50音順))

本ガイドブックに掲載されている医薬品のうち、使用方法を守り正しく使用した場合に使用できる医薬品を50音順に並べたものです(一部、使用方法や投与経路等によっては禁止されるものを含む)。索引の使用に際しましては、以下の点にご注意下さい。

- ◇ 成分名と販売名のどちらでも検索できます。
- ◇ 成分等が変更になっている場合がありますので、索引にある医薬品につきましても必ず該当ページでご確認下さい。

D

dl-カンフル	40, 41
DL-メチオニン	51
dl-メントール	40
d-カンフル	39
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	30, 34, 46, 68

F

FAD 点眼液	62
---------	----

H

HP クリーム	39
---------	----

L

L-アスパラギン酸カリウム	36, 37
L-カルボシステイン	30, 44
L-グルタミン	48, 67
L-ケフレックス	57
l-メントール	35, 39, 40, 41

N

New マイティア CL-a	37
----------------	----

P

PL 配合顆粒	43
---------	----

S

SG 配合顆粒	43, 66
SP トローチ	63, 66

あ

アイスラブゲル	40
アイピーディ	46
アイフリーコーワ AL	37

アイブルーCL	37
アイボン d	37
アイラート AG	37
アイリス 50	36
アイリス AG ガード	37
アイリス CL-I ネオ	37
亜鉛華軟膏	64
アカルボース	56
アクアチム	63
アクアナチュラル便秘薬	32
アクチビア軟膏	41
アクトス	56
アクロマイシン	58, 67
アクロマイシン軟膏	63
アコチアミド塩酸塩水和物	48
アコファイド錠	48
浅田飴のどクールスプレー	38
亜酸化窒素	66
アシクロビル	41, 59, 62
アジスロマイシン水和物	58, 67
アシタザノラスト水和物	37
アシドフィルス菌	32
アシノン Z	31
アシノン Z 胃腸内服液	31
アシノン Z 錠	31
アシノン錠	47
アジルサルタン	52
アジルバ錠	52
アスコルビン酸	35, 68
アスコルビン酸散	33
アストミン	44
アズノール ST 錠口腔用	63, 66
アズノールうがい液	63, 66
アズノール錠	48
アスパラ目薬モイスト CL	37
アスピリン	28, 43, 66
アスベリン	44
アスペルギルス産生消化酵素	49
アズマネックスツイストヘラー	46
アズレンスルホン酸ナトリウム	38
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	37, 38, 48, 63, 66, 67
アセトアミノフェン	28, 29, 30, 43, 66
アゼブチン	46
アセメタシン	43, 66
アゼラスチン塩酸塩	33, 46
アゼルニジピン	52

アタバニン散	50
アダパレン	64
アダラート	51
アタラックス	47
アタラックス-P	47
アットノン	39
アデカット錠	52
アドエア	45
アドソルビン原末	49, 67
アドナ錠・散	69
アドフィードパップ	64
アトラント	64
アトルバスタチンカルシウム水和物	51
アドレナリン	65
アトロベントエロゾル	45
アナグリプチン	56
アニユイティ	46
アネロン「ニスキャップ」	34
アバプロ錠	52
アビリット錠	54
アブルウェイ錠	57
アフロクアロン	44
アベマイド錠	56
アベロックス錠	58
アマージ錠	43
アマリール	56
アマンタジン塩酸塩	59
アミティーザカプセル	49
アミノ安息香酸エチル	34, 61, 65
アミノフィリン水和物	45
アムロジピンベシル酸塩	52
アムロジン	52
アメナメビル	59
アメンアリーフ錠	59
アモキシシリン水和物	57, 66
アモバン錠	53, 68
アモリン	57, 66
アラセナー-A 軟膏・A クリーム	59
アラセナ S	41
アラセナ S クリーム	41
アラセプリル	52
アラミスト	61
アラントイン	35, 37, 39, 40
アリナミン F 糖衣錠	68
アリピプラゾール	54
アリルイソプロピルアセチル尿素	43, 66
アルガード持続性鼻炎シールド 24h	33
アルガード目すっきり洗眼薬 α	37
アルギン酸ナトリウム	48
アルサルミン	48, 67
アルジオキサ	48
アルジオキサ錠	48
アルタットカプセル・細粒	47
アルプラゾラム	53, 68
アルボ錠	43, 66
アルミノプロフェン	28
アルロイド G	48
アレギサール点眼液	62
アレギサール鼻炎	33

アレギトール	33
アレグラ	47
アレグラ FX	33
アレジオン	46
アレジオン 20	33
アレジオン点眼液	62
アレビアチン錠・散	55
アレルギール錠	33
アレルギン散	46, 68
アレロック	46
アログリプチン安息香酸塩	57
アロフト錠	44
アロプリノール	56
アンジュ 21 錠、28 錠	60
アンテベート	64
アンピシリン水和物	57, 66
アンピロキシカム	43
アンブロキソール塩酸塩	30, 44
アンメルツヨコヨコ	40

い

イーケブラ錠・ドライシロップ	55
イソコナゾール硝酸塩	36
イソコロナール R カプセル	52
イソジンうがい薬	38
イソジン液	64
イソジンガーゲル液	63, 66
イソジンきず薬	38
イソジン軟膏	38
イソプロピルアンチピリン	43, 66
イソプロピルウノプロストン	62
イソプロピルメチルフェノール	40, 41
イチジク洗腸	32
イトプリド塩酸塩	48
イドメシニコワ	64
イトラコナゾール	59, 67
イトリゾールカプセル・内用液	59, 67
イナビル吸入粉末剤	59
イノキュア S	31
イノセアワンブロック	31
イノック下痢止め	32
イブ	28
イフェクサーSR カプセル	54
イブシロン-アミノカブロン酸	36, 37
イブプロフェン	28, 29, 43, 66
イブプロフェンピコノール	40, 64
イブラグリフロジン L-プロリン	57
イプラトロピウム臭化物水和物	45
イミグラン	43
イミダフェナシン	50
イミダプリル塩酸塩	52
イリボー	50
イルベサルタン	52
イルベタン錠	52
インヴェガ錠	54
インサイドハイパップ P	39
インサイドパップ	64
インタール	46

インタール点眼液	62
インタール点鼻液	61
インテバン SP	43, 66
インドメタシン	39, 43, 64, 66
インドメタシンファルネシル	43
インヒベース錠	52
インフリー	43
インフルエンザ HA ワクチン	59

う

ヴァイクスメディケイテッドドロップ B・C・GA・GF・HL・L・O・R・U	38
うがい薬コロロ SP	38
ウフェナマート	40, 64
ウラリット配合錠	56
ウリアデック錠	56
ウリトス	50
ウルグートカプセル	48, 67
ウルソ	51
ウルソデオキシコール酸	31, 51

え

エアーサロンパス DX	39
エイゾプト懸濁性点眼液	62
エースコール錠	52
エーゼットアルファ	37
エカベトナトリウム水和物	48
エキセナチド	57
エクア錠	57
エクセグラン	55
エコリシン	62
エシタロプラムシュウ酸塩	54
エズピクロン	53
エストラジオール	60
エソメプラゾール	47
エチゾラム	53, 68
エチニルエストラジオール	60, 61
エトドラク	43, 66
エナラプリルマレイン酸塩	52
エバスチン	33, 46
エバステル	46
エバステル AL	33
エバミール錠	53, 68
エバユースにきび薬	40
エビオス錠	31
エビデュオゲル	64
エピナスチン塩酸塩	33, 46, 62
エピネフリン	65
エビリファイ	54
エフィナコナゾール	63
エフコート	38
エフストリン去たん錠	30
エフストリントローチ	30
エブラジノン塩酸塩	44
エベリゾン塩酸塩	44
エメダスチンフマル酸塩	46

エリーテン錠	48
エリスロシン	58, 67
エリスロマイシン	58, 67
エリスロマイシン錠	58, 67
エリスロマイシンラクトビオン酸塩	62
エルベインコーワ	29
エルトリブタン臭化水素酸塩	43
塩化カリウム	37, 63, 66
塩化カルシウム水和物	66
塩化セチルピリジニウム	30, 31
塩化ナトリウム	37, 63, 66
塩化マグネシウム	66
塩酸セルトラリン	54
塩酸テトラヒドロゾリン	34, 61
塩酸メクリジン	34
塩酸リドカイン	34, 41
塩酸ロペラミド	32
塩酸ロメリジン	43
エンテロノン-R 散	49, 67
エンパグリフロジン	57
エンペシド L	35

お

オイグルコン錠	56
オイラックスクリーム	63
オイラックスソフト	40
近江兄弟社メンターム EX ソフト	40
オーキスタタービュヘイラー	45
オーグメンチン配合錠	57
オーラ注歯科用	65
オキサトミド	46
オキサプロジン	43, 66
オキサロール軟膏・ローション	64
オキナゾール L100	35
オキシコナゾール硝酸塩	35, 41
オキシテトラコロン歯科用挿入剤	66
オキシテトラサイクリン塩酸塩	40, 63, 66
オキシドール	38
オキシブチニン塩酸塩	50
オキシメタゾリン塩酸塩	34
オキセサゼイン	31
オクトチアミン	68
オステラック錠	43, 66
オスバン	64
オスバン S	38
オゼックス	58
オゼックス錠	67
オゼックス点眼液	62
オゼノキサシン	63
オセルタミビルリン酸塩	59
オドリック錠	52
オノテース	49, 67
オノプローゼ A	49, 67
オノン	45
オフロキサシン	58, 62, 67
オペガン	63
オペリード	63
オマリグリプチン	57

オムニードケトプロフェンパップ	39
オメブラール錠	48
オメブラゾール	48
オメブラゾン錠	48
オラスポア小児用ドライシロップ	57
オラセフ錠	57, 67
オラドール	66
オランザピン	54
オルベスコインヘラー	46
オルメサルタンメドキシミル	52
オルメテック	52
オロナインH軟膏	40
オロパタジン塩酸塩	46, 62
オングリザ錠	57

か

ガーダシル	59
カイベールC	32
カイラックス	32
カイロック細粒	47
過酸化ベンゾイル	64
ガスコン	48
ガスター10	31
ガスター10 S錠	31
ガスター10 内服液	31
ガスター10(散)	31
ガスター錠・D錠・散	47
ガストール細粒	31
ガストール錠	31
ガストローム顆粒	48
ガスマチン	48
カゼイ菌	32
ガチフロキサシン水和物	62
ガチフロ点眼液	62
カトレップ	64
カナグリフロジン水和物	57
カナグル錠	57
ガナトン錠	48
カナマイシン	58
カナマイシンー硫酸塩	58
ガバペン	55
ガバペンチン	55
カフェイン水和物	30
カプトプリル	52
カプトリル	52
カルスロット錠	52
カルデナリン	52
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	69
カルバマゼピン	55, 69
カルブロック錠	52
カルプロニウム塩化物水和物	64
カルボキシメチルセルロースナトリウム	49
カルボシステイン錠	44
カルメロースナトリウム	49
カルメロースナトリウム原末「マルイシ」	49
カロナール	43, 66
乾燥酵母	31, 50
乾燥酵母エビオス	50

乾燥水酸化アルミニウムゲル	29, 31, 48
乾燥炭酸ナトリウム	63
含嗽用ハチアズレ顆粒	63, 66
乾燥硫酸鉄	55
カンデサルタンシレキセチル	52

き

キオフィーバ	29
キサラン点眼液	62
キズアワワ	39
キナプリル塩酸塩	52
キプレス	45
逆性石ケン	64
キャベジンUコーワ錠	48
キューバルエアゾール	46
キョウベリン錠	49
強ミヤリサン(錠)	32
キョーリン AP2 配合顆粒	43, 66
キンカン虫よけスプレーP	40

く

グ・スリーP	35
グアイフェネシン	30
グアヤコールスルホン酸カリウム	29, 30, 31
クールワン去たんソフトカプセル	30
クールワン鼻スプレー	34
クエチアピンフマル酸塩	54
クエン酸カリウム	56
クエン酸第一鉄ナトリウム	55
クエン酸ナトリウム水和物	56
組換え沈降 2 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	59
組換え沈降 4 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	59
グラクティブ錠	57
クラバモックス小児用配合ドライシロップ	57
クラビット錠・細粒	58, 67
クラビット点眼液	62
クラブラン酸カリウム	57
クラリシッド	58, 67
クラリス	58, 67
クラリスロマイシン	58, 67
クラリチン	47
グランダキシシン	55
クリアナール	44
グリクロピラミド	56
グリコピロニウム臭化物	45
グリコラン錠	56
グリシン	51
グリセリン	32, 49
グリセリン浣腸	32, 49
グリチルリチン酸	33, 36, 37, 38, 40
グリチルリチン酸一アンモニウム	51
グリチルリチン酸カリウム	33
グリチルリチン酸二カリウム	36, 37, 38, 39, 41
グリチルレチン酸	35, 38, 40, 41
グリチロン配合錠	51
クリノフィブラート	51

クリノリル錠	43
グリベンクラミド	56
グリマック配合顆粒	48
グリメピリド	56
クリンダマイシンリン酸エステル	63
クリンダマイシンリン酸エステル水和物	64
グルコバイ	56
グルコン酸カルシウム水和物	33
グレースビット	58
クレストール	51
クレゾールスルホン酸カリウム	44
クレナフィン爪外用液	64
クレマスチンフマル酸塩	46, 68
グレルン・ビット	28
クロザピン	54
クロザリル錠	54
クロタミトン	40, 41, 63
クロダミンシロップ	46
クロチアゼパム	53, 68
クロトリマゾール	35
クロナゼパム	55
クロバザム	55
クロフェダノール塩酸塩	44
クロベラスチン塩酸塩	44
クロモグリク酸ナトリウム	37, 46, 61, 62
クロルフェニラミンマレイン酸塩	30, 33, 34, 36, 37, 38, 39, 40, 43, 46, 68
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	44
クロルプロパミド	56
クロルヘキシジン塩酸塩	35
クロルヘキシジングルコン酸塩	38, 39, 40, 64

け

結合型エストロゲン	60
ケトチフェンフマル酸塩	33, 34, 37, 46, 61, 62
ケトプロフェン	39, 43, 64, 66
ケトプロフェン坐剤	43, 66
ケフラル	57, 67
ケフレックス	57, 67
ゲンタシン	63
ゲンタマイシン硫酸塩	62, 63, 64
ゲンタロール点眼液	62

こ

抗菌アイリス使いきり	36
合成ケイ酸アルミニウム	48, 67
合成ヒドロタルサイト	28
コーラック	32
コーラック坐薬タイプ	32
コデインリン酸塩	44
コデインリン酸塩水和物	44
コデステシントローチ	30
コデミン G トローチ	30
こどもパブロン坐薬	29
こどもリングルサット	28
コナン錠	52
コニール錠	52

コハク酸ソリフェナシン	50
コバシル錠	52
コミナティ筋注	59
コランチル A 顆粒	31
コリオバン	48
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	62
コリスチン硫酸塩	40
コルドリン	44
コルヒチン	56
コルヒチン錠「タカタ」	56
コロスキ	39
コロネル	50
コンク・アシドフィルス菌末	32
コンク・ビフィズス菌末	32
コンク・フェーカリス菌末	32
コンスタン錠	53, 68
コンタック 600 ファースト	33
コンタックせき止め ST	30
コンタック鼻炎 Z	33
コンタック鼻炎スプレー〈季節性アレルギー専用〉	34
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	36, 37
コンドロイチン硫酸ナトリウム	37
コンベック	64

さ

サーバリックス	59
細菌性脂肪分解酵素	49
ザイザル	47
サイレース錠	53, 68
ザイロリック錠	56
サインバルタカプセル	54
サカムケア a	39
サキサグリブチン水和物	57
酢酸 d- α -トコフェロール	36, 37
酢酸ノルエチステロン	60
サクロン Q	31
ザジテン	46
ザジテン AL 点眼薬	37
ザジテン AL 鼻炎カプセル	33
ザジテン AL 鼻炎スプレー α	34
ザジテン点眼液	62
ザジテン点鼻液	61
サトウ口内軟膏	38
ザナミビル水和物	59
ザファテック錠	57
サラテクト FA	40
サリチルアミド	29, 43
サリチル酸グリコール	40
サリチル酸メチル	40
サリベートエアゾール	66
サルタノールインヘラー	45
ザルトプロフェン	43, 66
サルブタモール硫酸塩	45
サルメテロールキシナホ酸塩	45
サロメチール FB ゲル α	39
サロメチールジクロローション	39
サロンパス EX	39
サワシリン	57, 66

酸化亜鉛	35, 40
酸化マグネシウム	29, 31, 49, 67
サンコバ点眼液	62
ザンタック錠	47
サンテ 40 プラス	36
サンテアルフリー新目薬	37
サンテ抗菌新目薬	36

し

ジアスターゼ	49, 67
ジアスメン	49, 67
ジアゼパム	53, 68
シアノコバラミン	35, 36, 62, 68
シーブリ吸入用カプセル	45
ジェイゾロフト	54
ジェニナック錠	58
ジェノゲスト	61
ジェミーナ配合錠	61
ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	32
歯科用キシロカイン	65
歯科用シタネスト-オクタプレシン	65
ジキリオンシロップ	46
ジクアス点眼液	63
ジクアホルナトリウム	63
シクレスニド	46
ジクロテクト PRO スプレー	39
ジクロテクト PRO テープ	39
ジクロフェナクナトリウム	39, 43, 64, 66
ジサイクロミン塩酸塩	31
ジスロマック	58
ジスロマック錠	67
ジソペイン錠	43, 66
シタグリプチンリン酸塩水和物	57
シタフロキサシン水和物	58
ジドロゲステロン	60
ジヒドロコデインリン酸塩	29, 30
ジフェニドール塩酸塩	47
ジフェニルピラリン塩酸塩	29
ジフェンヒドラミン	39, 40, 63
ジフェンヒドラミン塩酸塩	33, 35, 39, 40, 41, 46, 68
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	34, 47
ジブカイン塩酸塩	39
ジフルカンカプセル・ドライシロップ	59
ジフルコルトロン吉草酸エステル	64
ジフルプレドナート	64
ジブレキサ	54
シプロキサシ錠	58
ジプロフィリン	30, 34, 47
シプロフロキサシン塩酸塩	58
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	46, 68
次没食子酸ビスマス	61
シムビコートタービュヘイラー	45
シメチジン	47
ジメチルポリシロキサン	32, 48
シメトリド	43, 66
ジメモルファンリン酸塩	44
ジメンヒドリナート	47
シモアキュア	39

ジャディアンス錠	57
ジャヌビア錠	57
重質酸化マグネシウム	49
酒石酸トルテロジン	50
笑気ガス	66
硝酸イソソルビド	52
小児用バファリン C II	28
小児用ペレックス配合顆粒	43
ジョサマイシン	58, 67
ジョサマイシン錠	58, 67
シラザプリル水和物	52
ジルチアゼム塩酸塩	52
ジルテック	47
シロドシン	50
新エスベナントローチ	31
新型コロナウイルスワクチン(メッセンジャー-RNA ワクチン)	59
シングレア	45
人工涙液マイティア点眼液	63
新サルファ・ルビー	36
新サンテドウ α	36
シンバスタチン	51
新ビオフェルミン S 細粒	32
新ビオフェルミン S 錠	32
シンフェーズ T28 錠	60
新ブロン液エース	30
シンメトレル	59
新ルピカップ	30
新ルルエース	30
新ルル点鼻薬	34
新レシカルボン坐剤	49
新レシカルボン坐剤 S	32
シンレスタール	51
新レブメント-FN	39

す

水酸化マグネシウム	31, 32, 48
スイニー錠	57
スイマグ	31, 32
スーグラ錠	57
スカイナーAL 錠	33
スキャンドネスト	65
スキンベープミスト SH	40
スクラルファート水和物	48, 67
スコボラミン臭化水素酸塩水和物	34
スコルバ EX	41
スタディーALG	37
スタデルム	64
ステイバンパップ	64
ステーブラ	50
ストナアイビー	29
ストナ去たんカプセル	30
ストナリニ・ガード	33
ストナリニ Z	33
ストマオフ糖衣錠	31
スナイリンドライシロップ	49
スピリーバ	45
スプラタストシル酸塩	46
スポレキサント	54

スマイルコンタクトピュア	37
スマトリプタンコハク酸塩	43
スリンダク	43
スルーラックプラス	32
スルタミシリントシル酸塩水和物	57
スルピリド	54
スルファメキサゾール	36, 58
スルファメキサゾールナトリウム	36
スローソフト	34
スロービッド	45

せ

精製ヒアルロン酸ナトリウム	63
セイブル錠	56
セキトローチ	30
セスデンカプセル・細粒	48
ゼストリル錠	52
ゼスラン	46, 68
セタブリル錠	52
セチリジン塩酸塩	33, 47
セチルピリジニウム塩化物水和物	30, 38, 39, 66
セチルピリジニウム塩化物トローチ	66
セトラキサート塩酸塩	48
セニラン	53, 68
ゼノールエクサム SX	39
ゼノールエクサム液ゲル	39
セパミット	51
ゼビアックスローション	63
セピーAZ のどスプレークール	38
セファクロル	57, 66
セファドール	47
セファレキシム	57, 67
セフィキシム水和物	57
セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	57, 67
セフジトレンピボキシル	57, 67
セフジニル	57, 67
セフspan	57
セフゾン	57, 67
セフチブテン水和物	58
セフテムカプセル	58
セフテラムピボキシル	58, 67
セフポドキシムプロキセチル	58, 67
セフロキサジン水和物	57
セフロキシムアキセチル	57, 67
セルシン錠・散・シロップ	53, 68
セルテクト	46
セルベックス	48
セルラーゼ AP3	49
セルロシン A.P.	49, 67
セレキノン	50
セレコキシブ	43, 66
セレコックス錠	43, 66
セレニカ R	55
セレベント	45
セロクエル	54
繊維素分解酵素	49
センセファリン	57, 67
センノサイドカルシウム	32

センノシド	32
センノシド A・B	49
センノシド錠	49
センバア・QT	34
センバア QT<ジュニア>	34

そ

ゾーミグ	43
ゾニサミド	55
ゾピクロン	53, 68
ゾビラックス眼軟膏	62
ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム	59
ソファルコン	48
ソフィア A 配合錠	61
ソフィア C 配合錠	61
ソフティア点眼液	62
ソフトサンティア	37
ソフラチュール貼付剤	63
ゾフルーザ錠・顆粒	59
ソラナックス錠	53, 68
ソランタール錠	43, 66
ゾルピデム酒石酸塩	53
ゾルミトリブタン	43
ソレトン錠	43, 66
ソロン	48

た

タカデアスターゼ N1	31
ダイアルミネート	43, 66
耐性乳酸菌	49, 67
ダイプロセル	64
タイムコール去たん錠	30
タイレノール A	28
タイワケシノールトローチ	30
タウリン	36, 37
ダオニール錠	56
タガメット錠・細粒	47
タクロリムス水和物	63
タケキャブ錠	48
タケダ乗り物酔い止め	34
タケプロンカプセル・OD 錠	48
タナトリル錠	52
タナベ胃腸薬ウルソ	31
ダパグリフロジン	57
タフマック E	49, 67
タフルプロスト	62
タプロス	62
タベジール	46, 68
ダマリン L	41
ダマリン S	41
タミナス A 錠	33
タミフル	59
タムスロシン塩酸塩	50
ダラシン T	63
タリージェ	43
タリオン	47

タリビッド	62
タリビッド錠	58, 67
ダルメートカプセル	53, 68
炭酸水素ナトリウム	31, 32, 49, 63, 66, 67
タンナルビン	49
タンニン酸アルブミン	49

ち

チアトン	50
チアマゾール	60
チアミトール	64
チアラミド塩酸塩	43, 66
チウラジール錠	60
チオトロピウム臭化物水和物	45
チキジウム臭化物	50
チザニジン塩酸塩	44
チバセン錠	52
チペピジンヒベンズ酸塩	30, 44
チメピジウム臭化物水和物	48
チモール	40
チャルドール	49
チョコラ BB 口内炎リペアショット	38
チラーヂン S	60
チロナミン錠	60

つ

ツージーQ	32
-------	----

て

デアメリン S 錠	56
ティアーレ抗菌目薬	36
ディート	40
ディオバン	52
ディナゲスト	61
ディフェリンゲル	64
テオドール	45
テオフィリン	45
テオロング	45
テカリニウム塩化物	63, 66
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	64
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	29
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	30, 44
デキストロメトルファンフェノールフタリン塩	30
テグレートール	55, 69
デザレックス錠	47
デスロラタジン	47
デソゲストレル	60
デタントール	52
テツクール徐放錠	55
テトラサイクリン塩酸塩	58, 63, 66, 67
テトラサイクリン塩酸塩 pasta	66
テトラヒドロゾリン鼻用スプレー	61
デルシトールカプセル	50
テネリア錠	57
テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物	57

デパケン	55
デパス	53, 68
テプレノン	48
デプロメール錠	54
デベルザ錠	57
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	58
テモカプリル塩酸塩	52
デュアック配合ゲル	64
デュファストン錠	60
デュラグルチド	57
デュロキセチン塩酸塩	54
デラプリル塩酸塩	52
テラポニンセキトローチ	30
テラマイシン軟膏(ポリミキシン B 含有)	63
テラマイシン軟膏 a	40
テルギン G	46
テルネリン	44
テルピナフィン塩酸塩	41, 59, 64
テルペラン錠	48
テルミサルタン	52
デルモゾール G	64
テレミンソフト坐薬	49
デンターグル含嗽用散	66
天然ケイ酸アルミニウム	49, 67

と

糖化菌	50, 68
トーフチーム配合顆粒	43
ドキサゾシンメシル酸塩	52
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	58, 67
トクホン チール A	40
トクホン E	40
ドグマチール	54
トクレススパンスールカプセル	44
トコフェロール酢酸エステル	35, 37, 39, 40, 61, 68
トスキサシン錠	58, 67
トスフロキサシントシル酸塩水和物	58, 62, 67
トスフロ点眼液	62
トビエース錠	50
トピロキソスタット	56
トピロリック錠	56
トフィソパム	55
トホグリフロジン水和物	57
ドミフェン臭化物	66
トミロン	58, 67
トメダインコーワフィルム	32
トライコア錠	51
トラゼンタ錠	57
トラニラスト	37, 47, 62
トラネキサム酸	47, 69
トラバタンズ点眼液	62
トラベルミン	34
トラベルミン チュロップぶどう味	34
トラベルミン チュロップれもん味	34
トラベルミン・ジュニア	34
トラベルミン1	34
トラベルミン配合錠	47
トラボプロスト	62

トラマゾリン塩酸塩	61
トラマゾリン点鼻液	61
ドラマミン錠	47
トラメラス	62
トランコロン錠	50
トランサミンカプセル・錠・散・シロップ	47, 69
トランドラプリル	52
トリアゾラム	53, 68
ドリエル	35
トリキュラー錠 21、28	60
トリブラ S 錠	34
トリベノシド	61
トリメプリム	58
トリメブチンマレイン酸塩	50
トルソプト点眼液	62
ドルゾラミド塩酸塩	62
ドルマイシン軟膏	40
トルリシティ	57
トレドミン錠	54
トレラグリプチンコハク酸塩	57
ドロスピレノン	60
ドンベリドン	48

な

ナイキサン錠	43, 66
ナウゼリン	48
ナザール「スプレー」	34
ナザール αAR〈季節性アレルギー専用〉	34
ナシピン M スプレー	34
ナジフロキサシン	63
ナパゲルン	64
ナファゾリン塩酸塩	34, 39
ナファゾリン硝酸塩	61
ナフトピジル	50
ナブメトン	43
ナプロキセン	43, 66
ナポール	64
ナポール SR カプセル	43
ナボリン フェルビナク 70	39
なみだロートコンタクト	37
ナラトリプタン塩酸塩	43

に

ニカルジピン塩酸塩	51
ニコチン酸アミド	33
ニコチン酸ベンジルエステル	39
ニザチジン	31, 47
ニシミドン液小児用	30
ニソルジピン	52
ニッシンせき止め顆粒	30
ニトラゼパム	53, 68
ニトロール錠・R カプセル・スプレー	52
ニトログリセリン	52
ニトロダーム TTS	52
ニトロペン舌下錠	52
ニバジール錠	52

ニフェジピン	51
ニフラン錠	43, 66
ニフラン点眼液	63
ニポラジン	46, 68
乳酸菌	32
ニュータムシチンキゴールド	41
ニューロタン錠	52
尿素	41
ニルバジピン	52

ね

ネイリンカプセル	59
ネオキシテープ	50
ネオスチグミンメチル硫酸塩	36
ネオステリングリーンうがい液	66
ネオデイ	35
ネオファーゲン C 配合錠	51
ネオフィリン原末・錠	45
ネオヨジンうがいぐすり	38
ネオヨジン外用液	64
ネオレスタミンコーワ散	46
ネキシウムカプセル	47
ネクスト LX 液	41
ネクスト LX クリーム	41
ネクスト LX スプレー	41
ネシーナ錠	57
ネチコナゾール塩酸塩	64
ネリゾナ	64
ネルボン	53, 68

の

ノアール P ガード点眼液	37
ノアール SG	36
ノアール小児用	36
ノアールワン SG	36
ノアルテン錠	60
ノイエル	48
ノイロビタン配合錠	68
濃厚膵臓性消化酵素	49
濃厚パングレアチン	49
ノーシンアイ頭痛薬	28
ノスカピン	31
ノドロップコフ	30
ノナン酸パニリルアミド	40
ノニル酸ワニリルアミド	40
ノバミン	54
乗り物酔い止め QD 錠	34
ノルエチステロン	60, 61
ノルゲストレル	60
ノルバスク	52
ノルフロキサシン	58, 62
ノルレボ錠	60

は

バイエッタ	57
-------	----

バイエルアスピリン	28
ハイシー顆粒	68
ハイスキール	39
バイナス錠	47
ハイペン錠	43, 66
バイミカード錠	52
パイロン PL 顆粒	29
パイロン PL 錠	29
パイロン PL 錠ゴールド	29
パキシル	54
バキノ	43
バクシダール錠	58
バクシダール点眼液	62
白色ワセリン	39
バクタ	58
バクトラミン配合錠・配合顆粒	58
バシトラシン	40, 63
パスタタイム FX7	39
パセトシン	57, 66
バソレーターテープ	52
パタノール点眼液	62
バップフォー	50
バナナ	58, 67
バファリン A	28
バファリン EX	29
バファリン配合錠 A330	43, 66
バファリンルナ J	28
パブロン S ゴールド W 錠	30
パブロン S ゴールド W 微粒	30
パブロンうがい薬 AZ	38
パブロン点鼻クイック JL	34
パブロン鼻炎アタック JL	34
バラシクロビル塩酸塩	59
パラセタモール	43, 66
バラマイシン軟膏	63
バリアクト Hi クリーム	41
パリエット錠	48
ハリケイン	65
パリペリドン	54
バルコーゼ顆粒	49
バルサルタン	52
ハルシオン錠	53, 68
バルトレックス	59
ハルナール D 錠	50
バルニジピン塩酸塩	52
バルプロ酸ナトリウム	55
パルミコート	46
パルモディア錠	51
パロキサビル マルボキシル	59
パロキセチン塩酸塩水和物	54
パンクレアチン	49, 67
パンテノール	36, 40
バンテリンコーワ液 S	39
バンテリンコーワゲル LT	39
バンテリンコーワ新ミニパット	39
パンラクミン錠	31

ひ

ヒアレイン	63
ピーエイ配合錠	43
ビーゾカイン歯科用ゼリー	65
ヒーロン	63
ピオグリタゾン塩酸塩	56
ピオスリー配合錠	50
ピオチアスターゼ	31
ピオチアスターゼ 2000	31
ピオチン	31
ピオフェルミン R	49, 67
ピオフェルミン錠剤	49, 68
ピオフェルミン配合散	50, 68
ピオフェルミン便秘薬	32
ピクシリンカプセル・ドライシロップ	57, 66
ピクトーザ	57
ピコスルファートナトリウム水和物	32, 49
ピコダルム顆粒	49
ピコラックス	32
ピサコジル	32, 49
ピシャット下痢止め OD 錠	32
ヒストミン鼻炎カプセル Z	33
ピソルボン錠・細粒	44
ピタバスタチンカルシウム水和物	51
ピダラビン	41, 59
ヒダントール	55
ビデュリオン	57
ピドキサール錠	68
ヒドロキシエチルセルロース	37
ヒドロキシジン塩酸塩	47
ヒドロキシジンパモ酸塩	47
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	64
ヒビスコール S	39
ヒビテン	64
ビフィズゲン散	49, 68
ビフィズス菌	32, 49, 68
ビブラマイシン錠	58, 67
ヒプロメロース	37
ヒベルナ散・糖衣錠	46
ヒベンズ酸プロメタジン	46
ヒポカカプセル	52
ビホナゾール	41
ビュークリア AL クール	37
ビュースルー・ソフト	32
ビラスチン	47
ビラノア	47
ビランテロールトリフェニル酢酸塩	46
ピリドキサルリン酸エステル水和物	68
ピリドキシン塩酸塩	33, 34, 36, 37, 68
ビルダグリブチン	57
ヒルドイド	64
ピレチア	46
ピレンゼピン塩酸塩水和物	31
ピロエース Z 液	40
ピロキシカム	43
ピロキシリン	39
ヒロダーゼ	49
ピロット A 錠	33

ふ

ファイチ	35
ファボール錠 21、28	60
ファムシクロビル	59
ファムビル錠	59
ファモチジン	31, 47
フィニッシュコーワ	38
フェイス Z α ローション	39
フェイス Z ゲル	39
フェイスシップ	39
フェカリス菌	32
フェキソフェナジン塩酸塩	33, 47
フェソテロジンフマル酸塩	50
フェニトイン	55
フェノバル	55
フェノバルビタール	55
フェノバルビタールナトリウム	55
フェノフィブラート	51
フェブキソスタット	56
フェブリク錠	56
フェミニーナ 腔カンジダ錠	35
フェミニーナ軟膏 S	40
フェリブレシン	65
フェルビナク	39, 64
フェルムカプセル	55
フェロ・グラデュメット錠	55
フェロミア	55
フォシーガ錠	57
ブスコパン A 錠	31
ブスコパン錠	48
フスタゾール糖衣錠	44
ブチスコミン	31
ブチルスコポラミン臭化物	29, 31, 48
フッ化ナトリウム	38
ブデソニド	45, 46
ブテナフィン塩酸塩	41, 64
ブドウ糖	37
ブドステイン	44
ブトロピウム臭化物	48
ブナゾシン塩酸塩	52
フマル酸第一鉄	55
フラジオマイシン硫酸塩	63, 66
プラゾシン塩酸塩	52
ブラダロン	50
プラノバル配合錠	60
プラノプロフェン	37, 43, 63, 66
プラバスタチンナトリウム	51
フラビタン	62, 68
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	36, 62, 68
フラベリック錠	44
フラボキサート塩酸塩	50
フランドル	52
フランルカスト水和物	45
フリバス	50
プリピナ液	61
プリンゾラミド	62
プリンペラン錠・細粒・シロップ	48
フルカムカプセル	43

フルコナゾール	59
フルスルチアミン	68
プルゼニド錠	49
フルタイド	46
フルチカゾンフランカルボン酸エステル	46, 61
フルチカゾンプロピオン酸エステル	45, 46, 61
フルティフォームエアゾール	46
フルナーゼ	61
フルニトラゼパム	53, 68
フルバスタチンナトリウム	51
ブルフェン	43, 66
フルボキサミンマレイン酸塩	54
フルラゼパム塩酸塩	53, 68
フルルバンパップ	64
フルルビプロフェン	43, 64, 66
プレガバリン	43
フレッシュアイ AG	37
フレッシュングアクネクリーム	40
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	64
プレマリン錠	60
プレラン錠	52
プロクロルペラジンマレイン酸塩	54
プロクロルペラジンメシル酸塩	54
フロジン外用液	64
プロチゾラム	53, 68
プロテカジン	47
プロトピック軟膏	63
ブロナンセリン	54
プロパジール錠	60
プロバリン原末	53, 68
プロピトカイン塩酸塩	65
プロピペリン塩酸塩	50
プロピルチオウラシル	60
プロブコール	51
プロプレス錠	52
フロベン	43, 66
ブロマゼパム	53, 68
プロマック	48
ブロムヘキシシン塩酸塩	29, 30, 44
ブロムワレリル尿素	53, 68
ブロメタジン塩酸塩	46
ブロメタジンメチレンジサリチル酸塩	29, 43, 46
ブロメライン	61
フロモックス	57, 67
プロモバレリル尿素	53, 68
フロリード D クリーム	64
フロリードゲル	59, 67
フロリズム	35

へ

ペアアクネクリーム W	40
ペイسن	56
ペオン錠	43, 66
ベガモックス点眼液	62
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	34, 46
ベザトール SR 錠	51
ベザフィブラート	51
ベザリップ錠	51

ベシカム	64
ベシケア	50
ベタヒスチンメシル酸塩	47
ベタメタゾン吉草酸エステル	64
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	64
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	64
ベツセン H2	31
ベトネベート	64
ベナゼプリル塩酸塩	52
ベニジピン塩酸塩	52
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	48, 67
ヘパリン類似物質	39, 64
ペピオゲル	64
ペポタスチンベシル酸塩	47
ヘマニック	35
ペマフィブラート	51
ペミラストン点眼液	62
ペミロラストカリウム	33, 37, 62
ヘモクロンカプセル	61
ヘモナーゼ配合錠	61
ペラミビル水和物	59
ペリアクチン	46, 68
ペリオクリン歯科用軟膏	66
ペリオフィール歯科用軟膏	66
ベリチーム配合顆粒	49, 67
ペリンドプリルエルブミン	52
ペルジピン錠・散・LA カプセル	51
ベルソムラ錠	54
ヘルペシアクリーム	41
ヘルベッサ錠・R カプセル	52
ペルペリン塩化物水和物	49
ヘルミチン S 坐剤	61
ペレックストローチ	38
ペレックス配合顆粒	43
ペロスピロン塩酸塩水和物	54
ベンザ鼻炎スプレー	34
ベンザブロックトローチ	30
ベンザリン	53, 68
ベンザルコニウム塩化物	34, 38, 39, 41, 64
ベンズブロマロン	56
ベンゼトニウム塩化物	34, 39, 66
ペントキシベリンクエン酸塩	30, 44
ペントバルビタールカルシウム	53, 68
ベンプロベリンリン酸塩	44
ベンラファキシン塩酸塩	54

ほ

ホウ酸	63
ボグリボース	56
ポジナール M 錠	33
ホスホマイシンカルシウム水和物	58
ホスミン錠・ドライシロップ	58
ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	59
ボノブラザンフマル酸塩	48
ポビドンヨード	38, 63, 64, 66
ポポンピュメリ目薬 R	36
ホモクロミン錠	47, 68
ホモクロルシクリジン塩酸塩	47, 68

ポラキス錠	50
ボラギノール M 坐剤	35
ボラギノール M 軟膏	35
ボラザ G	61
ポラブレジンク	48
ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ	46, 68
ポリカルボフィルカルシウム	50
ポリトーゼ	49, 67
ポリパーゼ	49, 67
ポリフル	50
ポリミキシム B 硫酸塩	40, 63
ポルトレン	43, 64, 66
ポルトレン AC ローション	39
ポルトレン EX スプレー	39
ポルトレン EX テープ	39
ホルモテロールフマル酸塩水和物	45, 46
ポレー	64
ポンタール	43, 66
ボンラーゼ	49, 67

ま

マーズレン	48, 67
マーベロン 21, 28	60
マーロックス懸濁用配合顆粒	48
マイザー	64
マイスタン	55
マイスリー錠	53
マイトラベル錠	34
マキサカルシトール	64
マキロン S	39
マクサルト	43
マグミット	49
マステゲン錠	35
マズレニンガーグル散	63, 66
マニジピン塩酸塩	52
マミターゼ	49
マリゼブ錠	57
マルファ懸濁用配合顆粒	48
マレイン酸フェニラミン	34

み

ミオコールスプレー	52
ミオナール	44
ミカルデイス錠	52
ミグシス錠	43
ミグリトール	56
ミコナゾール	59, 67
ミコナゾール硝酸塩	36, 41, 64
ミニプレス錠	52
ミノキシジル	40
ミノサイクリン塩酸塩	58, 66, 67
ミノマイシン錠・カプセル・顆粒	58, 67
ミヤ BM	50, 68
宮入菌 (酪酸菌) 末	31, 32
ミヤリサン U 錠	31
ミリステープ	53

ミルタザピン	54
ミルタックスパップ	64
ミルナシブラン塩酸塩	54
ミルマグ液	31, 32
ミロガバリン	43

む

ムイロジン細粒	56
ムコサル	44
ムコスタ	48
ムコスタ点眼液 UD	63
ムコソルバン	44
ムコダイン	44
無水カフェイン	29, 30, 34, 43, 66
無水リン酸二水素ナトリウム	32, 49
ムヒ S	40
ムヒソフト GX	40
ムヒソフト GX 乳状液	40
ムヒのきず液	39
ムヒの虫よけムシペール α	40

め

メリアクト MS	57, 67
明治きず薬	38
明治きず軟膏	38
メイラックス	53, 68
メキタジン	33, 46, 68
メサデルム	64
メジコン散・錠	44
メジコン配合シロップ	44
メシル酸ガレノキサシン水和物	58
メストラノール	61
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	31
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	48
メデイトリート	36
メデイトリートクリーム	36
メトグルコ錠	56
メトクロプラミド	48
メトホルミン塩酸塩	56
メノエイドコンビパッチ	60
メバロチン	51
メピバカイン塩酸塩	65
メフェナム酸	43, 66
メペンゾラート臭化物	50
メリスロン錠	47
メルカゾール錠	60
メロキシカム	43
メンソレータムフレディ CC クリーム	36
メンソレータムフレディ CC 膾錠	36
メンタックス	64

も

モービック錠	43
モーラス	64
モキシフロキサシン塩酸塩	58, 62

モサブリドクエン酸塩水和物	48
モフェゾラク	43, 66
モメタゾフランカルボン酸エステル	46
モルシン	49, 67
モンテルカストナトリウム	45

や

ヤーズ配合錠	60
ヤクバンテープ	64
ヤクルト BL 整腸薬	32

ゆ

ユースキン I	40
ユースキン I ローション	40
ユースキン N	40
有胞子性乳酸菌(ラクボン原末)	31
ユナシン	57
ユニーサルファ目薬	36
ユニフィル LA 錠	45
ユニベイン L	29
ユベラ	68
ユリーフ	50
ユリノーム錠	56

よ

葉酸	35
幼児用 PL 配合顆粒	43
溶性ピロリン酸第二鉄	35

ら

ラキソベロン	49
酪酸菌	50, 68
ラクトール S	32
ラクトミン	32, 50, 68
ラタノプロスト	62
ラックビー R 散	49, 67
ラックビー微粒 N	49, 68
ラッパ整腸薬 BF	32
ラニチジン塩酸塩	47
ラニナミビルオクタ酸エステル水和物	59
ラノコナゾール	40
ラピアクタ	59
ラビネット P	38
ラフチジン	47
ラペプラゾールナトリウム	48
ラベルフィーユ 21 錠、28 錠	60
ラボナ錠	53, 68
ラマストン MX2	41
ラマストン MX2 液	41
ラマストン MX2 ゲル	41
ラマトロバン	47
ラミクタール	55
ラミシール	64

ラミシール AT 液	41
ラミシール AT クリーム	41
ラミシール錠	59
ラメルテオン	53
ラモセトロン塩酸塩	50
ラモトリギン	55
ラリキシ	57, 67
ランソプラゾール	48
ランツジルコーワ錠	43, 66
ランドセン	55

り

リアップ	40
リーゼ	53, 68
リオチロニンナトリウム	60
リキシセナチド	57
リクスミア	57
リザトリプタン安息香酸塩	43
リザベン	47
リザベン点眼液	62
リシノプリル水和物	52
リスパダール	54
リスベリドン	54
リスミー錠	53, 68
リゾチーム塩酸塩	30
リドカイン	34, 35, 40, 41, 61, 65
リドメックスコーワ	64
リナグリプチン	57
リパーゼ A	49
リバロ	51
リピディル錠	51
リピトール錠	51
リフレックス錠	54
リポール	56
リポクリン錠	51
リボスチン点眼液	62
リボトリール	55
リポバス錠	51
リポフラビン	30, 33, 68
硫酸鉄	55
リラグルチド	57
リリカカプセル	43
リルマザホン塩酸塩水和物	53, 68
リレンザ	59
リングルアイビー α 200	28
リン酸水素ナトリウム水和物	63
リン酸ニカリウム	66
リン酸ピリドキサール	33
リンデロン-DP	64
リンデロン-V	64
リンデロン-VG	64
リンラキサー錠	44

る

ルーラン錠	54
ルコナック爪外用液	64

ルセオグリフロジン水和物	57
ルセフィ錠	57
ルナベル配合錠 LD、ULD	60
ルネスタ錠	53
ルパタジンフマル酸塩	47
ルパフィン	47
ルピアール坐剤	55
ルビプロストン	49
ルボックス錠	54
ルミフェン	28
ルリコナゾール	64
ルリコン	64
ルリッド錠	58, 67
ルルのドスプレー	38

れ

レキソタン	53, 68
レクサプロ錠	54
レスキュラ点眼液	62
レスタミンコーワクリーム	63
レスタミンコーワ錠	46, 68
レスタミンコーワ糖衣錠	33
レスタミンコーワパウダークリーム	40
レスブレン錠	44
レダマイシンカプセル	58
レック H 坐剤	35
レック H 軟膏	35
レニベース錠	52
レバミピド	48, 63
レベチラセタム	55
レベニン	49, 67
レボカバスチン塩酸塩	62
レボセチリジン塩酸塩	47
レボチロキシナトリウム水和物	60
レボノルゲストレル	60, 61
レボフロキサシン水和物	58, 62, 67
レミカットカプセル	46
レメロン錠	54
レリフェン錠	43
レルパックス錠	43
レルベア	46
レンドルミン	53, 68

ろ

ローコール錠	51
ロート C キューブアミノモイスト	37
ロートアルガードクリアブロック Z	37
ロートアルガードクリアマイルド Z	37
ロートアルガードプレテクト	37
ロート抗菌目薬 EX	36
ロートゴールド 40	36
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	31, 47
ロキシシロマイシン	58, 67
ロキシニン	43, 64, 66
ロキシニン S	29
ロキシニン S ゲル	39

ロキソニン S テープ	39
ロキソニン S パップ	39
ロキソニン S プラス	29
ロキソプロフェンナトリウム水和物	29, 39, 43, 64, 66
ロコイド	64
ロサルタンカリウム	52
ロスバスタチンカルシウム	51
ロゼレム錠	53
ロナセン	54
ロバック U	40
ロフラゼブ酸エチル	53, 68
ロペミン	49
ロペラマックサット	32
ロペラミド塩酸塩	49
ロミノン三宝 Oz	31
ロラゼパム	53, 68

ロラタジン	47
ロラメット錠	53, 68
ロルカム錠	43, 66
ロルノキシカム	43, 66
ロルメタゼパム	53, 68
ロレルコ	51
ロンゲス錠	52

わ

ワイドシリン細粒	57, 66
ワイパックス錠	53, 68
わかもと整腸薬	32
ワコビタール坐剤	55

薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2021 年版

2021 年 5 月 1 日 発行

著 者

日本薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会

森 昌平、亀井 美和子、富永 孝治、永田 泰造、清水 大、青木 裕明
笠師 久美子、本田 昭二、原 博、小沼 祐之、高橋 正夫、山本 将之、
鈴木 波留子、岩倉 ひろみ、後藤 弘子、川副 陽子、大石 順子(WG 委員)

日本スポーツ協会 スポーツ医・科学委員会 アンチ・ドーピング部会

川原 貴、赤間 高雄、東 宏一郎、伊藤 静夫、大石 順子、小杉 義幸、
向井 直樹、渡辺 一夫、青野 博、深町 花子、細井 香菜女

協 力

三重県薬剤師会

静岡県薬剤師会 埼玉県薬剤師会 岡山県薬剤師会 兵庫県薬剤師会

秋田県薬剤師会 大分県薬剤師会 新潟県薬剤師会 千葉県薬剤師会

山口県薬剤師会 岐阜県薬剤師会 東京都薬剤師会 長崎県薬剤師会

和歌山県薬剤師会 岩手県薬剤師会 愛媛県薬剤師会 福井県薬剤師会

茨城県薬剤師会 鹿児島県薬剤師会

編 集・発 行 日本薬剤師会

〒160-8389 東京都新宿区四谷三丁目 3-1 四谷安田ビル 7 階

電 話 03(3353)1170 FAX 03(3353)6270

E-mail anti-doping@nichiyaku.or.jp

印 刷 興和印刷株式会社
